

2022年度
SYLLABUS
シラバス
— 履修の手引き —

千葉明德短期大学
保育創造学科

目 次

2022年度 シラバス

I. 履修要項

1. 保育者への道のり	3
2. 幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得にあたって	5
3. 履修要項	6
(1) はじめに	6
(2) 履修方法	7
(3) 履修登録	8
(4) 履修科目の決定の仕方	10
4. 教育課程	17

II. シラバス - 1年生 -

1年次開講科目一覧	27
シラバス	28

III. シラバス - 2年生 -

2年次開講科目一覧	69
シラバス	71

I. 履修要項

1. 保育者への道のり

明德での2年間の生活をどのように過ごすかは、みなさんの将来に大きくかわります。一人ひとりが目的に向かって自らを律し、学びを創りあげていくのです。日々の生活・授業は、4月の教務ガイダンスを受講し、各自が「履修要項」に基づいて諸手続きをしていくことによって組み立てていきます。

1. 学びのステージ

本学では4月から9月までを「前期」、10月から3月までを「後期」とし、1年を2期に分けて構成しています。従って、2年間で4期にわたって学習を進めていきます。保育創造学科の教育理念に基づいて「体験から学ぶ」をテーマに据えつつ、学びを重層的に積み重ねていく教育課程を編成しています。授業科目には、期毎に開講される「半期科目」（前期に開講される科目を「前期科目」、後期に開講される科目を「後期科目」といいます）と前期・後期を通して開講される「通年科目」があり（その他に一部、特定の期間に開講される「集中科目」があります）、それぞれに学習が評価され、単位が認定されます。それらは主要な学びのステージにおける皆さんの体験やそこからの学びと関連づけられ、確かな知識と実践力に結びつくよう配置されています。

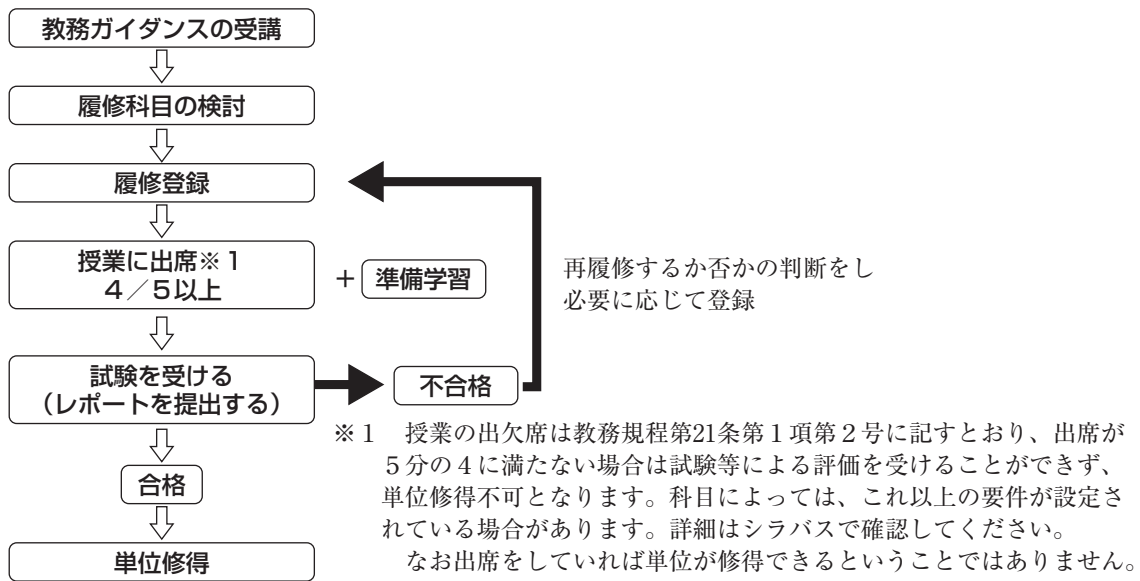
2. 短期大学士の「学位」授与

2年間の学びを修め卒業するためには、以下に示す流れの中で、必要な科目を履修し、単位を修得することが求められます。そして、必要な単位を修得すると卒業と同時に「短期大学士（保育）」の学位が授与されます。

「学位」とは、①学術の中心にある大学が与えるもので、②一定水準の教育を受け、知識・能力を持つと認められる者に与えられるものであり、③授与された学位は国際的にも通用するものです。

学位が授与されることに誇りを持ち、各自の責任において、よりよい学びが展開されるよう、卒業に向けて「単位を修得する」という意識を強く持ち2年間の生活を組み立て、努力を重ねることが大切です。

■単位修得までの流れ



■短期大学での学修の考え方

学則第22条に規定するとおり、短期大学では「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容」で構成することになっていますが、本学での授業時間数は、いずれも1単位45時間という基準以下（学則第21条別表参照）になっています。それは、本学での学修が、予習・復習や課題学習といった自主的な学習の時間を必須のものとして含んでいるからです（準備学習については各授業のシラバスに明記されています）。本学での学修でより重要なことは、シラバスなどを手がかりに、自らの疑問や関心に従って、進んで学んでいく姿勢を持つことです。

2. 幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得にあたって

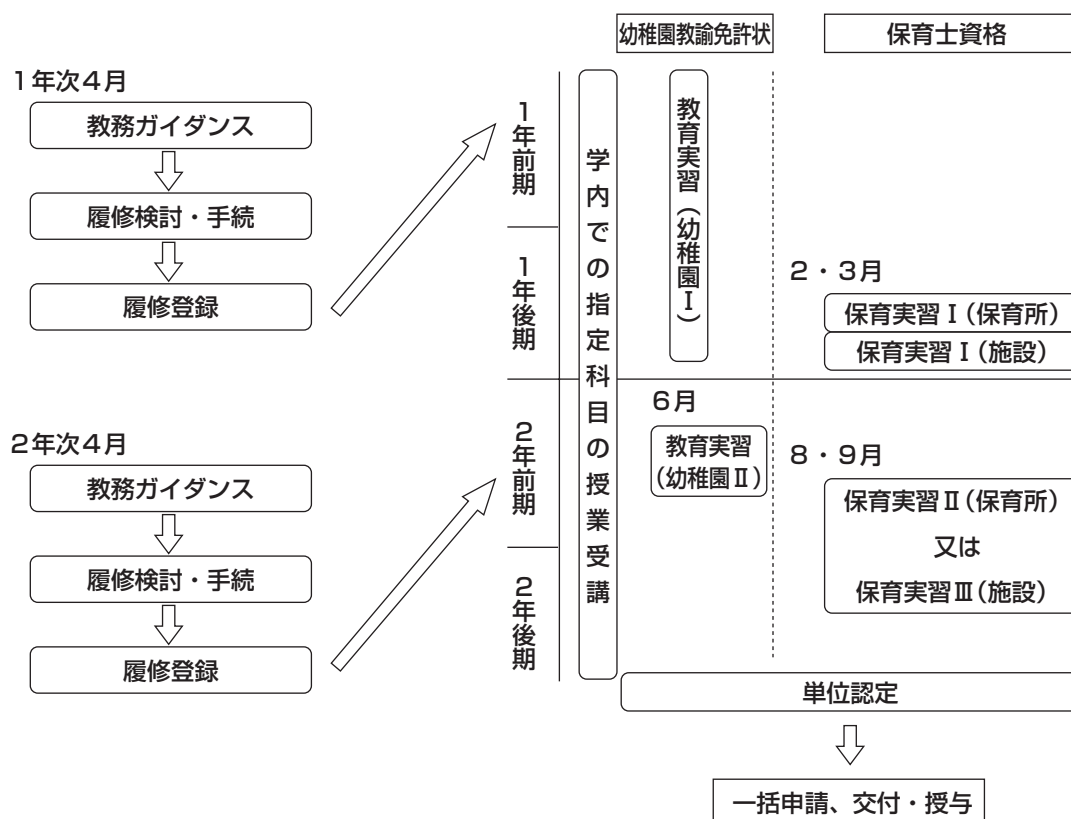
幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するだけでなく、教育課程表に示された免許状・資格の取得に必要なすべての科目を履修し、単位を修得する必要があります。そして、必要な単位が修得できた場合には、学生本人の申出に基づき、学校から免許状・資格の一括申請を行います（※1）。その結果、申請が承認された者には、「幼稚園教諭二種免許状」が卒業式において授与され、また、国家資格である「保育士資格」については、後日（卒業年の6月頃）、「保育士証」が都道府県から郵送されることとなります（※2）。

免許状・資格は、在籍していれば自動的に付与されるものではなく、一人ひとりの学生の責任に基づく履修登録、科目の履修、単位の修得そして申請という主体的な行動によって、その取得が可能になります。また、学修不足や教諭・保育士としての適性に疑義を生じる状況がある場合には、履修が認められない場合がありますので注意してください。

※1 申請にあたっての手続き料は各自の自己負担になります。

※2 3月31日付けで保育士として都道府県に登録され、「保育士登録済通知書」が郵送されてきます。「保育士証」が発行されるまでは、これをもって保育士登録がなされたことを証明します。

■幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得までの流れ



3. 履修要項

(1) はじめに

本学での学修は自らの責任において単位を修得し、目標を達成することが大切です。そのためにも履修に関するルールを十分に理解してください。

①卒業及び免許状・資格取得

本学に2年以上在学し、学則第21条別表に示す卒業必修科目及び単位を修得した者には、学則第30条第1項の規定により卒業が認められ、卒業者には同条第2項の規定により、「短期大学士（保育）」の学位が授与されます。さらには、学則第25条第2項及び第3項に定める所定の科目及び単位を修得した者は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格（※1）が取得できます。本学学生は、学則第1条の趣旨に鑑み、1年次から幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得に必要な科目を計画的に履修し、その取得を目指すものとします。

また、所定の科目及び単位（※2）を修得した者は社会福祉主事任用資格が取得できます。

※1 詳細は前項「幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得にあたって」に記載

※2 「教育原論」「保育原論」「社会福祉」「こども家庭福祉」

②開講期間

本学の授業科目の開講期間は、4月1日から9月30日までの「前期」、10月1日から3月31日までの「後期」、これらを通じた期間の「通年」、及び特定の期間に集中して授業を実施する「集中」に分類されます。

③授業期間及び授業時間

本学の授業期間は、学則第6条に定める休業日を除く月曜日から金曜日の期間です。休業日であっても、実習や集中授業、特別授業、補講が行われる場合があるので、学事日程や掲示を確認してください。

また本学の授業時間は、1時限目から5時限目で、各時限の開講時間は次の通りです。

1時限目	9：20～10：50	4時限目	15：10～16：40
2時限目	11：00～12：30	5時限目	16：50～18：20
3時限目	13：30～15：00		

④授業科目の区分

本学の授業科目は、その授業形態によって次の3種類に分類されます。

区 分	形 態
講 義	教員の話を中心にして学習を進める授業
演 習	学生の主体的な活動を教員が援助しながら学習を進める授業
実習・実技	学生の実体験を中心にして学習を進める授業

⑤授業科目の区分と単位数

学則第22条で、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることとされており、これに各授業科目の単位数を乗じるとその科目の必要な学修の時間数となります。この時間数は、学校での授業の時間数と学生が課外で行う準備学習の時間数との合計であり、1単位当たりの授業時間数は、以下を基準として、学則第21条別表に定められています。

講義・演習	15時間以上
実習・実技	30時間以上

また、授業時間の計算においては、1回90分の授業は2時間と見なすこととされています。

⑥出席要件

どの科目においても授業は全回出席するのが原則です。やむを得ない事情等で欠席する場合であっても、その出席が5分の4に満たない者は、教務規程第21条第1項2号により、試験等の評価を受けることができません。従って、単位修得のためには、全授業回数の5分の4以上の出席が絶対条件となります。科目によっては、より厳しい条件が設定されている場合があります。詳細はシラバスで確認してください。

また、遅刻・早退（※）は3回で欠席1回に換算されますから注意をしてください。

※ 遅刻・早退は30分以内に限られ、それ以上の場合には、原則として欠席になります。また、授業の一部が欠けると実質的に授業に参加できなくなる場合など、授業によっては一切遅刻・早退が認められない場合もあります。各授業での説明に注意をしてください。

(2) 履修方法

<1年生>

1年生の履修可能な科目は教育課程表（17～18ページ）の開講年次欄に1年と示された科目です。卒業必修科目、幼稚園教諭免許状必修科目、保育士資格必修科目、保育士資格選択科目などの区分に十分留意して、履修登録確認期間に配布する履修登録表をもって履修登録してください。（詳しくは(4)を参照）

科目によっては、グループ毎に又は学籍番号により、あらかじめ時間割が指定してあります。それらの科目については、原則として時間割表に指定された科目及び講義時間で履修してください。

また、「オーラル・コミュニケーションⅠ」は英語と中国語の選択科目です。「音楽表現演習Ⅰ」「音楽表現演習Ⅱ」はピアノとギターのコースがあります。それぞれの科目の説明にしたがい、選択の上、履修してください。

※ 1年次開講の科目を1年次に単位修得できなかった場合、時間割編成上、2年次にはその科目を履修できない場合もあります。1年次に単位を修得するよう心掛けてください。

< 2 年生 >

2 年生の履修可能な科目は教育課程表（17～18ページ）に示された全ての科目です。ただし、1 年次で単位修得した科目の再履修は出来ません。卒業必修科目、幼稚園教諭免許状必修科目、保育士資格必修科目、保育士資格選択科目などの区分に十分留意して、履修登録確認期間に配布する履修登録表をもって履修登録してください（選択にあたっての考え方については、(4)を参照）。

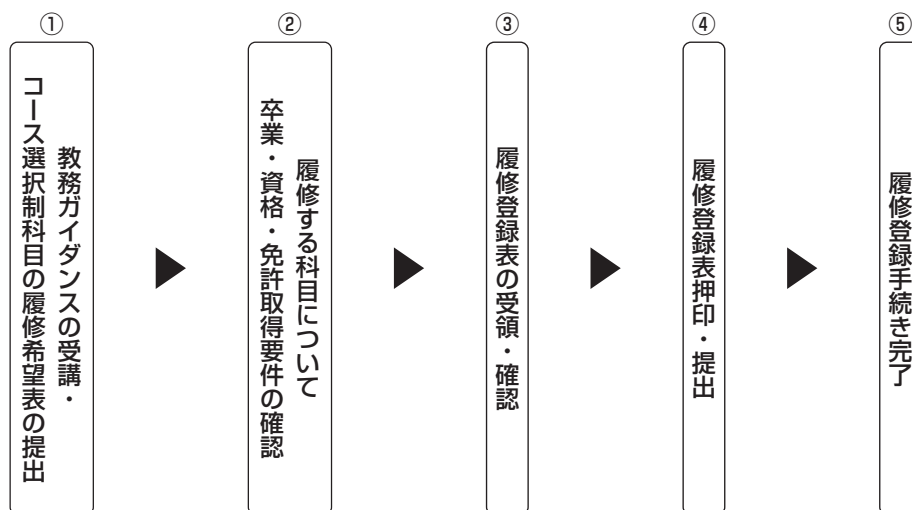
科目によっては、グループ毎又は学籍番号により、あらかじめ時間割が指定してあります。それらの科目については、原則として時間割表に指定された科目及び講義時間で履修してください。

また、2 年次では、いくつかの選択科目及びコース制の科目を用意しています。それぞれの科目の説明にしたがい、シラバスを熟読の上、各自の関心、目的意識に応じて選択し、履修してください。シラバスに示される科目ごとの定員は一応の目安です。科目により若干の変動の可能性がありますので、ガイダンスでの説明に注意してください。

(3) 履修登録

1) 登録の流れ

履修登録の大まかな流れは、下の図のとおりとなります。



① 教務ガイダンスの受講・コース選択制科目の履修希望表の提出

履修手続きや選択科目を中心とした科目の説明を行います。不明な点は質問してください。ガイダンスに欠席した場合、希望の授業が履修できなくなる場合があります。

コース選択制の科目については、教務ガイダンス後、調整・決定後、随時結果を発表します。履修登録表の受領・確認はこの決定にしたがって行ってください。

②履修する科目について卒業・資格・免許取得要件の確認

「教育課程表」、「時間割表」を参考にして、自分が履修した授業で単位修得することにより、卒業・資格・免許取得要件を満たすことができるかを確認してください。

③履修登録表の受領・確認

掲示板で指定した期日に履修登録表を受領し、履修登録確認期間に確認を行ってください。

誤った記入がされていた場合は、必ず履修登録確認期間に修正を行ってください。指定期間外での修正はできませんので注意してください。

④履修登録表押印（自署（フルネーム）でも可）・提出

履修登録表は、各自が事務室の所定の場所に提出してください。修正がある場合には朱書き（赤色ボールペン）にて修正し、押印をせずに、事務室教務グループに直接提出してください。修正した履修登録表を交付します。押印された履修登録表に不明な点がある場合には、再確認・再提出となることがあります。掲示等により呼び出しますので、指示に従って迅速に対応してください。

履修登録確認期間に提出できなかった場合、押印又は自署（フルネーム）がない場合は履修登録が無効となり、授業に出席しても単位を修得できませんので、十分注意をしてください。

提出期限	1年次開講科目・再履修科目	4月13日（水）
	2年次開講科目	5月9日（月）

⑤履修登録手続き完了

誤りのない履修登録表に押印して提出した時点で履修登録は完了となります。なお、履修登録に関して質問、相談がある場合には、教務担当教員または事務室教務グループに相談してください。

※後期履修修正期間

履修登録手続き完了後、後期から開始する科目の履修登録を取り下げたい場合は、以下の期間に事務室で所定の手続きを行ってください。なお、後期に履修登録科目を追加することはできません。

後期履修修正期間 10月4日（火）～6日（木）

(4) 履修科目の決定の仕方

基本的には「教育課程表」と「時間割表」をもとに、各自で履修科目を検討し決定していきますが、原則として「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」の両方を取得した上での卒業を目指しますので、その場合の履修科目の決定の仕方について、以下に説明をします。

< 1 年生 >

① 1 年次開講の卒業必修科目の履修

卒業必修科目（次ページの表では「卒必」と表示されています）は、卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目です。これらの科目の単位修得をしていないと、必要単位数以上修得していても卒業は認められませんので必ず履修してください。

② 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得必修科目の履修

幼稚園教諭免許状取得必修科目（次ページの表では「幼必」と表示されています）、保育士資格取得必修科目（次ページの表では「保必」と表示されています）は、それぞれ幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得するために必ず単位を修得しなければならない科目ですから、これらの科目も必ず履修してください。

■ オーラル・コミュニケーション I の履修

「オーラル・コミュニケーション I」は、2 年次開講の「オーラル・コミュニケーション II」と共に幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための選択必修科目（2 単位以上修得）です。2 年次に「オーラル・コミュニケーション II」で 2 単位を修得することも可能ですが、その場合、単位修得ができないと、その年度に免許状・資格の取得ができなくなります。1 年次に「オーラル・コミュニケーション I」を履修するようにしてください。

③ 保育士資格選択科目（保選）の確認

1 年次開講の保選科目は、「こどもと文化」「音楽表現演習 I」「音楽表現演習 II」です。2 年次開講の保選科目は、「あそび実践演習」「音楽表現演習 III」「音楽表現演習 IV」です。これらの科目は、保育の現場において必要となる技能を身につける科目であり、特にピアノは就職試験に多く取り入れられています。開講する全ての科目を履修するようにしてください。

教養基礎科目

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必
日本国憲法	2		○	
メディア・コミュニケーション	2		○	○
体育（理論）	1		○	○
体育（実技）	1		○	○
教養基礎演習	1	○		
教養総合演習	1	○		
キャリアデザインⅠ	1	○		

専門科目

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必
教育原論（教育に関する社会的、制度的事項を含む）	2		○	○
保育原論	2	○		○
発達心理学（講義）	2		○	○
発達心理学（演習） ※1	1		○	○
こども家庭支援の心理学	2			○
カリキュラム論	2		○	○
乳児保育Ⅰ	2			○
乳児保育Ⅱ ※2	1			○
特別支援保育Ⅰ ※3	1		○	○
こどもの保健（講義） ※4	2			○
保育内容演習（言葉と表現）	2		○	○
保育内容演習（健康と人間関係）	2		○	○
保育内容演習（環境）	1		○	○
保育者論Ⅰ ※5	1		○	○
教育実習（実習指導）	1		○	
教育実習（幼稚園Ⅰ） ※6	1		○	
保育実習指導Ⅰ ※7	2			○
保育実習Ⅰ（保育所） ※7	2			○
保育実習Ⅰ（施設） ※7	2			○
あそび基礎演習Ⅰ	2		○	○
あそび基礎演習Ⅱ	2		○	○
社会福祉	2			○
こども家庭福祉	2			○
社会的養護Ⅰ ※8	2			○

※1 「発達心理学（講義）」の単位を修得しなければ履修することはできません。

※2 「乳児保育Ⅰ」の単位を修得しなければ履修することはできません。

※3 単位が修得出来ない場合2年次に「特別支援保育Ⅱ」を履修することができません。

※4 単位が修得出来ない場合2年次に「こどもの健康と安全」を履修することができません。

※5 単位が修得出来ない場合2年次に「保育者論Ⅱ」を履修することができません。

※6 単位が修得出来ない場合2年次に「教育実習（幼稚園Ⅱ）」を履修することができません。

※7 単位が修得出来ない場合2年次に保育実習指導Ⅱ及びⅢ、保育実習Ⅱ及びⅢを履修することができません。

※8 単位が修得出来ない場合2年次に「社会的養護Ⅱ」を履修することができません。

④その他の留意事項

- ・科目の履修時限：時間割表に学籍番号をもって授業の曜日、時限を指定されている科目については、同一科目が他の曜日、時限に開設されていても、指定された時限以外での受講は認められません。指定された曜日、時限で履修してください。
- ・「オーラル・コミュニケーションⅠ」：英語と中国語の選択が可能です。希望に沿えない場合があります。また、授業時間は指定されます。
- ・「音楽表現演習Ⅰ」・「音楽表現演習Ⅱ」：複数のコースから1つを選択します。授業時間と担当教員は指定されます。
- ・「キャリアデザイン基礎」：必修科目ではありませんが、社会人として必要なルールやマナーについて考え、自己理解を深める授業です。但し、2022年度の開講はありません。

■実習

- 保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）を行なうためには、以下の条件を満たしていることが必要になります。
 - a. 次の科目のうち、2科目以上の単位を修得していること
 - ・発達心理学（講義）
 - ・保育原論
 - ・乳児保育Ⅰ
 - ・社会福祉
 - b. 1年次前期の科目のうち、単位修得不可が5科目を上回らないこと
 - c. 1年次前期終了時点でのGPAが1.1を下回らないこと
- 教育実習Ⅱを行なうためには、以下の条件を満たしていることが必要になります。
 - a. 次の科目のうち、3科目以上の単位を修得していること
 - ・教育原論
 - ・保育原論
 - ・発達心理学（講義）
 - ・発達心理学（演習）
 - ・カリキュラム論
 - b. 1年次の科目のうち、単位修得不可が5科目を上回らないこと
 - c. 1年次終了時点でのGPAが1.1を下回らないこと

■メディアを利用して行う授業

今年度は「発達心理学（演習）」において、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行う予定です。

< 2 年生 >

① 1 年次での単位修得科目の確認

はじめに、1 年次で単位を修得できた科目について確認をしておいてください。(11ページ)
 なお、修得できなかった科目があり、卒業ならびに免許状・資格の両方の取得を希望される方は、再履修が必要になります。その場合は履修相談を受けた上、履修登録をしてください。不明な点があれば、教務担当教員または事務室教務グループにお問い合わせください。

② 2 年次開講の卒業必修科目の履修

2 年次開講科目のうち、卒業必修科目は「現代社会論」「キャリアデザインⅡ」「専門総合演習」「卒業演習」です。これらの科目は必ず履修してください。

■現代社会論の履修

この科目は<総論>と<各論>の2つから構成されています。履修登録にあたっては<各論>を1つ選択してください(コース選択は、<総論>の中で行います)。

今年度の各論は以下の10コースが通年で開設されます。

テーマ	担当
芸術を教育・福祉へ	明石
子ども家庭福祉	小木曾
現代社会の中の犯罪—同じ社会に生きる者として	金子
短大生のワイドショー	佐藤
今どきの児童館・放課後児童クラブ・子育てサロン	鈴木
(前期)多様な背景をもつ外国人/(後期)多様な現実を生きる外国人	鶴田
人類学とフィールドワーク —文化と伝統を学ぶ—	松山
コンビニから社会の変化を考える	吉岡
「まちあるき」から社会を考える	鷺野
現代社会と関係する方法	渡辺

■専門総合演習、卒業演習の履修

「専門総合演習」が前期に、「卒業演習」が後期に、それぞれ13コース開設されます。

履修登録にあたっては、「専門総合演習」と「卒業演習」が同一の教員になるように選択してください。

《前期：専門総合演習》

テーマ	担当
子どもと芸術Ⅰ	明石
学内の子育て支援「たいむ」について学ぶ	池谷
子ども理解—他者理解Ⅰ	伊藤
子どもの姿を捉えるⅠ	井上
子どもの表現と表現する自分	大澤
他者理解を試みる ～様々な当事者に出会う～	大村
個人を尊重する人間関係を探るⅠ	金子
遊びの中の学びを分析する	郷家
保育における対話とプロジェクトⅠ	古賀
家族理解のためのアセスメント 基本編	佐藤
からだを学ぶ	田中
外国にルーツをもつ子どもⅠ	鶴田
遊びと保育者の援助について考えるⅠ	由田

《後期：卒業演習》

テーマ	担当
子どもと芸術Ⅱ	明石
様々な経験を通して考える私の保育観	池谷
子ども理解－他者理解Ⅱ	伊藤
子どもの姿を捉えるⅡ	井上
表現する自分を探究する	大澤
他者理解を試みる～当事者とのかかわる・当事者になる～	大村
個人を尊重する人間関係を探るⅡ	金子
幼児が夢中になって遊びこむためには？	郷家
保育における対話とプロジェクトⅡ	古賀
家族理解のためのアセスメント 応用編	佐藤
からだから学ぶ：関わる、動く、創る	田中
外国にルーツをもつこどもⅡ	鶴田
遊びと保育者の援助について考えるⅡ	由田

③幼稚園教諭免許状・保育士資格取得必修科目の履修

幼稚園教諭免許状ならびに保育士資格の2つを取得する場合には、以下の科目を履修する必要があります。

開講期	科目名	担当教員
前期	保育内容総論	泉澤
前期	こどもの健康と安全 ※1	有馬
前期	特別支援保育Ⅱ ※2	大村
前期	こどもの食と栄養Ⅰ	島本
後期	こどもの食と栄養Ⅱ	島本
後期	子育て支援	高橋
前期	保育方法論Ⅰ	伊藤・由田
後期	保育方法論Ⅱ	伊藤・由田
後期	保育者論Ⅱ ※3	伊藤・由田
後期	こども臨床学	大村
後期	保育・教職実践演習（幼稚園）	泉澤・大澤・古賀・鶴田・由田
前期	あそび技能演習	阿部・池谷・園田・山田
後期	社会的養護Ⅱ	砥上
前期	こども家庭支援論	佐藤

※1 「こどもの保健（講義）」の単位を修得していなければ履修できません。

※2 「特別支援保育Ⅰ」の単位を修得していなければ履修できません。

※3 「保育者論Ⅰ」の単位を修得していなければ履修できません。

■実習関連科目の履修

取得を希望する免許状・資格にあわせて、それぞれ必要な実習関連科目を履修する必要があります。

免許状/資格	科目名	担当教員
幼稚園教諭免許状	教育実習（実習指導）	池谷・大澤・郷家
	教育実習（幼稚園Ⅱ） ※4	
保育士資格	保育実習指導Ⅱ・保育実習Ⅱ ※5	井上・大村
	保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ ※5	金子・佐藤

※4「教育実習（幼稚園Ⅰ）」の単位を修得していなければ履修できません。

※5「保育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得していなければ履修できません。

④選択科目の履修

以上の諸科目を履修し、単位を修得することができれば、卒業要件を満たし、かつ幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得することができます。

しかし本学では、社会人としての素養や保育者としての資質を高め、視野を広げるために、以下の選択科目を開講しています。意義ある学修体験の機会として、できる限り履修し、大いに活用してください。

■教養基礎科目：フィールドワーク（わくわく体験研修）の履修

今年度は7コース開設されます。体験研修旅行の期間は、基本的に9月中旬となっておりますが、この他に通常授業期間を利用しての事前準備ならびに事後学習が随時組み込まれます。

科目名	テーマ	担当
フィールドワーク （人間と文化）	昔話が息づく町・遠野	泉澤
	自主上映会を開催しよう	大村
	ナイトウォーク in Chiba	古賀・鶴田
	千葉と世界のダンス鑑賞から学ぶ文化	田中
フィールドワーク （生活と社会）	東北スタディツアー	金子
	生活と文化を考える～富山県利賀村研修	由田
フィールドワーク （自然と環境）	プレーパークへいこう～ちばの遊び場について考える	由田

※なお、上記のうち同一科目の複数コースを履修することはできません。また、複数科目を履修する際は各コースの事前ガイダンスにおいて、日程の重複が無いことを確認してください。

※体験研修旅行は授業であり、旅行業者が提供するパック旅行ではありません。したがって、参加者には、現地では当然のことながら事前準備の段階から、受け身の姿勢ではなく主体的かつ積極的な姿勢で臨むことを求めます。また、現地では集団行動となりますので、他の参加者と協力する姿勢を持つことも必要です。

■教養基礎科目の履修

教養基礎科目については、上記フィールドワーク（わくわく体験研修）の他、「オーラル・コミュニケーションⅡ」が開講されています。1年次の学びをふまえ、より深い素養を培う機会となるでしょう。なお、今年度は「キャリアデザインⅢ」は開講しません。

■表現技術系科目の履修

専門科目のうち、下記の表にある「あそび実践演習（音楽）」「あそび実践演習（造形）」「あそび実践演習（運動）」「あそび実践演習（言葉）」「あそび実践演習（自然）」ならびに「音楽表現演習Ⅲ」は幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための選択科目となっています。

開講期	科目名	担当
後期	あそび実践演習（音楽）	阿部
後期	あそび実践演習（造形）	久保寺
後期	あそび実践演習（運動）	田中
後期	あそび実践演習（自然）	古賀
後期	あそび実践演習（言葉）	池谷
前期	音楽表現演習Ⅲ	明石・大澤・木村・清水・曾我・福中・松井
後期	音楽表現演習Ⅳ	明石・阿部・大澤・福中

4. 教育課程

入学年度の教育課程が卒業まで適用されます。

(1) 教育課程

表1 必要単位数

	卒業	幼免取得	保育士取得	幼免・保育士取得
卒業必修	14	14	14	14
選択科目	48 表2・表3より	45 (幼必) 3 表2・表3より	68 (保必) ※保育原論の単位数は 卒業必修に含まれて います	68 (保必) ※保育原論の単位数は 卒業必修に含まれて います 7 (幼必)
計	62	62	82	89

※「卒業」は卒業資格を取得するための最低単位数です。

※「幼免取得」は幼稚園教諭二種免許状のみを取得する場合、「保育士取得」は保育士資格のみを取得する場合の最低単位数です。

※「幼免・保育士取得」は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格をあわせて取得する場合の最低単位数です。なお、両者に重複する場合は「保必」にカウントしています。

表2 教育課程表（教養基礎科目）

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必	保選	区分	開講年次
①基礎科目系							
日本国憲法	2		○		○	講義	1年
メディア・コミュニケーション	2		○	○		講義	1年
オーラル・コミュニケーションⅠ	2		選択必修 2単位以上	選択必修 2単位以上		演習	1年
オーラル・コミュニケーションⅡ	2					演習	2年
体育（理論）	1		○	○		講義	1年
体育（実技）	1		○	○		実技	1年
小 計	10	0	8	6	2		
②教養総合科目系							
教養基礎演習	1	○				演習	1年
教養総合演習	1	○				演習	1年
フィールドワーク（人間と文化）	2				○	演習	2年
フィールドワーク（生活と社会）	2				○	演習	2年
フィールドワーク（自然と環境）	2				○	演習	2年
現代社会論	4	○				演習	2年
キャリアデザイン基礎	1				○	講義	1年
キャリアデザインⅠ	1	○				講義	1年
キャリアデザインⅡ	1	○				講義	2年
キャリアデザインⅢ	1				○	講義	2年
小 計	16	8	0	0	8		
教養基礎科目計	26	8	8	6	10		

表3 教育課程表（専門科目）

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必	保選	区分	開講年次
①教育・保育／理論系							
教育原論（教育に関する社会的、制度的事項を含む）	2		○	○		講義	1年
保育原論	2	○		○		講義	1年
発達心理学（講義）	2		○	○		講義	1年
発達心理学（演習）	1		○	○		演習	1年
こども家庭支援の心理学	2			○		講義	1年
カリキュラム論	2		○	○		講義	1年
保育内容総論	1		○	○		演習	2年
こどもの健康と安全	1			○		演習	2年
乳児保育Ⅰ	2			○		講義	1年
乳児保育Ⅱ	1			○		演習	1年
特別支援保育Ⅰ	1		○	○		演習	1年
特別支援保育Ⅱ	1			○		演習	2年
こどもの保健（講義）	2			○		講義	1年
こどもの食と栄養Ⅰ	1			○		演習	2年
こどもの食と栄養Ⅱ	1			○		演習	2年
子育て支援	1			○		演習	2年
小計	23	2	9	23	0		
②教育・保育／実践系							
こどもと健康	1		○	○		演習	2年
こどもと環境	1		○	○		演習	1年
こどもと言葉	1		○	○		演習	1年
こどもと表現	1		○	○		演習	1年
保育内容演習（言葉と表現）	2		○	○		演習	1年
保育内容演習（健康と人間関係）	2		○	○		演習	1年
保育内容演習（環境）	1		○	○		演習	1年
保育方法論Ⅰ	1		○	○		講義	2年
保育方法論Ⅱ	1		○	○		講義	2年
保育者論Ⅰ	1		○	○		講義	1年
保育者論Ⅱ	1		○	○		講義	2年
こども臨床学	2		○	○		講義	2年
保育・教職実践演習（幼稚園）	2		○	○		演習	2年
小計	17	0	17	17	0		
③教育・保育／実習系							
教育実習（実習指導）	1		○			演習	1・2年
教育実習（幼稚園Ⅰ）	1		○			実習	1年
教育実習（幼稚園Ⅱ）	3		○			実習	2年
保育実習指導Ⅰ	2			○		演習	1年
保育実習Ⅰ（保育所）	2			○		実習	1年
保育実習Ⅰ（施設）	2			○		実習	1年
保育実習指導Ⅱ	1			選択必修 1単位以上		演習	2年
保育実習指導Ⅲ	1			選択必修 2単位以上		演習	2年
保育実習Ⅱ	2			選択必修 2単位以上		実習	2年
保育実習Ⅲ	2			選択必修 2単位以上		実習	2年
小計	17	0	5	9	0		
④表現技術系							
あそび基礎演習Ⅰ	2		○	○		演習	1年
あそび基礎演習Ⅱ	2		○	○		演習	1年
あそび技能演習	2		○	○		演習	2年
あそび実践演習（音楽）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（造形）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（運動）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（言葉）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（自然）	1				○	演習	2年
こどもと文化	1				○	演習	1年
音楽表現演習Ⅰ	1				○	演習	1年
音楽表現演習Ⅱ	1				○	演習	1年
音楽表現演習Ⅲ	1				○	演習	2年
音楽表現演習Ⅳ	1				○	演習	2年
小計	16	0	6	6	10		
⑤福祉系							
社会福祉	2			○		講義	1年
こども家庭福祉	2			○		講義	1年
社会的養護Ⅰ	2			○		講義	1年
社会的養護Ⅱ	1			○		演習	2年
こども家庭支援論	2			○		講義	2年
小計	9	0	0	9	0		
⑥専門総合科目系							
専門総合演習	2	○				演習	2年
卒業演習	2	○				演習	2年
小計	4	4	0	0	0		
専門科目計	86	6	37	64	10		
合計	112	14	45	70	20		

※保育実習Ⅱを履修する場合保育実習指導Ⅱを、保育実習Ⅲを履修する場合保育実習指導Ⅲを履修すること。

シラバスの読み方

ナンバリング	※1	科目名	科目名が記載されています。		担当教員	担当教員名が記載されています。	
ディプロマポリシーとの関連性	※2	担当形態	※3				
テキスト	授業で使用する教科書が記載されています。			単位数 授業形態	単位数、授業形態 (講義・演習・実技・実習) が記載されています。	開講 時期	開講時期 (前期・後期・ 通年・集中) が記載 されています。
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 学生がこの授業を履修することで学習後に獲得することのできる（または到達できる）知識や技能等が記載されています。</p> <p>■授業の概要 どのような授業を展開していくのか、授業担当者の視点から包括的に記載されています。</p> <p>■授業計画 授業各回の内容が箇条書きで記載されています。 第1回 第2回 ・ ・ ・</p> <p>■準備学習 授業外での学習の指示であり、学生が必要な事前・事後学習を行うことを前提とし、授業内容に対応させただけ具体的な指示が記載されています。</p> <p>■評価方法 「到達目標」に対する学習成果の達成度を適切に評価できる方法とし、どのような観点によって成績をつけ、単位を付与するのか、それらの割合も含めて記載されています。</p>							
参考文献	授業の事前・事後の学習などに役立つ書籍について記載されています。			特記事項	授業に取り組む姿勢、必要な物品、学外学習の費用、定員等が記載されています。		
卒業・免許状・資格との関連	当該科目が、卒業・幼稚園教諭免許・保育士資格に関して、「必修」「選択必修」「選択」のどれに当てはまるか記載されています。			幼	※4		
				保	※5		
実務経験のある教員等による授業内容	実務経験のある教員として文部科学省に届出された教員については、ここに実務経験をどのように反映された授業を行うかが記載されています。						

※1 教育課程〈学びと育ち〉（1年生はP20、2年生はP21）と対応した番号となっています。

※2 当該科目の学習内容が、下記の本学ディプロマポリシーにおいて、どの項目の達成に関連することとなるかが記載されています。

- ① 子どもを受容・理解し、その主体性を認め、子どもの成長にかかわる者として基礎的知識と技術を身に付けている。
- ② 自らの行動の理解に努め、探求し続ける力（好奇心、関心、意欲、態度）を身に付けている。
- ③ 社会を理解することに努め、社会とつながるための基本的な力を身に付けている。
- ④ 他者を理解し、信頼関係を築くことのできる力を身に付けている。

※3 担当形態について「単独」「複数」「オムニバス」「クラス分け・単独」等の表記で記載されています。

※4 当該科目が教員免許養成課程告示科目のどの区分に当たるか記載されています。

※5 当該科目が保育士養成課程告示科目のどの区分に当たるか記載されています。

教育課程<学びと育ち>

千葉明德短期大学の教育課程においては、学生のみなさんの確かな<学びと育ち>につながるように、各授業科目が連動しあう学びの蓄積が用意されています。1年生では、図に示すようなねらいをもつ教科目を総合的に体験することを通して、基礎知識や技能を段階的に学び、確かなものとして修得していくこととなります。

各シラバスの「ナンバリング」欄には、この図に対応した番号が書かれています

(例：日本国憲法A①01)

1年前期（4月～9月）

1年後期（10月～3月）

☆ A教養基礎科目 ①基礎科目系

01日本国憲法 02メディア・コミュニケーション
03オーラル・コミュニケーションⅠ 04体育(理論)



05体育(実技)

社会に生きる一人の人間としての土台を養い、学ぶための基礎的な力を身につける。

☆ A教養基礎科目 ②基礎総合科目系

01教養基礎演習 02キャリアデザイン基礎



03教養総合演習 04キャリアデザインⅠ



保育者になる将来の自分像を見出し、目指す姿に向けて取り組むための基礎的な力を身につける。社会に生きる一人の人間として、人と関わり、学び、共に育つための態度や行動を体験を通して学ぶ。

☆ B専門科目 ①教育・保育/理論系

01教育原論 02保育原論 03発達心理学(講義)
04乳児保育Ⅰ
05こどもの保健(講義)



06発達心理学(演習) 07こども家庭支援の心理学
08カリキュラム論
09乳児保育Ⅱ 10特別支援保育Ⅰ



身近にある様々な教育の問題に興味をもち、自分なりの見解をもつことができる。子どもの健康や成長、発達に関する基本的知識と実践技能の基礎を身につけると共に、保育の計画についても理解する。

☆ B専門科目 ②教育・保育/実践系

01こどもと環境 02こどもと言葉
03保育内容演習(言葉と表現) 04保育内容演習(健康と人間関係)
05保育内容演習(環境) 06保育者論Ⅰ



03保育内容演習(言葉と表現) 04保育内容演習(健康と人間関係)
05保育内容演習(環境) 07こどもと表現



実際の子どもの姿や具体的な子どもとのかかわり、保育者の役割等を体験し知る中で、直接的、間接的な体験を教材としながら、子どもの姿やそこでのかかわりの意味を考え理解し、保育者の援助を知っていく。

☆ B専門科目 ③教育・保育/実習系

01教育実習(実習指導) 02教育実習(幼稚園Ⅰ)



03保育実習指導Ⅰ
04保育実習Ⅰ(保育所) 05保育実習Ⅰ(施設)



幼稚園、保育所、施設において、子どもや利用者がどのような生活をし、どのように人と関わり、どう成長を遂げるのかを理解する。実習生の基本的立ち振る舞いを身につけ、子ども理解や保育士の職務を深く考える。

☆ B専門科目 ④表現技術系

01あそび基礎演習Ⅰ 02音楽表現演習Ⅰ



03あそび基礎演習Ⅱ 04こどもと文化
05音楽表現演習Ⅱ



音楽・身体・造形・言語による総合的表現を体験すると共に、幼児の遊びとその他の活動を支える表現の基礎知識、保育の中で活用するための工夫、柔軟な発想力を学ぶ。表現に対して開かれた態度を持つ。

☆ B専門科目 ⑤福祉系

01社会福祉



02こども家庭福祉 03社会的養護Ⅰ

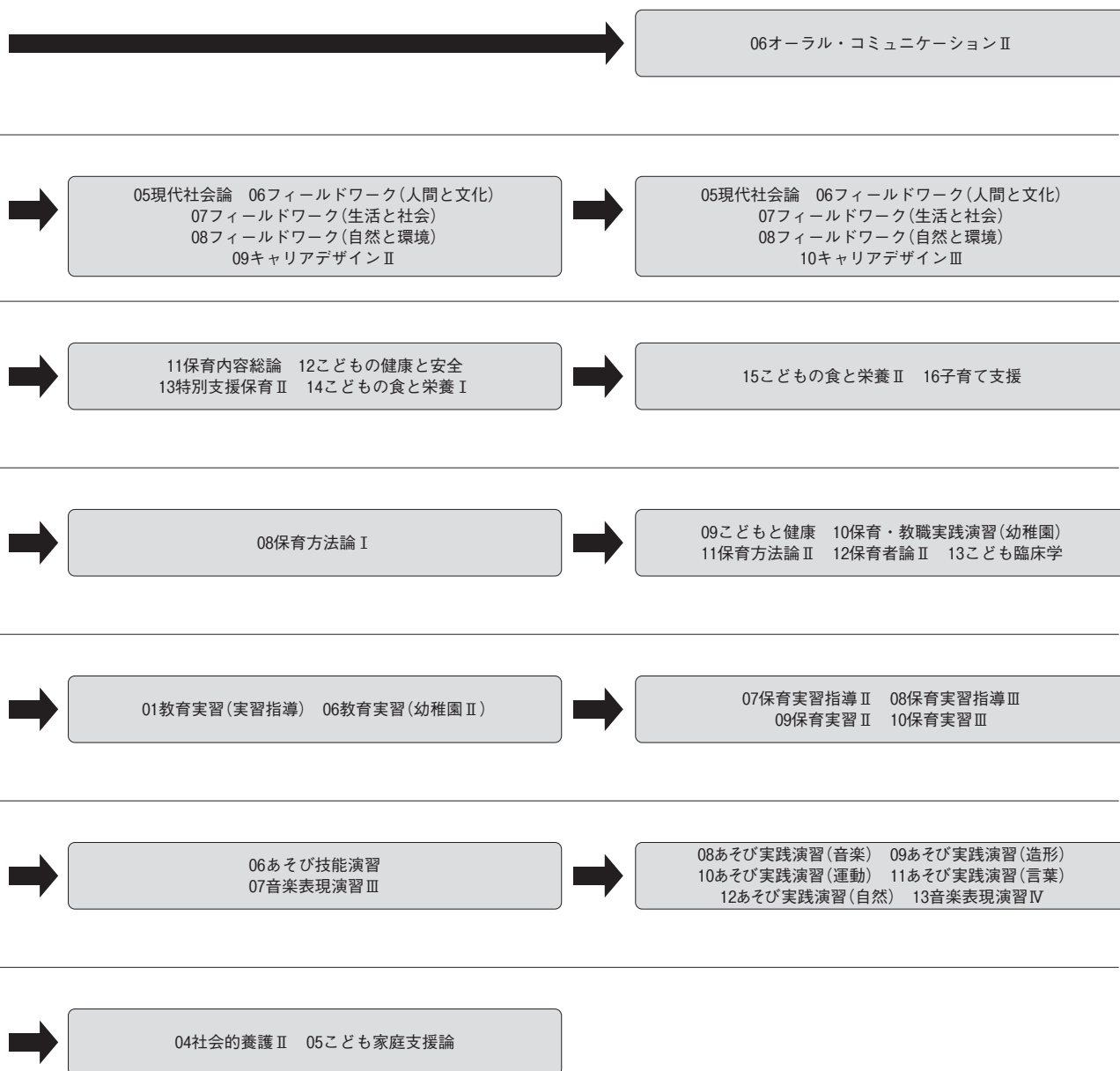


現代社会における社会福祉のあり方や現状、人権問題の視点を学ぶ。児童家庭福祉、社会的養護、様々な障害の理解、家庭の養育の支援などと保育の関連性を知り、福祉現場でどう生き、どう働くかを考える。

2年生では、学生のみなさんが自らの課題を見つめ、より学びを深めていくための取り組みを選択することとなります。1年生からの学びの連続性を維持し展開していきます。さらに、2年間で体験した各実習を教員と共に丁寧に振り返っていくことで、一人ひとりの体験が自らの<学びと育ち>の獲得となるよう全学的に取り組めます。

2年前期（4月～9月）

2年後期（10月～3月）



☆ B専門科目 ⑥専門総合科目系



保育者になる将来の自分像を明確化し、目指す姿の実現に向けて具体的な方法を考察する。

2022年度 実務経験のある専任教員 担当一覧

1年次

科目名	担当	実務経験	単位数	ページ数
教養基礎科目 ①基礎科目系				
日本国憲法	金子	弁護士としての活動の中から、担当した事案や判例の中から具体的事案を示し、学生に具体的に考え方を示していく。	2	28
カリキュラム論	郷家	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。	2	42
専門科目 ②教育・保育/実践系				
保育内容演習（言葉と表現）	池谷 ※表現	国外保育園での音楽と動きの教育についての講師経験、日本人学校での幼稚園教諭経験を有する。	2	50
保育内容演習（健康と人間関係）	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	2	51
	郷家	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。	2	
専門科目 ③教育・保育/実習系				
教育実習（実習指導）	池谷	国外保育園での音楽と動きの教育についての講師経験、日本人学校での幼稚園教諭経験を有する。	1	54
	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	1	
	郷家	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。	1	
教育実習（幼稚園Ⅰ）	池谷	国外保育園での音楽と動きの教育についての講師経験、日本人学校での幼稚園教諭経験を有する。	1	55
	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	1	
	郷家	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。	1	
保育実習指導Ⅰ	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	2	56
	古賀	保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。	2	
	佐藤	児童相談所での児童福祉士（地区担当、里親担当、虐待防止調整担当等）経験を有する。	2	
保育実習Ⅰ（保育所）	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	2	57
	古賀	保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。	2	
保育実習Ⅰ（施設）	佐藤	児童相談所での児童福祉士（地区担当、里親担当、虐待防止調整担当等）経験を有する。	2	58
専門科目 ④表現技術系				
あそび基礎演習Ⅰ	大澤	幼稚園（国内外）での教諭経験、及び、発達支援を目的とした音楽療法についての経験を有する。	2	59
	深谷	「こどもの城」において保育に携わり、親子工房、育児相談会等の企画運営経験を有する。	2	
あそび基礎演習Ⅱ	大澤	幼稚園（国内外）での教諭経験、及び、発達支援を目的とした音楽療法についての経験を有する。	2	60
	深谷	「こどもの城」において保育に携わり、親子工房、育児相談会等の企画運営経験を有する。	2	
こどもと文化	深谷	「こどもの城」において保育に携わり、親子工房、育児相談会等の企画運営経験を有する。	1	61
専門科目 ⑤福祉系				
社会福祉	佐藤	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。	2	64

2年次

科目名	担当	実務経験	単位数	ページ数
専門科目 ①教育・保育/理論系				
保育内容総論	泉澤	幼稚園での教諭勤務経験を有する。	1	91
専門科目 ②教育・保育/実践系				
保育・教職実践演習（幼稚園）	泉澤	幼稚園での教諭勤務経験を有する。	2	102
	古賀	保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。	2	
専門科目 ③教育・保育/実習系				
教育実習（実習指導）	池谷	国外保育園での音楽と動きの教育についての講師経験、日本人学校での幼稚園教諭経験を有する	1	103
	郷家	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。	1	
教育実習（幼稚園Ⅱ）	池谷	国外保育園での音楽と動きの教育についての講師経験、日本人学校での幼稚園教諭経験を有する。	3	104
	郷家	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。	3	
保育実習指導Ⅱ	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	1	105
保育実習指導Ⅲ	佐藤	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。	1	106
保育実習Ⅱ	井上	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。	2	107
保育実習Ⅲ	佐藤	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。	2	108
専門科目 ⑤福祉系				
こども家庭支援論	佐藤	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。	2	118

Ⅱ. シラバスー 1 年生ー

53回生 1年次 開講科目一覧

ナンバリング	科目名	担当	ページ
教養基礎科目 ①基礎科目系			
A①01	日本国憲法	金子	28
A①02	メディア・コミュニケーション	鶴田	29
A①03	オーラル・コミュニケーション I	郭・三戸	30・31
A①04	体育(理論)	田中	32
A①05	体育(実技)	厚東	33
教養基礎科目 ②教養総合科目系			
A②01	教養基礎演習	明石・金子・佐藤	34
A②03	教養総合演習	明石・金子・佐藤	35
A②04	キャリアデザイン I	金子	36
専門科目 ①教育・保育/理論系			
B①01	教育原論(教育に関する社会的、制度的事項を含む)	由田	37
B①02	保育原論	伊藤	38
B①03	発達心理学(講義)	滝沢	39
B①06	発達心理学(演習)	岩井	40
B①07	こども家庭支援の心理学	有馬・大村・佐藤	41
B①08	カリキュラム論	井上	42
B①04	乳児保育 I	千葉・細野	43
B①09	乳児保育 II	千葉・細野	44
B①10	特別支援保育 I	高橋	45
B①05	こどもの保健(講義)	有馬	46
専門科目 ②教育・保育/実践系			
B②01	こどもと環境	古賀	47
B②02	こどもと言葉	池谷・深谷	48
B②07	こどもと表現	明石・池谷・大澤・田中	49
B②03	保育内容演習(言葉と表現)	池谷・伊藤	50
B②04	保育内容演習(健康と人間関係)	井上・大村・郷家	51
B②05	保育内容演習(環境)	古賀・由田	52
B②06	保育者論 I	井上	53
専門科目 ③教育・保育/実習系			
B③01	教育実習(実習指導)	池谷・伊藤・井上・郷家・古賀・大村・由田	54
B③02	教育実習(幼稚園 I)	池谷・伊藤・井上・郷家・古賀・大村・由田	55
B③03	保育実習指導 I	伊藤・井上・金子・古賀・佐藤	56
B③04	保育実習 I(保育所)	伊藤・井上・古賀	57
B③05	保育実習 I(施設)	金子・佐藤	58
専門科目 ④表現技術系			
B④01	あそび基礎演習 I	大澤・田中・深谷	59
B④03	あそび基礎演習 II	大澤・田中・深谷	60
B④04	こどもと文化	池谷・深谷	61
B④02	音楽表現演習 I	明石・大澤・局・中谷・福中・松井	62
B④05	音楽表現演習 II	明石・大澤・局・中谷・福中・松井	63
専門科目 ⑤福祉系			
B⑤01	社会福祉	佐藤	64
B⑤02	こども家庭福祉	金子	65
B⑤03	社会的養護 I	砥上	66

※本年度はキャリアデザイン基礎は開講しません。

ナンバリング	A①01	科目名	日本国憲法		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	随時、資料を配付します。			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p>憲法は、国の在り方や国民の権利を定める一番の基本を定める法です。これまでも小学校・中学校・高校で学んできたはずですが、なかなか身近なものと感じることができないのではないかと思います。</p> <p>憲法を学ぶことで、私たちの生活の中の出来事が解決するわけではありませんが、その考え方を学ぶことで社会の中で大切なことは何か、みんなと生きる上で大切にすべき考え方を学ぶことができると思います。</p> <p>日常とかけ離れた話ではなく、できるだけ具体的なお話をしますので、憲法は何を言っているのだろう、どのような考え方をしているのだろうと一緒に考え、自らの意見を持ち論じることを到達目標とします。</p> <p>■授業の概要</p> <p>憲法が作られた経緯（歴史）を知り、そこから生まれた基本原則を確認していきます。次に、人権とは何か、人権の大切さ、人権の内容をみんなで考え、最後に、人権と人権がぶつかったときどう解決したらいいかを考えます。そして、国の統治の在り方、「国民主権て何？」ということを含んで考えます。</p> <p>そのための知識として、統治機構の説明をします。最後に、日本の国の将来の在り方を憲法がどのように描いているのかを考えたいと思います。</p> <p>また、授業の中で、いくつかのテーマを示し、討論する機会を設けたいと思います。他の人の意見を聞き、自分の意見を作っていくことを学んでください。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション・憲法ができるまで</p> <p>第2回 憲法の基本原則・基本的人権の尊重</p> <p>第3回 基本的人権概説</p> <p>第4回 自由権的基本権①</p> <p>第5回 自由権的基本権②</p> <p>第6回 人権と人権の衝突・調整</p> <p>第7回 社会権的基本権特に生存権について</p> <p>第8回 平和主義</p> <p>第9回 討論</p> <p>第10回 国民主権</p> <p>第11回 統治の機構概説（国の仕組み）</p> <p>第12回 地方自治</p> <p>第13回 憲法と現実の社会①</p> <p>第14回 憲法と現実の社会②</p> <p>第15回 まとめ ～もう一度歴史を振り返る、そして未来へ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の前に、前回の授業で何をしたかについて復習すること。 ・課題を与えた時は、自分の考えをまとめてくること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時のレポート — 70% ・討論への参加状況 — 30% 							
参考文献	「一番やさしい憲法入門 第4版」有斐閣			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポート等に対するコメントを行う。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格選択			幼保	第66条の6に定める科目 教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容	弁護士としての活動の中から、担当した事案や判例の中から具体的事案を示し、学生に具体的に考え方を示していく。						

ナンバリング	A①02	科目名	メディア・コミュニケーション		担当教員	鶴田真二	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
<p>■到達目標</p> <p>1) PC等の操作に必要なとなる基本的な技術を習得し活用できる。 2) 情報の取り扱い方について理解し説明できる。</p> <p>■授業のテーマ及び概要</p> <p>1) 本学では、学生は多くの授業において、PC等を用いてレポート作成等の課題に取り組みます。そこで、本授業では、授業時に提示された課題にPC等を使い取り組みます。 2) 近年、公的・私的を問わず、日常生活の様々な場面でインターネットを介した情報の受信・発信が行われるようになり、生活の仕方、働き方、人と人との関係の作り方等が大きく変化しています。インターネットの普及は、多くの人々に「便利さ」をもたらしていますが、一方で様々な問題も含んでいます。そこで、本授業では、インターネット依存・セキュリティ・AI・プライバシー・監視社会等をキーワードに、インターネットが張り巡らされた社会について考えます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション / PC等の操作・文書作成 (1) 第2回 PC等の操作・文書作成 (2) 第3回 PC等の操作・文書作成 (3) 第4回 PC等の操作・文書作成 (4) 第5回 PC等の操作・文書作成 (5) 第6回 PC等の操作・文書作成 (6) 第7回 情報の取り扱い方 (1) 第8回 情報の取り扱い方 (2) 第9回 情報の取り扱い方 (3) 第10回 情報の取り扱い方 (4) 第11回 情報の取り扱い方 (5) 第12回 情報の取り扱い方 (6) 第13回 情報の取り扱い方 (7) 第14回 情報の取り扱い方 (8) 第15回 まとめ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定された調べ学習を行うこと。 提示された課題を期限内に提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート — 50% 課題 — 50% 							
参考文献	適宜紹介します。			特記事項	・必要に応じて (指示します) PC等を各自持参して下さい。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートにはコメント等を行います。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	第66条の6に定める科目 教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A①03	科目名	オーラル・コミュニケーション I (英語)		担当教員	三戸一司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・④		担当形態	単独			
テキスト	毎回資料を配布します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な英語のコミュニケーションができる。 初歩的な英語の絵本と童謡が使える。 子どもたちが将来他文化圏の子どもたちと友好的に交わり、国際社会にも積極的に入っていけるようになるためのサポートができる。 <p>■授業の概要</p> <p>90分の授業を二回に分けます。第一部では英語の絵本や童謡の訳だけでなく、おもに表現方法、発音、イントネーション等を学んで、保育の現場で子供たちと一緒に英語の活動が楽しく出来るようにグループで練習します。毎回、代表グループを決めてクラスで発表もします。第二部では保育の現場で使える短い英語のフレーズを覚えて、英会話の演習をペアで行います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション、自己紹介を英語でやってみよう</p> <p>第2回 童謡1 “A, B, C Song” / 会話演習</p> <p>第3回 絵本1 “Brown Bear, Brown Bear, What do you see? (1)” / 会話演習</p> <p>第4回 絵本2 “Brown Bear, Brown Bear, What do you see? (2)” / 会話演習</p> <p>第5回 童謡2 “Ten Little Indians” / 会話演習</p> <p>第6回 絵本3 “The Very Hungry Caterpillar (1)” / 会話演習</p> <p>第7回 絵本4 “The Very Hungry Caterpillar (2)” / 会話演習</p> <p>第8回 童謡3 “Twinkle, Twinkle” / 会話演習</p> <p>第9回 絵本5 “Elephant and Piggie (1)” / 会話演習</p> <p>第10回 絵本6 “Elephant and Piggie (2)” / 会話演習</p> <p>第11回 童謡4 “London Bridge” / 会話演習</p> <p>第12回 絵本7 “Elephant and Piggie (3)” / 会話演習</p> <p>第13回 絵本8 “Elephant and Piggie (4)” / 会話演習</p> <p>第14回 童謡5 “Old MacDonald” / 会話演習</p> <p>第15回 総まとめと期末試験</p> <p>■準備学習</p> <p>授業の終わりに次に使う絵本のプリントや歌の楽譜などを配布するので予習してくる。分からない単語や表現等は事前に調べてくる。</p> <p>■評価方法</p> <p>演習をふくむ授業への取り組み60%</p> <p>期末試験40%</p>							
参考文献	トニー ミト『新 英語の歌がうたえる先生!』 ケーオープランニング(株)			特記事項	【課題などへのフィードバック方法】 試験は模範解答を提示して解説を行い、演習や発表に関しては教員がコメントし、ブラッシュアップを図る。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状選択必修 保育士資格選択必修			幼保	第66条の6に定める科目 教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A①03	科目名	オーラル・コミュニケーション I (中国語)		担当教員	郭 婷	
ディプロマポリシーとの関連性	①・④		担当形態	単独			
テキスト	「学漢語」白帝社			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語のピンインと声調の正確な発音を把握し、語彙と文章を正確に読むことができる。 中国語の基本的な文法構造を把握しながら、肯定文、否定文、各種類の疑問文を作り、中国語で会話ができる。 中国の伝統文化、人間関係と中国人の考え方、生活習慣を簡単に説明できる。 日本の文化と日本人の考え方、生活習慣を簡単な中国語で紹介できる。 <p>■授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語の発音の特徴を意識しながら、ピンインの子音と母音の練習をしっかりとし、二音節の組み合わせの発音を把握すると共に、センテンスや短文の発音も正しくできる力を身に付けます。 中国語の基本的な文法と表現を把握しながら、各種センテンスの回答練習を通し、自ら質問ができる力を身に付けます。 中国の伝統的な節日、食文化、中国人の生活習慣などを中国語の文章で練習しながら日本の文化と比較し、異文化について簡単な紹介ができる力を身に付けます。 <p>■授業計画</p> <p>第1回 概要説明、中国語発音の特徴・単母音、四声・簡単な挨拶。</p> <p>第2回 子音、発音練習、簡単会話。</p> <p>第3回 復母音、発音練習、簡単会話。</p> <p>第4回 二音節組み合わせ発音練習、基本文法、動詞述語文。</p> <p>第5回 二音節組み合わせ発音練習、動詞述語分。</p> <p>第6回 発音練習、形容詞述語文。</p> <p>第7回 数字の読み方、会話練習。</p> <p>第8回 国と出身の表現。</p> <p>第9回 家族成員の表現。</p> <p>第10回 動詞「在」と前置詞「在」の使い方。</p> <p>第11回 連動文。</p> <p>第12回 興味を表す。</p> <p>第13回 乗り物を使う表現。</p> <p>第14回 文法、総合応用会話。</p> <p>第15回 まとめ、期末試験</p> <p>■準備学習</p> <p>宿題をして、前回の授業の内容を復習しておくこと。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の積極的な練習と目標到達の状況、宿題の完成と復習 — 30% 期末試験 — 70% 							
参考文献	特になし。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 小テストとして行う会話では、教員が文法・表現・発音等についてコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状選択必修 保育士資格選択必修			幼保	第66条の6に定める科目 教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A①04	科目名	体育（理論）		担当教員	田 中 葵	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと共に生活する保育者として、さらに、生涯を通じて生き生きとした生活を営むひとりの人として、生活と体との関係を理解し、説明することができる。 子どもをとりまく生活環境と体との関係に関する知識を獲得し、子どもの“体を育む”保育者の役割について自分なりの考えを述べるすることができる。 ■授業の概要 本授業は、“体を育む”といった観点で展開します。今日では、私たちの体や生活習慣に影響を及ぼすさまざまなもの・ことが身のまわりに溢れています。そして、私たちは往々にしてそれらの情報や価値観に影響を受けています。したがって本授業では、まずそのような情報を知ることから自分自身の体と生活を見つめ直し、そのうえで、“体を育む”視点から、自身の体と生活、さらに子どもと共にある保育者の役割について考えることを目的とします。 ■授業計画 第1回 オリエンテーション 「体育」とは何か 第2回 身体文化の変容 第3回 生活と体の関係（1） 食生活：食習慣 第4回 生活と体の関係（2） 運動1：運動の意義 第5回 生活と体の関係（3） 運動2：生涯学習としての運動 第6回 生活と体の関係（4） 睡眠：睡眠のメカニズム 第7回 生涯にわたる運動発達・幼児期の運動の特徴 第8回 まとめ 生涯を通じて体と共に生きる人として、自身と子どもの“体を育む”ことについてレポート作成 ■準備学習 授業毎に、授業で取り扱われた内容について考察し、レポートを提出すること。 ■評価方法 ・授業毎のレポート — 75% ・まとめレポート — 25%							
参考文献	日下裕弘「生涯スポーツの理論と実践」大修館書店、2010 「幼児期運動指針実践ガイド」杏林書店、2014 中村和彦「子どものからだが危ない！—今日からできる からだづくり—」日本標準 2004. その他、授業で随時紹介する。			特記事項	毎授業、動きやすい服装で参加すること。 【課題等へのフィードバック方法】 授業毎のレポートにはコメント等を書き加えて返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	第66条の6に定める科目 教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A①05	科目名	体育（実技）		担当教員	厚 東 芳 樹	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	1単位 実技	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p>〔1〕 授業内で取り扱う運動教材に対して、幼児と一緒に安全に楽しめるための個人技術、声を掛け合うことや励まし合うことも含めた集団技術の習得ができること。とりわけ、「36の基本の動き」の存在を知り、それぞれの動きを習得するための動作の階層を説明できる。</p> <p>〔2〕 遊びを通して経験できる運動の意義や意味について理解し、先の〔1〕の内容と合わせて実践に適用できる。</p> <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、生涯に渡ってスポーツに親しむための運動に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけます。また、「なぜ幼児期の子どもにとって運動は必要なのだろうか?」「どのような遊びが幼児期の子ども達の身体発達を促すのだろうか?」という2つの問いに対して実技を通して学んでいきます。さらに、グループ単位で「36の基本の動き」を取り入れた「運動遊び」を創作し、お互いに発表し合いながら学んでいきます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 「幼少期に養いたい36の動き」の存在を知ろう（オリエンテーション）</p> <p>第2回 身体で楽しさを表現しようーリズムをとることの大切さについてー</p> <p>第3回 身体で楽しさを表現しようーダルマさんが転んだ・あんたがたどこさを工夫した遊びー</p> <p>第4回 縄跳びの遊びをやってみようー大縄跳び、ダブルダッチというリズムが異なる縄遊びー</p> <p>第5回 ボールを運ぶ、投げる、ける遊びをやってみようー空間認識能力を高める遊びー</p> <p>第6回 ボールを操作しながら遊べるようになるー幼児の身体的特徴からみた投動作の在り方ー</p> <p>第7回 しっぽとりゲームをやってみようー1対1の対人局面で求められる駆け引きー</p> <p>第8回 やる気スイッチの入れ方を知って自分達で試してみよう ー幼児体育の中で園児は何でつまづくのかー</p> <p>第9回 走る技術について知ろうー0歳児から小学生にかけて必要な走るための運動感覚とはー</p> <p>第10回 幼児が反応する「造形物」と「音楽」を利用しよう ーマット遊びで重要な四足歩行とズリ這い動作ー</p> <p>第11回 グループでの実践に向けた準備</p> <p>第12回 グループ実践発表（1）グループ1による実践発表及びフィードバック</p> <p>第13回 グループ実践発表（2）グループ2による実践発表及びフィードバック</p> <p>第14回 グループ実践発表（3）グループ3による実践発表及びフィードバック</p> <p>第15回 園児と一緒にスポーツフェスティバルを楽しもうーオンラインで幼稚園のフィールドに参加しよう</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児体育や体育授業の中で発生した事故事例は調べること。 ・グループでの打ち合わせや話し合い、準備等を行うこと。 ・授業中に提示された映像等（例：YouTubeで視聴可能な動画など）を視聴し、ミニレポートを提出すること。 <p>■評価方法</p> <p>学習内容の理解度、技術技能の習得度合いおよびチームビルディングへの関わり具合などを総合して評価する。具体的には、以下の4つの評価観点より評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題ー30% ・授業毎のミニレポートー30% ・グループでの実践ー30% ・仲間と協力して、安全管理・危機管理に留意しながらの実技能力ー10% 							
参考文献	前橋明編著 池谷仁志 [ほか] 著 (2020) 幼児体育指導ガイド3. 大学教育出版. その他、講義の中でその都度、紹介します。		特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポート課題提出後、模範解答を提示して解説を行います。			
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修		幼保	第66条の6に定める科目 教科科目			
実務経験のある教員等による授業内容	・幼稚園での体育実技の指導経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行います。						

ナンバリング	A②01	科目名	教養基礎演習		担当教員	明石 現 金子 重紀 佐藤 隆司																												
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	オムニバス																														
テキスト	適宜、授業中に提示する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期																											
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 本学2年間の「学び」の基礎作りとして「自ら学ぼうとする姿勢」と「他者に目を向けながら学ぶ姿勢」を身に付けることができる。</p> <p>■授業の概要 本授業は「学ぶ」楽しさを知るため、学生自ら授業に参加して発言することを基本とする。具体的に、私達の日常生活を取り巻く「安全保障」「自然科学」「現代史」に関して話題提供し、社会を形成する一員として「何ができて、何に配慮して、どんなことができるのか」を探究する。 なお、状況に応じてオンデマンド型授業を取り入れることとする。</p> <p>■授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>基礎学習</td><td>安全保障「日本人と太平洋戦争」(仮)(佐藤)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>基礎学習</td><td>安全保障「自衛隊を取り巻く環境の変化」(仮)(佐藤)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>基礎学習</td><td>安全保障「日本と台湾海峡」(仮)(佐藤)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>基礎学習</td><td>自然科学・基礎(金子)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>基礎学習</td><td>自然科学・基礎(金子)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>基礎学習</td><td>自然科学・基礎(金子)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>基礎学習</td><td>現代史・前半(明石)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>基礎学習</td><td>現代史・前半(明石)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>基礎学習</td><td>現代史・前半(明石)</td></tr> </table> <p>■準備学習 ・特に安全保障と現代史は、授業の前に中学校、高校の社会科における近代史を復習して授業に参加する。 ・授業内の課題に関して調査・検討するとともに、学んだことは整理しておく。</p> <p>■評価方法 ・授業参加(積極的な発言・取り組み) 60% ・レポート 40%</p>								第1回	基礎学習	安全保障「日本人と太平洋戦争」(仮)(佐藤)	第2回	基礎学習	安全保障「自衛隊を取り巻く環境の変化」(仮)(佐藤)	第3回	基礎学習	安全保障「日本と台湾海峡」(仮)(佐藤)	第4回	基礎学習	自然科学・基礎(金子)	第5回	基礎学習	自然科学・基礎(金子)	第6回	基礎学習	自然科学・基礎(金子)	第7回	基礎学習	現代史・前半(明石)	第8回	基礎学習	現代史・前半(明石)	第9回	基礎学習	現代史・前半(明石)
第1回	基礎学習	安全保障「日本人と太平洋戦争」(仮)(佐藤)																																
第2回	基礎学習	安全保障「自衛隊を取り巻く環境の変化」(仮)(佐藤)																																
第3回	基礎学習	安全保障「日本と台湾海峡」(仮)(佐藤)																																
第4回	基礎学習	自然科学・基礎(金子)																																
第5回	基礎学習	自然科学・基礎(金子)																																
第6回	基礎学習	自然科学・基礎(金子)																																
第7回	基礎学習	現代史・前半(明石)																																
第8回	基礎学習	現代史・前半(明石)																																
第9回	基礎学習	現代史・前半(明石)																																
参考文献	出口治明『教養としての世界史』祥伝社、2014年 (ISBN-13: 978-4396614836)		特記事項	・「授業の概要」のとおり、自ら授業に参加する姿勢を期待する。 【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは解説等を記入して返却又は授業内に解説する。																														
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼保	教養科目																														
実務経験のある教員等による授業内容																																		

ナンバリング	A②03	科目名	教養総合演習		担当教員	明石 現 金子 重紀 佐藤 隆司																												
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	オムニバス																														
テキスト	適宜、授業中に提示する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期																											
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 前期「教養基礎演習」の「自ら学ぼうとする姿勢」と「他者に目を向けながら学ぶ姿勢」に関して、より深く考察する視点を習得して自覚と責任を持って社会参加できる。</p> <p>■授業の概要 本授業は「自ら学ぼうとする姿勢」と「他者に目を向けながら学ぶ姿勢」に関して確実に理解を深めるため、後期は「家族問題」「自然科学」「現代史」の3テーマを通じて、更に一歩踏み込んで話題提供し、社会を形成する一員として具体的に「自分は何を意識して何に配慮して行動すべきか」を突き詰めることとする。 なお、授業の進捗状況又は学生の興味・関心のある時事ネタ等に応じて、若干、前後したり、内容を変更することもあり得る。また、状況に応じてオンデマンド型授業を取り入れることとする。</p> <p>■授業計画</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>基礎学習</td><td>家族問題「無縁社会」(仮)(佐藤)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>基礎学習</td><td>家族問題「子どもの貧困」(仮)(佐藤)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>基礎学習</td><td>家族問題「家族との別れ、家族との分かれ」(仮)(佐藤)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>基礎学習</td><td>自然科学・応用(金子)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>基礎学習</td><td>自然科学・応用(金子)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>基礎学習</td><td>自然科学・応用(金子)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>基礎学習</td><td>現代史・後半(明石)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>基礎学習</td><td>現代史・後半(明石)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>基礎学習</td><td>現代史・後半(明石)</td></tr> </table> <p>■準備学習 ・特に安全保障と現代史は、授業の前に中学校、高校の社会科における近代史を復習して授業に参加する。 ・授業内の課題に関して調査・検討するとともに、学んだことは整理しておく。</p> <p>■評価方法 ・授業参加(積極的な発言・取り組み) 60% ・レポート 40%</p>								第1回	基礎学習	家族問題「無縁社会」(仮)(佐藤)	第2回	基礎学習	家族問題「子どもの貧困」(仮)(佐藤)	第3回	基礎学習	家族問題「家族との別れ、家族との分かれ」(仮)(佐藤)	第4回	基礎学習	自然科学・応用(金子)	第5回	基礎学習	自然科学・応用(金子)	第6回	基礎学習	自然科学・応用(金子)	第7回	基礎学習	現代史・後半(明石)	第8回	基礎学習	現代史・後半(明石)	第9回	基礎学習	現代史・後半(明石)
第1回	基礎学習	家族問題「無縁社会」(仮)(佐藤)																																
第2回	基礎学習	家族問題「子どもの貧困」(仮)(佐藤)																																
第3回	基礎学習	家族問題「家族との別れ、家族との分かれ」(仮)(佐藤)																																
第4回	基礎学習	自然科学・応用(金子)																																
第5回	基礎学習	自然科学・応用(金子)																																
第6回	基礎学習	自然科学・応用(金子)																																
第7回	基礎学習	現代史・後半(明石)																																
第8回	基礎学習	現代史・後半(明石)																																
第9回	基礎学習	現代史・後半(明石)																																
参考文献	出口治明『教養としての世界史』祥伝社、2014年 (ISBN-13: 978-4396614836)			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の概要」のとおり、自ら授業に参加する姿勢を期待する。 【課題等へのフィードバック方法】 ・発表は口頭によりコメントする。 ・レポートは解説等を記入して返却又は授業内に解説する。 																													
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目																													
実務経験のある教員等による授業内容																																		

ナンバリング	A②04	科目名	キャリアデザイン I		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ・自らの暮らす地域の「子ども・子育て支援」について理解し、説明することができる。 ・自身の社会における将来像やキャリアについて検討し、書き表すことができる。 ・社会人（保育者）に必要な常用漢字の読み・書きを習得する。 ■授業の概要 本授業は、保育者として働くための意識の醸成をねらいとしている。 グループディスカッションを通し、自らの暮らす地域の「子ども・子育て支援」について理解を深めるとともに、自身が将来どのように社会と関わっていきたいのかを考える。 また、社会人（保育者）に必要な常用漢字の読み・書きの確認を行う。 ■授業計画 第1回 自身が暮らす地域の「子ども・子育て支援」の調査 第2回 調査結果の検討① グループ討議 第3回 調査結果の検討② グループによる再調査 第4回 調査結果のまとめ① 発表資料作成（Word） 第5回 調査結果のまとめ② 発表資料作成（PowerPoint） 第6回 発表会 第7回 発表会の振り返り 第8回 キャリアプランの見直し、まとめ ■準備学習 ・提示した課題に取り組み、期限内に提出すること。 ・自身のキャリアプランにおいて設定した課題を日頃から意識し、実行すること。 ・授業の冒頭に常用漢字の小テストを行うため、その予習をしておくこと。 ■評価方法 ・授業時間内に行われるグループディスカッションにおける積極性や発言内容 — 30% ・提示した課題の提出状況及び内容 — 25% ・キャリアプランの内容や課題への取り組み姿勢 — 25% ・常用漢字の小テスト — 20%							
参考文献	授業中に適宜紹介する。			特記事項	他の学生がどんなことを考えているのかわかるよう教員がコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①01	科目名	教育原論 (教育に関する社会的、制度的事項を含む)		担当教員	由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教育という働きについて理解し説明できる。 ・教育に関する思想や法的・制度的仕組みについて理解し、説明できる。 ・身近にある様々な教育の問題に興味を持ち自分なりの見解を持ち、説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>教育というと学校での教育をイメージしやすいと思いますが、教育＝学校ではありません。学校は「教育」のある部分を担ってはいますが、私たちは学校だけで成長しているわけではありません。この授業ではまず、学校以外での教育を考えます。そして、教育についての基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、今日の学校というシステムを見つめ直し、人が一人前の人間へと育っていくということの本質を考えていきます。それは、幼児教育や保育の考え方の理解へと繋がっていくと思います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 教育とは何か 第2回 なぜ教育が必要か 第3回 日々の生活の営みにある教育① 家庭・地域がもっていた教育力 第4回 日々の生活の営みにある教育② 子どもの遊び集団がもっていた教育的機能 第5回 人が育つ環境としての現代社会の課題（家庭・地域・社会） 第6回 近代公教育制度の成立と今日の学校の理念 第7回 今日の教育制度・保育制度とその課題 第8回 教育改革の動向と諸外国の教育事情 第9回 学校と地域の連携 第10回 近代教育思想の歴史 第11回 子ども観と教育思想 第12回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の考え方と方法 第13回 生涯学習社会と教育 第14回 安全教育と危機管理 第15回 現代教育の諸問題／総まとめ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくること。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート — 20% ・小テスト — 30% ・期末レポート — 50% 							
参考文献	青木久子「教育学への視座 —教育へのまなざしの転換を求めて」萌文書林 荻谷剛彦「学校ってなんだろう —教育の社会学入門」筑摩書房 門脇厚司「子どもの社会力」岩波書店			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 ・提出物には次回の授業の冒頭で教員がコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修 社会福祉士主任任用資格選択必修			幼保	教育の基礎的理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①02	科目名	保育原論		担当教員	伊藤 恵里子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	単独			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 その他、資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義と目的について理解し、説明することができる。 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の内容と方法の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の思想と歴史の変遷について理解し、説明することができる。 ・保育の現状と課題について考察し、意見を表明する。 ■授業の概要 保育所保育指針等における保育の基本について学び、保育の意義や目的を理解する。また、保育の内容と方法、法令や制度の基本、歴史の変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。							
■授業計画 第1回 「保育」とは何か：「保育」のイメージ 第2回 あらためて「保育」とは何か 第3回 保育の基盤としての子ども観 第4回 子ども理解から出発する保育 第5回 保育内容・方法の原理：保育の基本 第6回 保育内容・方法の原理：保育の一場面から 第7回 子どもが育つ環境の理解 第8回 保育実践から学ぶ①（第1～7回までのまとめ） 第9回 保育の計画と実践の原理 第10回 多様な子どもと共に育つ保育：多様性が求められる時代の保育 第11回 多様な子どもと共に育つ保育：保育の一場面から 第12回 保育の歴史に学ぶ 第13回 現代の子育てと子育て支援 第14回 保育実践から学ぶ②（第9～13回までのまとめ） 第15回 保育の現状と課題							
■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくること。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。 							
■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内コメントシート 20% ・授業内課題 30% ・期末レポート 50% 							
参考文献	授業内で紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 授業内コメントシートや課題に対しては、次回以降の授業でコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修 保育士資格必修 社会福祉主事任用資格必修			幼保	保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①03	科目名	発達心理学（講義）		担当教員	滝 沢 和香奈	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	繁多進（監修） 向田久美子・石井正子（著） 『新 乳幼児発達心理学—もっと子どもがわかる 好きになる—』（福村出版）			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 生涯発達の観点から、特に胎児期～青年期の発達の特徴を理解した上で、子どもの発達と保育実践に関わる基本的知識を習得する。 ・生涯発達という考え方を理解し説明できる。 ・各時期の発達の特徴を理解し、自分の言葉で説明できる。 ・特に、発達初期（乳児期・幼児期）の経験の大切さを説明できる。</p> <p>■授業の概要 「発達」というと、何かを「獲得する（できるようになる）こと」とイメージしやすいと思いますが、それだけではありません。この授業ではまず、発達心理学における「発達」の考え方を学びます。そして、特に乳幼児期の身体・認知・言語・社会性の発達について学びます。各発達段階の特徴を理解することは、保育者として、一人ひとりの子どもの発達過程に合わせた支援を考える際の基盤になります。</p> <p>■授業計画 第1回 オリエンテーション 発達とは：発達のイメージ 第2回 発達観、遺伝と環境、発達の研究法 第3回 胎児期 第4回 乳児期① 身体・神経系の発達 第5回 乳児期② 認知の発達 第6回 乳児期③ 社会性の発達 第7回 乳児期④ 乳児期のまとめ 第8回 幼児期① 自己の発達 第9回 幼児期② あそびの発達 第10回 幼児期③ 社会性の発達 第11回 幼児期④ 幼児期のまとめ 第12回 児童期・青年期 心身の発達 第13回 子どもの発達を支援する教員に求められる役割・資質能力 第14回 総まとめと期末試験 第15回 期末試験解説：全体の振り返り</p> <p>■準備学習 ・授業内で提示された課題を行うこと。 ・授業内で学んだことを復習し、理解しておくこと。</p> <p>■評価方法 ・コメントペーパーの内容と授業での取り組み — 20% ・期末試験 — 80%</p>							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	・講義は板書形式で行う。大学ノート（A4サイズ）・はさみ・テープのりを毎回持参すること。 ・講義形式ではあるが、議論やワーク等を行う予定であるため、授業への積極的な参加を期待する。 ・単位を修得できない場合、発達心理学（演習）は履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 ・試験は模範解答を提示して解説を行う。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	教育の基礎的理解に関する科目 保育の対象の理解に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①06	科目名	発達心理学（演習）		担当教員	岩井真澄	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	請川滋大著 子ども理解－個と集団の育ちを支える理論と方法			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 子どもと共に生活し、その育ちを支え、かかわりながら自らも育っていく者となるために、以下のことを目標にします。 ・子どもは遊びや生活の中で、生きるために必要な様々な経験をしていることを説明することが出来る。 ・子どもの発達理解に基づく援助という観点から、保育行為を捉えて記述することが出来る。</p> <p>■授業の概要 保育の現場で、子どもが身近な環境や人とかかわって体験することが、その子どもの発達とどう結びついているのか、またそれを援助するとはどういうことなのかを学びます。 授業では、実習等で出会った子どもの生活や遊び、保育者の援助や環境構成といったものを結びつけながら、子どもの発達を踏まえた保育実践について学びます。また、話し合い等のグループワークを通して、考察を深めていきます。 出来る限り自分の体験に引きつけて、実際にその場面に出会ったらどうするだろうか、という想像を働かせながら参加して下さい。</p> <p>■授業計画 第1回 ガイダンス 保育における子ども理解の意義 第2回 子どもの学びの評価 第3回 子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開 第4回 子どもにとっての生活や遊びと学び 第5回 子どもの主体的学びとは 第6回 環境としての保育者と子どもの発達 第7回 身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用 第8回 個と集団の発達を踏まえた保育 第9回 集団における経験と育ち 第10回 一人ひとりの発達に応じた保育 第11回 発達の課題に応じた援助と関わり 第12回 発達の連続性と就学への支援 第13回 現代社会における子どもの発達と保育の課題 第14回 これまでのまとめ 期末試験 第15回 期末試験解説 全体の振り返り</p> <p>■準備学習 ・教科書の該当部分を読み、実習や、これまで他の科目で学んできたことと関連づけながら理解してくること。 ・授業で課された自己学習、グループワークを行うこと。 ・授業終了後は、リアクションペーパーでその日の授業で感じたこと、学べたことをふりかえって整理し、期限までに提出すること。</p> <p>■評価方法 ・授業での取り組み（グループワークへの参加、レポート、発言内容） — 20% ・毎回のリアクションペーパー、または課題 — 30% ・期末試験 — 50%</p>							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 リアクションペーパーや課題等については、授業内に解説する等してフィードバックを行う。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	教育の基礎的理解に関する科目 保育の対象の理解に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①07	科目名	こども家庭支援の心理学		担当教員	有馬 祐子 大村 あかね 佐藤 隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	オムニバス			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できる。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、こどもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、活用できる。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、説明できる。 4. こどもの精神保健とその課題について理解し、説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、親子関係や家族関係について発達の観点から理解する。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や、こどもの精神保健等について理解し、その課題について学ぶ。</p> <p>■授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 「こども家庭支援」という視点について（佐藤・有馬・大村） 第2回 乳幼児期から学童期前期にかけての発達（大村） 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達（大村） 第4回 成人期・老年期における発達（大村） 第5回 親子関係・家族関係の理解（大村） 第6回 子育て経験と親としての育ち（大村） 第7回 家族・家庭の意義と機能（佐藤） 第8回 子育てを取り巻く社会的状況（佐藤） 第9回 ライフコースと仕事・子育て（佐藤） 第10回 多様な家庭とその理解（佐藤） 第11回 特別な配慮を要する家庭（佐藤） 第12回 こどもの生活・生活環境とその影響（有馬） 第13回 こどもの心の健康に関わる問題（有馬） 第14回 学修内容の確認（佐藤・有馬・大村） 第15回 まとめ 再び、「こども家庭支援」という視点について（佐藤・有馬・大村） <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に授業で指定された課題には必ず取り組み、予習をしておくこと。 ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（参加態度、発言内容、授業内課題、コメントシート） — 40% ・期末試験 — 60% 							
参考文献	適宜紹介します。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポートには、コメントをして返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の対象の理解に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①08	科目名	カリキュラム論		担当教員	井上裕美子 (郷家史芸)	
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	単独				
テキスト	「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」 及川 留美(著) 岩崎 淳子(著) 粕谷 亘正(著) 萌文書林			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における計画の意味と考え方を理解し、実際に指導案を作成することができる。 ・様々な計画とそれぞれの持つ特徴について理解し、説明できる。 ・環境を通して行う教育について説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>保育者の援助には必ず意図があり、その意図に基づいて子どもへの関わりや活動が行なわれている。ここで言う意図とは、一人ひとりの子どもの成長や発達の様子を見通し、それと照らし合わせながら、その時期その場面その子どもにとって適切であろうと判断しかかかっていく際の根拠となるものなのだ。保育のカリキュラム、すなわち保育における計画は、そうした日々子どもへの関わりや活動の意図を考えていく上での基本であり、そのため上記「到達目標」が設定されているのである。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 保育における計画の基礎的知識 第2回 保育における計画の種類とその意義 第3回 部分的な活動における指導計画の書き方 第4回 環境を通して行う教育にかかわる基礎的理解 第5回 環境を通して行う教育と保育課程 第6回 指導計画の反省評価 第7回 0歳児の発達に即した指導計画 第8回 1歳児の発達に即した指導計画 第9回 2歳児の発達に即した指導計画 第10回 3歳児の発達に即した指導計画 第11回 4-5歳児の発達に即した指導計画 第12回 保育における計画の変遷とその背景 第13回 地域に根ざした保育課程編成の検討 第14回 カリキュラム・マネジメントの意義とその重要性 第15回 カリキュラム論にかかわる基礎的事項の確認とこれまでの学習成果のまとめ</p> <p>■準備学習</p> <p>授業内配布のレジメを読み込んだ上で、次回までに内容を記述できるようにしておき、授業始めの小テストに臨む。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 — 50% ・授業内課題 — 30% ・授業内小レポート — 20% 							
参考文献	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 ・試験後、模範解答を提示して解説を行う。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼 保	教育の基礎的理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①04	科目名	乳児保育Ⅰ		担当教員	千葉 美江子 細野 陽子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②		担当形態	オムニバス			
テキスト	「やさしい乳児保育」青踏社			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2, 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3, 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と保育者が行うべき援助・配慮について理解する。 4, 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 乳児保育の意義・目的と役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 (2) 乳児保育の役割と機能 (3) 乳児保育における養護及び教育 2, 乳児保育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 (2) 保育所における乳児保育 (3) 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 (4) 家庭保育等における乳児保育 (5) 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 3, 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と保育者による援助・配慮 <ol style="list-style-type: none"> (1) おおむね0～6か月児の生活と遊び (2) おおむね6カ月～1歳未満児の生活と遊び (3) おおむね1歳児の生活と遊び (4) おおむね2歳児の生活と遊び・3歳以上児の保育への移行を踏まえて (5) こども同士の関わりと援助 4, 乳児保育における連携・協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員間・保護者との連携・協働 (2) 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う予定のテキストの箇所を事前に読んで出席すること。 ・授業終了後は、資料等に基づきノートを整理すること。 <p>その他、必要に応じて課題を提示するので、取り組んだ上で出席すること。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内の取り組み（討議や演習への積極的な取り組み） — 20% ・期末試験 — 80% <p>※再試験あり（おおそ試験結果発表後2週間以内）</p>							
参考文献	「保育所保育指針解説」 厚生労働省編			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を修得できない場合、乳児保育Ⅱは履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 試験後、模範解答を提示して解説を行います。 		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	保育所での勤務経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組み方法、また、その際の視点などに触れ、より実践的な授業を行います。						

ナンバリング	B①09	科目名	乳児保育Ⅱ		担当教員	千葉 美江子 細野 陽子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②		担当形態	オムニバス			
テキスト	「やさしい乳児保育」青踏社			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p><目標></p> <p>1, 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方の基本的な考え方について理解する。</p> <p>2, 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3, 乳児保育における配慮に実際について、具体的に理解する。</p> <p>4, 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。</p> <p><内容></p> <p>1, 乳児保育の基本</p> <p>(1) 子どもと保育士等との関係の重要性</p> <p>(2) 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり</p> <p>(3) 子どもの主体性の尊重と自己の育ち</p> <p>(4) 子どもの体験と学びの芽生え</p> <p>2, 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際</p> <p>(1) 乳児保育における環境を通じた関わり</p> <p>(2) 乳児保育における遊びの環境づくり</p> <p>(3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際</p> <p>(4) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際・演習</p> <p>(5) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際・演習</p> <p>(6) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際・演習</p> <p>3, 乳児保育における配慮の実際</p> <p>(1) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮</p> <p>(2) 集団生活や環境の変化における配慮</p> <p>4, 乳児保育における計画の実際</p> <p>(1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画</p> <p>(2) 個別的な指導計画と集団の指導計画</p> <p>○学習内容の確認と振り返り</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う予定のテキストの箇所を事前に読んで出席すること。 ・授業終了後は、資料等に基づきノートを整理すること。 <p>その他、必要に応じて課題を提示するので、取り組んだ上で出席すること。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内の取り組み（討議や演習への積極的な取り組み） — 20% ・期末試験 — 80% <p>※再試験あり（おおそ試験結果発表後2週間以内）</p>							
参考文献	「保育所保育指針解説」 厚生労働省編			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 試験後、模範解答を提示して解説を行います。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	保育所での勤務経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組み方法、また、その際の視点などに触れ、より実践的な授業を行います。						

ナンバリング	B①10	科目名	特別支援保育 I		担当教員	高橋 あい	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各障害の特徴や障害による日常生活への影響について、説明できる。 特別なニーズをもつ子どもの支援方法について、柔軟に考え、述べるができる。 様々な背景をもった子どもの育ちを支える保育者の役割について、自分の言葉で述べるができる。 <p>■授業の概要</p> <p>この授業では、各障害の特性を理解すると共に、そうした特性による影響が保育の場でどのように現れていくのか、映像や擬似体験を通して学んでいきます。そして、一人ひとりの子どもの健やかな育ちを支える支援について、柔軟に考えていきます。また、特別なニーズを持つ子どもが、他の子どもとの関わりの中で育ち合う場を作っていく上で、どのようなことを大切にしたいのか、自分なりに考え深めていきます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 「障害」とは 第2回 特別支援保育が目指すもの：インクルーシブ教育とは 第3回 知的障害児の理解と保育 第4回 指導計画および個別の支援計画の作成 第5回 個々の発達を促す環境と職員間の連携 第6回 肢体不自由児の理解と支援 第7回 障害や特別なニーズを持つ子どもの保育の現状と課題 第8回 合理的配慮と子ども同士の育ち合い 第9回 発達障害児の理解 第10回 ASDやADHDの特性と支援 第11回 視覚障害・聴覚障害児の理解と支援 第12回 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援 第13回 家庭や関係機関との連携 第14回 まとめ・期末試験 第15回 試験の解説・全体の振り返り</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で課された自己学習を行うこと。 授業内で学んだことを復習すること。また、疑問がある場合は質問をすること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題 — 15% 授業での取り組み — 45% 期末試験 — 40% 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 内山登紀夫 監修「こんなとき、どうする？発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園」ミネルヴァ書房 徳田克巳・水野智美 編著「障害理解 心のバリアフリーの理論と実践」誠信書房 			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業では、議論やワークを行う予定であるため、積極的な参加を期待する。 単位を取得できない場合、特別支援保育には履修できない。 【課題等へのフィードバック方法】 試験は模範解答を提示して解説を行う。 		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修			幼保	教育の基礎的理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①05	科目名	こどもの保健（講義）		担当教員	有馬 祐子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③・④		担当形態	単独			
テキスト	「子どもの保健」学建書院 「子育てハッピーアドバイス知っててよかった小児科の巻 増補改訂版」一万年堂出版			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できる。 2. こどもの身体的な発育・発達について理解し、説明できる。 3. こどもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、説明できる。 4. こどもの疾病の予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解し、説明できる。 ■授業の概要 こどもの心身の健康や、身体的な発育・発達と保健に関する基本的な知識を学ぶ。また、保育及び地域における、他職種間の連携・協働の下での保健活動の実状と、その意義を理解する。また、こどもの疾病の予防及び適切な対応について検討する。ディスカッション、発表も取り入れ、学習を深めていく。 ■授業計画 第1回 健康とは何か、保育におけるこどもの保健とは何か 第2回 健康状態観察のポイント 第3回 現代社会の子どもの保健に関する現状と課題 第4回 地域における保健活動とこどもの虐待防止 第5回 こどもの身体的発達と保健、発育の原則 第6回 運動機能の発達について 第7回 生理機能の発達について（脳、呼吸器、循環器） 第8回 生理機能の発達について（消化器、排泄、代謝系） 第9回 心身不調の早期発見について 第10回 発育・発達の評価について 第11回 保護者との情報共有について 第12回 感染症の予防および適切な対応 第13回 アレルギー疾患の予防及び適切な対応 第14回 口と歯の健康と適切な対応 第15回 試験・熱中症の予防及び適切な対応 ■準備学習 ・授業時に与えられた事前課題は、次回授業時までには必ず内容を把握し、出席時に提出すること。 ・授業の記録は、時々点検する予定なので、提出できるノートを用意し、記録の整理をしておくこと。 ■評価方法 ・授業時配付する課題（事前） — 28% ・授業中配付するワークシート — 28% ・期末試験 — 44%							
参考文献	授業中に適宜示す。			特記事項	・授業時には必要ないものを整頓し、片付けるべき道具はしまうこと。 ・課題の提出においては、書式、提出期日を守ること。 ・単位を修得できない場合、こどもの健康と安全は履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートには、コメントをして返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の対象の理解に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②01	科目名	こどもと環境		担当教員	古賀琢也	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	単独			
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に目を向け、こどもの育ちや保育への繋がりを意識できるようになる。 ・身近な動植物や、文化・歴史などについて、こどもと楽しみながら探求していく姿勢が身につく。 ・保育における、こどもと環境の関係性について、専門的知識を基に説明できる。 <p>■授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義および、フィールドでの観察やグループでの探索をもとに、身近な環境への探求を深めていく。それとともに身近な環境が、子どもの育ちにどのように関わるのか、保育や遊びの中で、どのように展開していくのかを考えていく。それらを通して、領域「環境」に関する視点や感性を養っていく。 <p>■授業計画</p> <p>第1回 学園内を探検し、お気に入りの場所や植物を見つけよう</p> <p>第2回 図鑑と仲良くなろう、継続的な観察と植物についての探求を楽しもう</p> <p>第3回 虫かごを持って、生き物を探しにいこう、観察しよう</p> <p>第4回 生き物についての探求を楽しもう</p> <p>第5回 私たちが暮らす地域には何がある？疑問・問いを膨らませよう</p> <p>第6回 フィールドに出かけてみよう、学外探検</p> <p>第7回 プロセスを大事にし、ドキュメンテーションで共有しよう</p> <p>第8回 まとめ期末レポート</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定された資料がある場合は、資料を読み、自分なりの考えをまとめておくこと ・各自が決めた場所で、継続的な観察を行う <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート 40% ・継続観察のレポート 20% ・グループワークへの参加の積極性 20% ・期末レポート 20% 							
参考文献	「保育所保育指針解説」 「幼保連携認定こども園教育・保育要領解説」等			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でのレポートだけでなく、グループでの議論やワークも行います。積極的な参加を期待します。・必要に応じて、学内外でのフィールドワークを行います。適宜、服装を調整して授業に臨むこと。 【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートにはコメント等を加えて返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目・環境 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	保育所、認定こども園での勤務経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組みの方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行う。						

ナンバリング	B②02	科目名	こどもと言葉		担当教員	池谷潤子 深谷ベルタ	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②		担当形態	単独			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標及びテーマ (1) 人にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明できる。 (2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、具体的な例を説明できる。 (3) 幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識を身につける。 ■授業の概要 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には、人間にとっての「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。 ■授業計画 第1回：人にとって「言葉」とは何か？ 一人間にとっての言葉の意義と機能 第2回：子どもは、言葉をどのように獲得するのか？ — 子どもの言葉の発達過程：誕生から、文字の獲得まで 第3回：「言葉に対する感覚」とは何か？ 一言葉の美しさ、楽しさを感じてみよう（演習） 第4回：言葉に対する感覚を豊かにする実践とは？ 様々な言葉遊びと保育への取り入れ方 第5回：子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えてみよう（演習） 第6回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは？ — 子どもにとっての「児童文化財」の意義 第7回：児童文化財の実際 一種類や歴史、保育への取り入れかた 第8回：児童文化財を用いた実践 一子どもと一緒に絵本（物語・紙芝居など）を楽しもう（模擬保育） ■準備学習 ■評価方法 ・授業への参加度（グループ活動、発表、模擬保育等） — 40% ・小レポート（毎回の授業での学びのふりかえり） — 30% ・最終レポート（授業での学びのふりかえりと今後の展開） — 30%							
参考文献	参考資料を適宜提示する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポートにはコメントを記入して返却する		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目・言葉 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②07	科目名	こどもと表現		担当教員	明池大田	石谷澤中	現潤ちづる葵
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	オムニバス				
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期	
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な専門的事項についての知識を身につける。</p> <p>■授業の概要 「あそび基礎演習Ⅰ」の授業の中で、自らが経験し学んだ表現活動や表現技術を基に、「表現とは何か」に立ち返り、表現について考える授業である。保育現場や乳幼児の具体的な実践例に触れながら、保育者としての専門的視点や知識を学ぶ。また、幼児理解を深めるために、幼児の表現の発達過程について学ぶことは必須である。保育者として幼児と関わる自分を想像しながら授業に臨むこと。</p> <p>■授業計画 第1回：表現とは何か？（担当：田中葵） 第2回：環境要因から見る表現の可能性（担当：明石現） 第3回：幼児の表現の発達の理解 ー身体表現ー（担当：田中葵） 第4回：幼児の表現の発達の理解 ー造形表現ー（担当：池谷潤子） 第5回：幼児の表現の発達の理解 ー音楽表現ー（担当：大澤ちづる） 第6回：保育現場における3歳児未満の表現活動（担当：池谷潤子） 第7回：保育現場における3歳児以上の表現活動（担当：明石現） 第8回：ICTの活用と総括（担当：大澤ちづる）</p> <p>■準備学習 事前に提示された課題に取り組み、準備しておくこと。</p> <p>■評価方法 ・授業毎のフィードバックシート ー 40% ・授業への取り組み（話合いに参加等）ー 40% ・総括レポート ー 20%</p>								
参考文献	「新しい保育講座11 保育内容 表現」 ミルネヴァ書房			特記事項	【課題等のフィードバック方法】 提出物には必要に応じてコメントをし、授業内で共有する。			
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修			幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目・表現 保育の内容・方法に関する科目			
実務経験のある教員等による授業内容								

ナンバリング	B②03	科目名	保育内容演習（言葉と表現）		担当教員	池谷潤子 伊藤恵里子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

この授業は、実際に子どもとかかわったり、保育者の子どもとかかわり等に触れる体験を通して、保育内容を領域「言葉」及び「表現」に焦点をあてつつ、総合的に学んでいきます。

- ・日々の生活やあそびの中で様々な体験をし、総合的に子どもが育つということを理解し説明できる。
- ・子どもが保育の中で体験している内容を知り、領域「言葉」「表現」の視点から説明できる。
- ・生活やあそびを支える子どもも理解や子どもとかかわり、保育者の援助を知り記録できる。

■授業の概要

実際に子どもとかかわりながら、具体的に保育の内容を学んでいくためには、「面白いな」「どうしてだろう」と自分なりに課題をもって取り組むことが学びの第一歩になります。

具体的には、皆さんの体験レポートを基に、子どもが伝えようとする姿や、豊かな感性をもち表現する姿を捉え、子どもを理解したり、保育者の援助を具体的に学んでいきます。同時に言葉や表現の育ちを概観していきます。

この授業では保育内容「言葉と表現」に焦点をあてて学びますが、子どもの活動やかかわりの中で独立したものではないことはすぐに理解できることでしょう。ここでは、その他の領域との関連についても触れながら進めていきます。また、他教科とも連携し、自分の身の周りの事物をも意識しながら学んでいきます。

■授業計画

- 第1回 事例と記録の検討（1）子どもとの触れ合いから
 - 第2回 事例と記録の検討（2）子どもの言葉への感覚や関心から
 - 第3回 事例と記録の検討（3）子どもの感性の豊かさや表現の多様さから
 - 第4回 事例と記録の検討（4）領域「健康」の視点から
 - 第5回 事例と記録の検討（5）領域「人間関係」の視点から
 - 第6回 事例と記録の検討（6）領域「言葉」の視点から
 - 第7回 事例と記録の検討（7）領域「環境」の視点から
 - 第8回 事例と記録の検討（8）領域「表現」の視点から
 - 第9回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、言葉による表現や音楽・身体・造形表現への心情や意欲を探る（1）理論
 - 第10回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、言葉による表現や音楽・身体・造形表現への心情や意欲を探る（2）実践
 - 第11回 保育内容領域間や、小学校教科等とのつながりを知る
 - 第12回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「言葉」のねらいと内容を考える～事例検討から
 - 第13回 保育内容「言葉」における保育実践の動向を知る
 - 第14回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「表現」のねらいと内容を考える～事例検討から
 - 第15回 保育内容「表現」における保育実践の動向を知る
 - 第16回 子どもの生活やあそびと保育内容「言葉」「表現」との関連を考える～事例検討から（1）理論
 - 第17回 子どもの生活やあそびと保育内容「言葉」「表現」との関連を考える～事例検討から（2）実践
 - 第18回 子どもの「言葉」の獲得と育ちについて知る（1）理論
 - 第19回 子どもの「言葉」の獲得と育ちについて知る（2）実践
 - 第20回 子どもの「表現」の多様さを捉える（1）理論
 - 第21回 子どもの「表現」の多様さを捉える（2）実践
 - 第22回 子どもの言葉や表現を豊かにする環境、援助の実際を知る（1）理論
 - 第23回 子どもの言葉や表現を豊かにする環境、援助の実際を知る（2）実践
 - 第24回 保育内容「健康」との関連性を確認する
 - 第25回 保育内容「人間関係」との関連性を確認する
 - 第26回 保育内容「環境」との関連性を確認する
 - 第27回 生活やあそびを総合的にとらえる（情報機器や教材の活用を含む）
 - 第28回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成する
 - 第29回 保育内容を踏まえた上で指導計画に基づき実践する
 - 第30回 保育内容を踏まえた上で実践後の振り返りを行い、評価の考え方を学ぶ
- 期末試験・期末試験解説

■準備学習

- ・皆さんの体験を基に授業を展開しますので、体験のレポートを書きます。
- ・授業後には授業の内容を再度皆さんの体験と結び付け、理論的な理解を深めることが必要です。
- ・グループや個人で、その都度必要な準備学習を行います。

■評価方法

- ・授業での取り組み（討議への積極的な参加、発言内容） — 40%
- ・期末試験 — 60%

参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府	特記事項	絵本「こどものとも」の年間購読をします。 【課題等へのフィードバック方法】 試験後、模範解答を提示して解説を行う。レポートにはコメント等を書き加え返却する。
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育の内容・方法に関する科目
実務経験のある教員等による授業内容	(池谷) 国外保育園での勤務経験を活かし、実際の課題はどんなものか、その解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行う。		

ナンバリング	B②04	科目名	保育内容演習（健康と人間関係）		担当教員	井上 裕美子 大村 あかね 郷家 史芸	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

この授業は、実際に子どもとかかわったり、保育者の子どもとかかわり等に触れる体験を通して、保育内容を領域「健康」及び「人間関係」に焦点をあてつつ、総合的に学んでいきます。

- ・日々の生活やあそびの中で様々な体験をし、総合的に子どもが育つということを理解し説明できる。
- ・子どもが保育の中で体験している内容を知り、領域「健康」「人間関係」の視点から説明できる。
- ・生活やあそびを支える子ども理解や子どもとかかわり、保育者の援助を知り記録できる。

■授業の概要

実際に子どもとかかわりながら、具体的に保育の内容を学んでいくためには、「面白いな」「どうしてだろう」と自分なりに課題をもって取り組むことが学びの第一歩になります。

具体的には、皆さんの体験レポートを基に、子どもが身体を動かしてあそび、他者とかかわりながら育つ姿に触れ、子どもを理解したり、保育者の援助を具体的に学んでいきます。少子化という現代的課題から、子ども同士のかかわり合いやその質の保障についても考えていきます。

この授業では保育内容「健康と人間関係」に焦点をあてて学びますが、子どもの活動やかかわりの中で独立したものではないことはすぐに理解できることでしょう。ここでは、その他の領域との関連についても触れながら進めていきます。また、他教科とも連携し、自分の身の周りの事物をも意識しながら学んでいきます。

■授業計画

- 第1回 事例と記録の検討（1）子どもとの触れ合いから
 - 第2回 事例と記録の検討（2）子どものあそびや運動から
 - 第3回 事例と記録の検討（3）子どもと他者のかかわりから
 - 第4回 事例と記録の検討（4）領域「健康」の視点から
 - 第5回 事例と記録の検討（5）領域「人間関係」の視点から
 - 第6回 事例と記録の検討（6）領域「言葉」の視点から
 - 第7回 事例と記録の検討（7）領域「環境」の視点から
 - 第8回 事例と記録の検討（8）領域「表現」の視点から
 - 第9回 子ども同士のかかわりと、その時々々の気持ちや葛藤、そこでの育ちに目を向ける（1）理論
 - 第10回 子ども同士のかかわりと、その時々々の気持ちや葛藤、そこでの育ちに目を向ける（2）実践
 - 第11回 保育内容領域間や、小学校教科等とのつながりを知る
 - 第12回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「健康」のねらいと内容を考える
 - 第13回 保育内容「健康」における保育実践の動向を知る
 - 第14回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「人間関係」のねらいと内容を考える
 - 第15回 保育内容「人間関係」における保育実践の動向を知る
 - 第16回 運動会などの行事と人間関係の育ちについて考える（1）理論
 - 第17回 運動会などの行事と人間関係の育ちについて考える（2）実践
 - 第18回 子どもの健康な生活と基本的な生活習慣の育ちについて知る（1）理論
 - 第19回 子どもの健康な生活と基本的な生活習慣の育ちについて知る（2）実践
 - 第20回 子どもの人とかかわりの育ちを概観する（1）理論
 - 第21回 子どもの人とかかわりの育ちを概観する（2）実践
 - 第22回 相互にかかわり合って育つ子どものあそび・人とかかわりの育ちとあそびの展開・体力、運動能力の育ちから（1）理論
 - 第23回 相互にかかわり合って育つ子どものあそび・人とかかわりの育ちとあそびの展開・体力、運動能力の育ちから（2）実践
 - 第24回 保育内容「言葉」との関連性を確認する
 - 第25回 保育内容「表現」との関連性を確認する
 - 第26回 保育内容「環境」との関連性を確認する
 - 第27回 生活やあそびを総合的にとらえる（情報機器や教材の活用を含む）
 - 第28回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成する
 - 第29回 保育内容を踏まえた上で指導計画に基づき実践する
 - 第30回 保育内容を踏まえた上で実践後の振り返りを行い、評価の考え方を学ぶ
- 期末試験・期末試験解説

■準備学習

- ・皆さんの体験を基に授業を展開しますので、体験のレポートを書きます。
- ・授業後には授業の内容を再度皆さんの体験と結び付け、理論的な理解を深めることが必要です。
- ・グループや個人で、その都度必要な準備学習を行います。

■評価方法

- ・授業での取り組み（討議への積極的な参加、発言内容） — 40%
- ・期末試験 — 60%

参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府	特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 試験後、模範解答を提示して解説を行う。レポートにはコメント等を書き加え返却する。
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育の内容・方法に関する科目
実務経験のある教員等による授業内容	(井上) 保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。 (郷家) 認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。		

ナンバリング	B②05	科目名	保育内容演習（環境）		担当教員	古賀 琢也 由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

この授業は、実際に子どもとかかわったり、保育者の子どもとかかわり等に触れる体験を通して、保育内容を領域「環境」に焦点をあてつつ、総合的に学んでいきます。

- ・日々の生活やあそびの中で様々な体験をし、総合的に子どもが育つということを理解し説明できる。
- ・子どもが保育の中で体験している内容を知り、領域「環境」の視点から説明できる。
- ・生活やあそびを支える子ども理解や子どもとかかわり、保育者の援助を知り記録できる。

■授業の概要

実際に子どもとかかわりながら、具体的に保育の内容を学んでいくためには、「面白いな」「どうしてだろう」と自分なりに課題をもって取り組むことが学びの第一歩になります。

具体的には、皆さんの体験レポートを基に、子どもがさまざまな環境にかかわり、その多様性を知ったり工夫したりする姿に触れながら、子どもを理解し、保育者の援助を具体的に学んでいきます。現代における自然の重要性と保障、留意点についても考えていきます。

この授業では保育内容「環境」に焦点をあてて学びますが、子どもの活動やかかわりの中で独立したものではないことはすぐに理解できることでしょう。ここでは、その他の領域との関連についても触れながら進めていきます。また、他教科とも連携し、自分の身の周りの事物をも意識しながら学んでいきます。

■授業計画

第1回 保育内容領域間や、小学校教科等とのつながりを知る

第2回 自分の身近な環境や自然に目を向ける

第3回 幼稚園環境と子どものかかわり・子どもにとって身近な環境と、環境とかかわりの実際を知る（1）理論

第4回 幼稚園環境と子どものかかわり・子どもにとって身近な環境と、環境とかかわりの実際を知る（2）実践

第5回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、身近な環境への関心や意欲を探る（1）理論

第6回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、身近な環境への関心や意欲を探る（2）実践

第7回 幼稚園での生活から保育内容「環境」のねらいや内容を考える

第8回 保育内容「環境」における保育実践の動向を知る

第9回 自然物と子どもとかかわりや、さまざまな環境とあそび、及びその留意点について知る（1）理論

第10回 自然物と子どもとかかわりや、さまざまな環境とあそび、及びその留意点について知る（2）実践

第11回 身近な環境への関心、環境を生活へ取り入れる工夫や情報機器・教材の活用、援助の実際を知る（1）理論

第12回 身近な環境への関心、環境を生活へ取り入れる工夫や情報機器・教材の活用、援助の実際を知る（2）実践

第13回 保育内容「言葉」「表現」「健康」「人間関係」との関連性を確認する

第14回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成し、実施後振り返りを行い評価について学ぶ（1）理論

第15回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成し、実施後振り返りを行い評価について学ぶ（2）実践

期末試験・期末試験解説

■準備学習

- ・皆さんの体験を基に授業を展開しますので、体験のレポートを書きます。
- ・授業後には授業の内容を再度皆さんの体験と結び付け、理論的な理解を深めることが必要です。
- ・グループや個人で、その都度必要な準備学習を行います。

■評価方法

- ・授業への取り組み（討議への積極的な参加、発言内容） — 40%
- ・期末試験 — 60%

参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 その他、適宜紹介します。	特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 試験後、模範解答を提示して解説を行う。レポートにはコメント等を書き加え返却する。
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼 保	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育の内容・方法に関する科目
実務経験のある教員等による授業内容	(古賀) 保育園・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。		

ナンバリング	B②06	科目名	保育者論Ⅰ		担当教員	井上 裕美子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理について理解し、説明することができる。 ・保育者の制度的な位置づけを理解し、説明することができる。 ・保育者の職務内容について体験を通して学び、説明することができる。 ・保育者に求められる資質について考え、書き表すことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、保育者を志すにあたり、保育者とはどのような存在かについてじっくりと考えていく。自身がこれまでに出会った“保育者”や“先生”をふりかえるところから始め、保育者の役割や倫理、その制度的役割について学ぶ。また、保育者の職務内容や保育者に求められる資質を考え、保育者となるための道筋や必要な知識及び技術についても理解する。</p> <p>本授業で取り扱うテーマについて考える際、教育実習（幼稚園Ⅰ）での体験が生きてくるだろう。その体験を基にグループで話し合う機会を授業内に設け、体験から考え、学ぶことを大事にしたい。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション、これまでに出会った“保育者”“先生”をふりかえる 第2回 保育者の役割と倫理 第3回 保育者の制度的位置づけ 第4回 保育者の職務内容 第5回 保育者の職場文化と協働 第7回 保育者のキャリア発達と研修 第6回 保育者に必要な人権感覚と世間知 第8回 まとめ～保育者とはどのような存在か～</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめる。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内に行われるグループディスカッションにおける積極性や発言内容 — 20% ・コメントシート — 20% ・期末レポート — 60% 							
参考文献	高橋貴志「これからの保育者論－日々の実践に宿る専門性－」 萌文書林 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を修得できない場合、保育者論Ⅱは履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 コメントシートは、確認し次回授業時間内に教員からの感想を述べ返却する。期末レポートは、確認及び評価を行い返却する。 		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	<p>教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>保育の本質・目的に関する科目</p>		
実務経験のある教員等による授業内容	(井上) 保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。						

ナンバリング	B③01	科目名	教育実習（実習指導）		担当教員	池伊大由古井郷	谷藤村田賀上家	潤恵あ	子ね新也子芸
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数					
テキスト	「教育課程・保育の計画と評価」萌文書林 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	通年		
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、体験・実習を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことを通して、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。 ・実習の後半で行う、部分実習（計画の立案から実践、評価までを行う体験）を行うための準備を整え、仲間と協同して実践することができる。 ・入学直後から始まる子どもとかわる体験・実習を通して、幼稚園における保育の実態や子どもの成長過程を知り、体験をまとめ、グループの実習を共に行う仲間とともに、振り返りを行うことで自身の体験を省察し、発表することができる。 <p>■授業の概要</p> <p>＜事前指導＞ スムーズに実習に臨めるように、実習前には、保育体験やオリエンテーションを行い、実習に際して必要な事項等について学びます。実習に際して不安感を抱かないよう、複数で同じ実習園に通うと共に、実習中には教員が側でアドバイスなどができるように実習に帯同します。授業内だけでなく、「保育内容演習」と連動しながら教員や仲間と支え合う関係性を構築していきます。</p> <p>＜事後指導＞ 実習後の振り返りでは、自身が実習を通して感じたこと、目の前の子どもとどのように関わり考えたかなど、実習記録と体験を基に仲間同士で振り返り、実習のまとめを行います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（実習の意義・実習生の責務等の理解／事前訪問） 第2回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備① 第3回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備② 第4回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備③ 第5回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備④/部分・責任実習に向けて 第6回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備⑤ 第7回 記録に基づく実習の振り返り⑥/実習のまとめ（1年間の実習を終えて）</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、実習記録を作成するため、普段から文章等を読み、書き、考察する習慣を作る事が求められます。 ・授業では、自身の考えを他者に表明し、他者の考えや思いに共感したり意見交換をするため、普段から「なぜ、どうして」と疑問を持ったり、他者の話を聴き、気持ちに気づいたりすることが求められます。 ・実習では、服装、髪の色や髪形、言葉遣い、立ち居振る舞い等について保育現場にふさわしい最低限のルールがあります。また、掃除や保育終了後の準備等の場面で、自身の普段の振る舞いや経験などが表れることがあります。したがって、日常生活の見直しや立ち居振る舞いを見つめ直すことが求められます。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録及び指導案の課題 — 40% ・実習のまとめのレポート — 40% ・実習成果の発表 — 20% 									
参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 課題やレポートはコメントを記入して返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修			幼保	教育実践に関する科目				
実務経験のある教員等による授業内容									

ナンバリング	B③02	科目名	教育実習（幼稚園Ⅰ）		担当教員	池伊大由吉井郷	谷藤村田賀上家	潤恵あか	子ね新也子芸																								
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	クラス分け																													
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴェ書房			単位数 授業形態	1単位 実習	開講時期	通年																										
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p>入学直後からの子どもとかかわる体験、実習を通して、以下の点について、幼稚園における保育の実態を知るとともに子どもの成長について知っていきます。</p> <p>その体験を記録にまとめ、実習を共に行う仲間とともに振り返りを行うことで自身の体験を省察します。</p> <p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園においてはじめて子どもとかかわり、子どもとかかわる喜びを感じ、子どもの姿からその特徴などを知る。また、1年を通じてどのような生活をし、どう成長を遂げるのかを知る。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもとかかわる姿を観察し、その基となる保育観や環境構成・意図などを理解する。観察したことを事実即して記録する。 ・保育時間外の保育者の仕事に目を向け、職務の内容を知る。 <p><園の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における生活や遊び、保育者の援助など幼稚園教育の実際を知る。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊び、活動を通して、保育の内容に関心を持ちその意味を考える。また、そのような体験を保証するために保育者が願いと教育的な意図をもって構成する環境について知る。 ・保育の過程を理解し、仲間とともに部分的な場面について保育の計画の立案、実践、自己評価、改善を行う。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して自己の良さや課題、価値観などに気づく。 <p>■授業の概要</p> <p>本実習は、入学後すぐにはじまる子どもたちとのかかわりを基に、6月から12月頃まで行います。長期間にわたり同一園で体験や実習を行うことで、子どもや保育者と生活を共にし、保育に参加しながら保育に関する様々なことを学びます。まずは「子どもが好き」「子どもとかかわって楽しい」という思いを大切にしながら、次第に子どもを理解することの難しさや保育の世界の奥深さに気づいていきます。そうした保育の魅力や理解のためには、長期的なかかわりや綿密な振り返りが不可欠です。実習後に記す実習記録は、そのためのテキストとなるとともに、各自の実習課題を明確にするために必要となります。</p> <p>■授業計画</p> <table border="1"> <tr> <td>実習の準備①</td> <td>4・5月</td> <td>保育の体験（半日）</td> </tr> <tr> <td>実習の準備②</td> <td>6月</td> <td>実習園でのオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>実習①</td> <td>7月</td> <td>参加実習（終日）</td> </tr> <tr> <td>実習②</td> <td>8月</td> <td>参加実習（終日）</td> </tr> <tr> <td>実習③</td> <td>10月</td> <td>参加実習（終日）</td> </tr> <tr> <td>実習④</td> <td>11月</td> <td>参加実習（終日）</td> </tr> <tr> <td>実習⑤</td> <td>11月</td> <td>参加実習・部分実習（終日）</td> </tr> <tr> <td>実習⑥</td> <td>12月</td> <td>参加実習（終日）</td> </tr> </table> <p>■評価方法</p> <p>既定の実習への取り組みやレポートの提出は必須です。実習の事前準備や事後学習の成果も含めて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の準備や振り返りの状況 — 20% ・実習への取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 40% 										実習の準備①	4・5月	保育の体験（半日）	実習の準備②	6月	実習園でのオリエンテーション	実習①	7月	参加実習（終日）	実習②	8月	参加実習（終日）	実習③	10月	参加実習（終日）	実習④	11月	参加実習（終日）	実習⑤	11月	参加実習・部分実習（終日）	実習⑥	12月	参加実習（終日）
実習の準備①	4・5月	保育の体験（半日）																															
実習の準備②	6月	実習園でのオリエンテーション																															
実習①	7月	参加実習（終日）																															
実習②	8月	参加実習（終日）																															
実習③	10月	参加実習（終日）																															
実習④	11月	参加実習（終日）																															
実習⑤	11月	参加実習・部分実習（終日）																															
実習⑥	12月	参加実習（終日）																															
参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 その他、追って紹介する。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・単位を修得出来ない場合、次年度教育実習（幼稚園Ⅱ）および教育実習（実習指導）は履修出来ません。 【課題等へのフィードバック方法】 ・実習記録はコメントを記入して返却します。 																												
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修			幼保	教育実践に関する科目																												
実務経験のある教員等による授業内容																																	

ナンバリング	B③03	科目名	保育実習指導Ⅰ		担当教員	井上裕美子 伊藤恵里子 金子重紀 古佐琢隆 藤原隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	通年
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 保育所・福祉施設において、子どもや利用者の状況を知り、適切な援助を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことで、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。</p> <p>■授業の概要 実習は、本学のあらゆる教科と深く関連する最も中心的な科目です。特に保育実習Ⅰでは、1年次の保育や社会福祉に関する学びを実践する貴重な機会となります。本科目は、この保育実習Ⅰのための事前・事後指導であり、実習の事前・後指導のほかに、実習後の指導までが含まれます。 <事前指導> 実習で学ぶためには、その前提となる、基本的な生活習慣や立ち居振る舞いも大切になります。加えて、現場で学ぶために必要な知識や技術について学びます。 事前学習においては、全体での基本的な展開に加え、学生それぞれの達成段階に応じた授業プログラムの設定を行うほか、実習に不可欠な知識や技術の習得（試験等によって確認）をします。 <事後指導> 実習後の振り返りは、自身が実習を通して何を見て何を感じ、目の前の子どもとどのように関わり、なぜそのように考えたかなどについて、実習の記録や体験を基に仲間同士で振り返り、実習で学んだことをまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 実習をすること（実習の意義） 第3回 障害者スポーツ大会について 第4回 障害者スポーツ大会への参加 第5回 障害者スポーツ大会のふりかえり 第6回 実習に向けての手続き等①、実習におけるマナーと振る舞い 第7回 子どもの生活と理解、保育士の職務の理解 第8回 利用者の生活の理解、施設職員の職務の理解 第9回 手遊び等と絵本の活用（保育内容と共に学ぶ） 第10回 実習記録について① エピソード記録 第11回 子どもの人権と最善の利益・プライバシー保護と守秘義務 第12回 乳児保育体験について 第13回 後期オリエンテーション（実習での学びについて） 第14回 乳児保育体験の振り返り① 第15回 乳児保育体験の振り返り② 第16回 保育所・施設の役割 第17回 社会福祉施設ボランティアについて 第18回 実習に向けての手続き等② 第19回 保育所保育指針・保育制度等の理解① 第20回 保育所保育指針・保育制度等の理解② 第21回 実習記録について② 記録と省察 第22回 実習の目的・心構え（実習の手引きを活用して） 第23回 実習における計画と実践 第24回 先輩の実習体験を聴く（保育所、施設） 第25回 保育園職員、施設職員の話 第26回 先輩の実習体験を聴く（グループディスカッション） 第27回 これまでの学びの確認と実習の目標の設定 第28回 事後指導①～実習の総括と自己評価（施設） 第29回 事後指導②～実習の総括と自己評価（保育所） 第30回 事後指導③～自己課題の明確化</p> <p>■準備学習 ・授業中に各自が設定した準備課題の実施 ・これまでの実習記録の見直し、修正</p> <p>■評価方法 ・授業内課題 — 10% ・保育体験やボランティアへの取り組み状況 — 20% ・事後学習の際のふり返りのレポート — 30% ・保育所保育指針等の試験 — 20% ・実習記録の課題 — 20%</p>							
参考文献	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 全ての授業に出席することが求められます。 実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 単位を修得出来ない場合、次年度の保育実習Ⅱ、Ⅲ及び保育実習指導Ⅱ、Ⅲは履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 課題については、翌週の授業で、全体へコメントをフィードバックします。 		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育実習		
実務経験のある教員等による授業内容	（古賀）保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。 （佐藤）児童相談所での児童福祉司（地区担当、里親担当、虐待防止調整担当等）経験を有する （井上）保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。						

ナンバリング	B③04	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		担当教員	伊藤 恵里子 井上 裕美子 古賀 琢也	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「保育所保育指針解説」フレール館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレール館		単位数 授業形態	2単位 実習	開講時期	集中	
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所において、子どもがどのような生活をし、どのように人と関わり、どう成長を遂げるのかなどを他教科の学習と関連させながら具体的に理解する。 ・生活や遊びを通して、そのときの子どもの気持ちを考察したり、理解しようとする。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の業務内容・職業倫理について具体的に学ぶ。 ・保育士が保育観に基づく意図をもって援助を行っていることを知り、その内容を具体的に知る。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画、観察、記録、および自己評価等について具体的に知る。 <p><施設の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の基本的な機能と役割について具体的に理解する。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的と自身の長所・短所を見極め、倫理・価値観、専門知識、専門技術などの専門性の向上に努める。 <p>■授業の概要</p> <p>本科目は、保育士資格を取得するために必要な実習の1つであり、1年次の授業終了後に実施される。実習としては、教育実習Ⅰに続くステップとなる。</p> <p>実習は、概ね11日間以上で90時間以上行う。意欲やねらいを持って参加するとともに、出勤時間を守り、日々記録の作成と提出等が必要となる。</p> <p>また、乳児保育体験や、実習直前の事前訪問を行い、実習園と実習生とが互いに理解する機会を設定し、見通しをもって実習に臨めるようする。</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導Ⅰの受講および実習園からの課題 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で立てた目標の達成状況 — 10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習園からの評価 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修していることが条件となる。</p>							
参考文献	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府		特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・単位を修得出来ない場合、次年度保育実習Ⅱ、Ⅲおよび保育実習指導Ⅱ、Ⅲは履修出来ません。 【課題等へのフィードバック方法】 ・実習記録は必要に応じてコメントを記入して返却します。 			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修		幼保	保育実習			
実務経験のある教員等による授業内容	<p>(古賀) 保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。</p> <p>(井上) 保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。</p>						

ナンバリング	B③05	科目名	保育実習Ⅰ（施設）		担当教員	金子重紀 佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	保育実習指導Ⅰで配布した資料等			単位数 授業形態	2単位 実習	開講時期	集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p><利用者理解> 福祉施設の利用者は、具体的に「どのような生活をし、どのように人と関わって生きているのか」を理解する。</p> <p><職務の理解> 職員の業務内容・職業倫理について具体的に学ぶ。職員が援助観に基づく意図を持って援助を行っていることを知り、その内容を具体的に知る。</p> <p><施設の理解> 福祉施設の基本的な機能と役割について具体的に理解する。</p> <p><自己課題> 実習の目的と自身の長所・短所を見極め、倫理・価値観、専門知識、専門技術などの専門性の向上に努める。</p> <p>■授業の概要</p> <p>本授業は、保育士資格を取得するために必要な実習であり、教育実習Ⅰに続くステップとなる。実習は、概ね11日間以上且つ90時間以上実施することとし、実習に際して意欲・目的意識を持って参加することと勤務時間の順守及び日常の記録の作成と提出等が必要になる。</p> <p>また、障害者スポーツ大会、現場の職員によるレクチャー、先輩の話などを通じて、要保護児童、障害児（者）、福祉施設に対する理解を深めるとともに、実習直前には事前訪問を通じて実習施設と実習生とが相互理解する機会を設定し、施設の状況を理解した上で実習に臨めるように計画しており、多様な異なる価値観を受け入れる素地を創るきっかけとなることを目的とする。</p> <p>■準備学習</p> <p>保育実習指導Ⅰの受講及び実習園からの課題</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導の目標の達成状況 — 10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習施設からの評価 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修していることが条件となる。</p>							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育所保育指針」厚生労働省 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 ・「子どもと家庭の福祉を学ぶ」ななみ書房 ・「新保育ライブラリ社会的養護」北大路書房 		特記事項	<p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満了したとしても実習の状況などにより、単位の修得ができない場合があります。 ・単位を修得出来ない場合、次年度の保育実習Ⅱ・Ⅲ及び保育実習指導Ⅱ・Ⅲは履修出来ません。 <p>【課題等へのフィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録は必要に応じてコメントを記入して返却します。 			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修		幼保	保育実習			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B④01	科目名	あそび基礎演習Ⅰ	担当教員	大澤 ちづる 田中 葵 深谷 ベルタ
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④	担当形態	オムニバス・複数		
テキスト	深谷ベルタ (2018) 「体験」が感性を育む造形あそび」風鳴舎 その他、適宜配布する。		単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期 前期

講義概要

■到達目標

- ・子どもの遊びや表現活動を支えるために必要な保育の基礎知識や表現技術が身につく。
- ・表現の多様性を理解し、様々な表現を受け止める姿勢を養うとともに、身体・音楽・造形・言語等を用いて自らの柔軟な発想を活かした表現ができる。

■授業の概要

身体・音楽・造形表現の観点から、感性を養うための環境構成とその展開について、実践します。また、様々な遊びとして現れる具体的な保育の内容と子どもの表現について解説します。さらにその発展として、上記3分野の表現に言語表現を合わせた合同ワークショップ型授業を実施し、総合的な表現を体得します。授業方法は、主に実技、制作、創作、グループワーク、発表で展開します。

◇身体表現：保育者の豊かな身体表現は、子どもの表現を引き出す人的環境となります。思い切り体を動かしたり、丁寧に身体感覚に耳を傾けたりすることを通して、ダイナミックかつ繊細な身体表現の楽しさを味わいます。様々な人と関わり、表現の多様性を学びます。

◇音楽表現：音・音楽や動きによる様々な遊びや表現を経験します。身のまわりにあるものから音を探し出し、音に耳を澄ませ、音を重ね合わせていくおもしろさを味わうなど、音・音楽を使ってどのような表現や遊びを創り出せるのかを具体的に学びます。

◇造形表現：描くことや制作を体験しながら表現することについて学び、表現された内容、必要となる「環境」「人間関係」等と合わせて検討します。感性や表現力を磨き、表現に対する理解を深め、他の学生と共同し、好奇心と関心をもって自らを育てられるような展開をします。保育の中でよく用いられる素材や教材、道具等に親しみ、制作を楽しみながらそれらの特性や活用方法を学びます。

■授業計画

3つのグループに分かれて平行して行われ、ローテーションをしながら展開する授業です。基本的に身体・音楽・造形表現の要素をおさえながら、各分野で関連する言語表現の内容も取り上げます。合同ワークショップでは受講生全員および全教員で総合表現を行います。

◇身体表現 (田中)

- 第1回 リズムとからだを使った遊び
- 第2回 生活の中でのイメージを使った表現遊びと感触遊び
- 第3回 紙芝居から全身を使ったごっこ遊びへの発展
- 第4回 ダンスと文化：フォークダンスと盆踊り

◇音楽表現 (大澤)

- 第1回 ことばと動きと音遊び (わらべうた、手あわせ歌)
- 第2回 身のまわりの素材を使った音遊び
- 第3回 リトミックの基礎
- 第4回 ペープサートと歌遊び

◇造形表現 (深谷)

- 第1回 造形の視点① 色に注目する
- 第2回 造形の視点② 線や面に注目する
- 第3回 造形の視点③ 立体表現に取り組む
- 第4回 素材に注目する 砂

◇合同ワークショップ型授業 (深谷・田中・大澤)

- 第1回 身近な素材で遊びながら、さまざまな表現 (造形・音楽・身体・言葉) との関連を体験する
- 第2回 パネル・シアターを制作し演じる
- 第3回 学園祭に向けて展示企画し準備する

■準備学習

小レポートの作成及び実技課題等の提示があります。指示に従って授業までに準備すること。本演習専用のファイル (ポートフォリオ) を毎回整理し、授業内容の理解定着を図ること。円滑な活動ができるために素材や道具を各自で用意する必要があります。(特記事項を参照)

■評価方法

- ・制作物や実技の成果 — 50%
- ・授業での取り組み (ワークショップや活動への積極的な取り組み) — 50%

参考文献	必要に応じて資料を配布するが自ら記録する学びのポートフォリオが資料となる。	特記事項	<身体・音楽表現授業への参加について> 必ず動きやすい服装で参加すること。上履きを持参すること。 <造形表現授業の持ち物について> 道具類は (場合により素材も) 各自で用意する必要があります。(同じ道具類が「こどもと文化Ⅰ・Ⅱ」の授業で使われることがあります)。用意すべき道具は：ハサミ、カッターナイフ、ホチキス (ステッドラー)、油性マーカーペン (黒)、液体糊、セロハンテープ、絵筆 (2本) です。汚れても構わない服装で参加すること。 【課題等へのフィードバック方法】 発表に対しては口頭でコメントする。
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育の内容・方法に関する科目
実務経験のある教員等による授業内容	(大澤) 幼稚園での勤務経験を活かし、保育者に求められる実践力を踏まえ、今日的課題である保育における音楽の質について触れながら、授業を展開することができる。 (深谷) こどもの城において保育に携わり、「親子工房」、育児相談会等の企画運営の経験を活かし、実際の課題はどんなものか、その解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行います。		

ナンバリング	B④03	科目名	あそび基礎演習Ⅱ	担当教員	大澤 ちづる 田中 葵 深谷 ベルタ
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④	担当形態	オムニバス・複数		
テキスト	深谷ベルタ (2018) 「“体験”が感性を育む造形あそび」風鳴舎 その他、適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習 開講時期 後期

講義概要

■到達目標

- ・身体・音楽・造形・言語表現等の観点から保育の内容を理解し、心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえ、保育者として子どものあそびや経験内容をより豊かに展開するために必要な知識や技術が身につく。
- ・子どもの遊びや表現活動に必要な遊具や用具、素材や教材等を実践的に活用および作成できる。

■授業の概要

身体・音楽・造形表現の観点から、様々な遊びとして現れる具体的な保育の内容を取り上げ、保育の内容と子どもの表現について実技を踏まえながら、そこで子どもが経験することを解説し、豊かな遊びに結びつく環境構成とその展開について検討します。さらにその発展として、上記3分野の表現に言語表現を合わせた合同ワークショップ型授業を実施し、総合的な表現を体得します。授業方法は、主に実技、制作、創作、グループワーク、発表で展開します。

- ◇身体表現：テーマに基づいて身体が作りだす形や動きの広がりを体験し、仲間と共に動きをつくりだしていく楽しさを味わいながら、多様な動きを伴う全身を使った表現を身につけます。子どもにとっての身体表現活動について理解を深めると同時に、他の表現や5領域との関連についての視点を学びます。
- ◇音楽表現：自らの声や言葉、身体、身の回りにあるモノを利用した音素材、身近な楽器などを使って様々な音・音楽遊びを経験します。これらの経験をもとに、身体・音楽・造形・言語表現をより関連づけながら解説します。子どもの表現をみること、聴くことの大切さも学びます。
- ◇造形表現：描くことや制作を体験しながら表現することについて学び、表現された内容、必要となる「環境」「人間関係」等と合わせて検討します。感性や表現力を磨き、表現に対する理解を深め、他の学生と共同し、好奇心や関心をもって自らを育てられるような展開をします。また、保育の中でよく用いられる素材や教材、道具等に親しみ、制作を楽しみながらそれらの特性や活用方法への理解を深めます。

■授業計画

◇身体表現 (田中)

- 第1回 身の回りのものの形と体を使った見立て遊び、動きの連鎖
- 第2回 言葉と身体表現：オノマトベを使った遊び
- 第3回 造形と身体表現：身近な素材を使った遊び
- 第4回 絵本から全身を使ったおはなしづくりへの発展

◇音楽表現 (大澤)

- 第1回 コーラスとボディパーカッション
- 第2回 手作り楽器と音遊び
- 第3回 劇あそび
- 第4回 人形劇における歌遊び～パネルシアター～

◇造形表現 (深谷)

- 第1回 自然素材① 葉っぱ、小枝、草木の実等
- 第2回 自然素材② 紙
- 第3回 自然素材③ 毛糸
- 第4回 自然素材④ 風

◇合同ワークショップ型授業 (深谷・田中・大澤)

- 第1回 総合的な表現① 光と影
- 第2回 総合的な表現② 風と遊ぶ (凧)
- 第3回 表現のまとめ 身体・音楽・造形・言語の観点から

■準備学習

小レポートの作成や実技課題の提示があります。指示に従って授業までに準備すること。本演習専用のファイルを毎回整理し、授業内容の理解定着を図ること。円滑な活動ができるために素材や道具を各自で用意する必要があります。(特記事項を参照)

■評価方法

- ・制作物や実技の成果 — 50%
- ・授業での取り組み (ワークショップや活動への積極的な取り組み) — 50%

参考文献	必要に応じて資料を配布するが自ら記録する学びのポートフォリオが資料となる。	特記事項	<p><身体・音楽表現授業への参加について> 必ず動きやすい服装で参加すること。上履きを持参すること。</p> <p><造形表現授業の持ち物について> 道具類は (場合により素材も) 各自で用意する必要があります。(同じ道具類が「こどもと文化Ⅰ・Ⅱ」の授業で使われることがあります)。用意すべき道具は：ハサミ、カッターナイフ、ホチキス (ステドラー)、油性マーカーペン (黒)、液体糊、セロハンテープ、絵筆 (2本) です。汚れても構わない服装で参加すること。</p> <p>【課題等へのフィードバック方法】 ・発表に対しては口頭でコメントをする。</p>
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育の内容・方法に関する科目
実務経験のある教員等による授業内容	<p>(大澤) 幼稚園での勤務経験を活かし、保育者に求められる実践力を踏まえ、今日的課題である保育における音楽の質について触れながら、授業を展開することができる。</p> <p>(深谷) こどもの城において保育に携わり、「親子工房」、育児相談会等の企画運営の経験を活かし、実際の課題はどんなものか、その解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行います。</p>		

ナンバリング	B④04	科目名	こどもと文化		担当教員	池谷潤子 深谷ベルタ	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p>この授業では、こどもの文化について「こどものあそび文化」と「こどもの歳時記」という2つの視点から学ぶなかで、「保育実践」や「こどもをとりまく文化」の多様性について理解することを目的とする。映像の視聴、屋外での実践、文献による調査、グループでの発表等を行ない、受講者は保育を考える視点を学ぶことをねらいとする。</p> <p>(1) 年中行事についての知識を身につけ、説明することができる。</p> <p>(2) こどもとあそびについての知識を身につけ、実践することができる。</p> <p>(3) 課題について適切な資料を用いて調べ、まとめることができる。</p> <p>(4) 配布された資料を分類・整理して、ポートフォリオを作成することができる。</p> <p>■授業の概要</p> <p>この授業では、こどもの文化について「こどものあそび文化」「こどもの歳時記」の視点から整理し、その内容について理解し、こどもの文化が伝承することの意義を考える。また、様々な保育実践について映像を通して学ぶことで、保育における「こどもの育ち」について視点を得る。児童文化財については、講義による知識の習得を図るとともに、実践することで技能を身につけ、グループ学習の成果を発表する。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回：各国の子育てを知る 暮らしと子育て 一映像を通して学ぶ「世界の子育て」</p> <p>第2回：様々な保育実践Ⅰ 話し合うこどもたち 一映像を通して学ぶ「自分の考えを伝える」</p> <p>第3回：屋外でのあそび実践 一外あそびを計画し、実行しよう</p> <p>第4回：年中行事の由来やしきたり、関係する話や歌について調べ、まとめる</p> <p>第5回：年中行事についての発表と講評</p> <p>第6回：様々な保育実践Ⅱ 里山保育で育つこどもたち 一映像を通して学ぶ「他者との関わり」</p> <p>第7回：様々な保育実践Ⅲ こどものあそびと成長 一映像を通して学ぶ「葛藤と克服」</p> <p>第8回：保育環境を考える 園庭環境 一映像を通して学ぶ「遊具のリスクとハザード」</p> <p>■準備学修</p> <p>毎授業後には、レポートを提出すること。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの内容 ー 30% ・実技や発表課題・レポート ー 50% ・授業への参加態度（活動への積極的な取り組み、発言内容等）ー 20% 							
参考文献	適宜指示する			特記事項	【課題等へのフィードバックの方法】 レポートについては翌週の授業でコメントをおこなう		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B④02	科目名	音楽表現演習Ⅰ		担当教員	明大 石澤 現る 大局 谷中 ちづる 中福 中井 和路 松 直 美子 福 直 琴子																																																
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	クラス分け・単独																																																			
テキスト	ピアノコース：「バステイン おとなのピアノ教本 Book1」株式会社東音企画 ギターコース：「新ギター教本」ギタラ社 共通：「こどものうた100」チャイルド本社適宜、楽譜や資料を配布する		単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期 前期																																																
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ、ギターについての基礎的な知識や技術を学び、簡単な独奏曲を演奏することができる。 ・20曲以上の「こどものうた」を知るとともに、それらを歌う表現技術が身につく。 ・音楽理論の基礎的な知識（読譜、拍子、リズムなど）について理解し、活用できる。 <p>■授業の概要</p> <p>保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターなどの伴奏楽器を用いた演奏の力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。「こどものうた」を知り、演奏することを通して、音楽を感じる心と豊かに表現する力を養う。グループ授業による歌唱や演奏技術の習得、授業内での実技試験、音楽理論の筆記試験を実施する。</p> <p>■授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ピアノ</th> <th>ギター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション 楽器に関する基礎知識</td> <td>楽器に関する基礎知識、フォーム</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>楽譜の読み方（ト音記号とヘ音記号、音符の長さ）</td> <td>開放弦による右手フォーム、左手ポジション</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>音程の練習 楽譜上の音と運指</td> <td>五線譜、ギターコードダイヤグラムの読み方</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>Cの和音（Cコード）</td> <td>スケール、単音の練習曲</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>Fの和音（Fコード）</td> <td>和音押弦の練習 左右フォーム</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>まん中Cポジションの読譜</td> <td>和音の練習曲</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>速度記号、臨時記号、反復記号、 オクターブ記号、3拍子</td> <td>アルペジオ音型①</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ト長調</td> <td>アルペジオ音型②</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>D7の和音（D7コード）への動き Cの和音（Cコード）への動き</td> <td>アルペジオ音型③</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>8分音符（休符）と付点のリズム</td> <td>独奏曲の運指法</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>両手ユニゾンの練習曲</td> <td>独奏曲の声部理解、弾弦法</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ヘ長調</td> <td>独奏曲によるアーティキュレーション</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>長三和音と短三和音</td> <td>初級独奏曲①</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>音階</td> <td>初級独奏曲②</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ・実技試験</td> <td>まとめ・実技試験</td> </tr> </tbody> </table> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、必ず実技の課題に関する自己練習をしておくこと。 ・終了した課題曲に関しても日常的に復習をして、レパートリーの蓄積をすること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題曲の達成度・実技試験 — 40% ・音楽理論の筆記試験 — 20% ・授業内の取り組み — 40% 								ピアノ	ギター	第1回	オリエンテーション 楽器に関する基礎知識	楽器に関する基礎知識、フォーム	第2回	楽譜の読み方（ト音記号とヘ音記号、音符の長さ）	開放弦による右手フォーム、左手ポジション	第3回	音程の練習 楽譜上の音と運指	五線譜、ギターコードダイヤグラムの読み方	第4回	Cの和音（Cコード）	スケール、単音の練習曲	第5回	Fの和音（Fコード）	和音押弦の練習 左右フォーム	第6回	まん中Cポジションの読譜	和音の練習曲	第7回	速度記号、臨時記号、反復記号、 オクターブ記号、3拍子	アルペジオ音型①	第8回	ト長調	アルペジオ音型②	第9回	D7の和音（D7コード）への動き Cの和音（Cコード）への動き	アルペジオ音型③	第10回	8分音符（休符）と付点のリズム	独奏曲の運指法	第11回	両手ユニゾンの練習曲	独奏曲の声部理解、弾弦法	第12回	ヘ長調	独奏曲によるアーティキュレーション	第13回	長三和音と短三和音	初級独奏曲①	第14回	音階	初級独奏曲②	第15回	まとめ・実技試験	まとめ・実技試験
	ピアノ	ギター																																																				
第1回	オリエンテーション 楽器に関する基礎知識	楽器に関する基礎知識、フォーム																																																				
第2回	楽譜の読み方（ト音記号とヘ音記号、音符の長さ）	開放弦による右手フォーム、左手ポジション																																																				
第3回	音程の練習 楽譜上の音と運指	五線譜、ギターコードダイヤグラムの読み方																																																				
第4回	Cの和音（Cコード）	スケール、単音の練習曲																																																				
第5回	Fの和音（Fコード）	和音押弦の練習 左右フォーム																																																				
第6回	まん中Cポジションの読譜	和音の練習曲																																																				
第7回	速度記号、臨時記号、反復記号、 オクターブ記号、3拍子	アルペジオ音型①																																																				
第8回	ト長調	アルペジオ音型②																																																				
第9回	D7の和音（D7コード）への動き Cの和音（Cコード）への動き	アルペジオ音型③																																																				
第10回	8分音符（休符）と付点のリズム	独奏曲の運指法																																																				
第11回	両手ユニゾンの練習曲	独奏曲の声部理解、弾弦法																																																				
第12回	ヘ長調	独奏曲によるアーティキュレーション																																																				
第13回	長三和音と短三和音	初級独奏曲①																																																				
第14回	音階	初級独奏曲②																																																				
第15回	まとめ・実技試験	まとめ・実技試験																																																				
参考文献	「こどものうた200」チャイルド本社 「続こどものうた200」チャイルド本社 「保育者・教師をめざす人、生まれ！みんなピアノ だい好き！」全音楽譜出版社 「マンガでわかる楽譜入門」誠文堂新光社		特記事項	授業内で、確認のための実技発表や筆記試験を行うことがある。 指示された課題については自己練習を行うこと。 【課題等へのフィードバック方法】 発表に対しては適宜コメントをする。																																																		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択		幼保	保育の内容・方法に関する科目																																																		
実務経験のある教員等による授業内容	幼稚園での勤務経験を活かし、保育者に求められる実践力を踏まえ、今日的課題である保育における音楽の質について触れながら、授業を展開することができる。																																																					

ナンバリング	B④05	科目名	音楽表現演習Ⅱ		担当教員	明大石 大局中 福松	石澤 谷中井	現る美 ちづる 和路琴 直子子
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	クラス分け ・単独	単位数 授業形態	1単位 演習	開講 時期	後期	
テキスト	ピアノコース：「バスティン おとなのピアノ教本 Book 1」株式会社東音企画 ギターコース：「新ギター教本」ギタラ社 共通テキスト：「こどものうた100」チャイルド本社 適宜、楽譜や資料を配布する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講 時期	後期	
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノやギターなどの伴奏楽器を弾きながら、10曲以上の「こどものうた」を歌う表現技術が身に付く。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。 ・20曲以上の「こどものうた」を知るとともに、それらを歌う表現技術が身につく。 ・音楽理論の基礎的な知識（読譜、拍子、リズム、コードネームなど）について理解を深め、活用できる。 <p>■授業の概要</p> <p>保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターを用いた弾き歌いの力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。こどもの歌の弾きうたいを通して豊かな感性や音楽的表現力の向上を目指す。授業では歌唱、授業内での実技発表、音楽理論の筆記試験、実技試験を実施する。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 夏休みの課題 第2回 メジャーコードによる弾き歌い① 第3回 メジャーコードによる弾き歌い② 第4回 メジャーコードによる弾き歌い③ 第5回 音楽理論の基礎とコードネーム 第6回 伴奏パターン① 第7回 伴奏パターン② 第8回 伴奏パターン③ 第9回 独奏曲 第10回 マイナーコードによる弾き歌い① 第11回 マイナーコードによる弾き歌い② 第12回 音楽理論の筆記試験および解説 第13回 学生と教職員コンサートへの参加と鑑賞 第14回 実技試験 リハーサル 第15回 実技試験・まとめ・2年次への課題</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、必ず実技の課題に関する自己練習をしておくこと。 ・終了した課題曲に関しても日常的に復習をして、レパートリーの蓄積をすること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題曲の達成度・弾き歌いの実技試験 — 40% ・音楽理論の筆記試験 — 20% ・授業内の取り組み — 40% 								
参考文献	「こどものうた200」チャイルド社 「続こどものうた200」チャイルド社 「保育者・教師をめざす人、生まれ！みんなピアノだい好き！」全音楽譜出版社 「マンガでわかる楽譜入門」誠文堂新光社			特記事項	単位修得には10曲以上の弾きうたい曲達成が必要となる。継続的に自己練習を行うこと。 【課題等へのフィードバック方法】 発表に対しては適宜コメントをする。			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	保育の内容・方法に関する科目			
実務経験のある教員等による授業内容								

ナンバリング	B⑤01	科目名	社会福祉		担当教員	佐藤隆司		
ディプロマポリシーとの関連性	③・④		担当形態	単独				
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期	
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の意義と理念，歴史的変遷（動向）と社会保険，公的扶助，公衆衛生，社会福祉などの基本的な制度及び実施体制などを理解して説明できる。 ・社会福祉における相談援助の展開過程を理解してクライアントの保護に関わる仕組などを実務に反映することができる。 <p>授業の概要</p> <p>私達を取り巻く社会と社会福祉の接点を探りながら，具体的に保育者として必要な社会福祉の基礎知識（意義・理念，制度・法的体系）を理解するとともに，児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉・地域福祉などの現状と課題を掘り下げる。また，社会福祉援助技術の内容と方法を学習する。</p> <p>なお，授業の進捗状況等により，若干，前後することもあり得る。また，状況に応じてオンデマンド型授業を取り入れる。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 社会福祉の基本理念と概念（こども家庭支援とも関連して）</p> <p>第2回 少子高齢化 社会福祉と高齢者を巡る問題</p> <p>第3回 日本の社会福祉発達史</p> <p>第4回 障害児（者）福祉①－障害者スポーツ大会－</p> <p>第5回 障害児（者）福祉②－障害者基本法と共生社会の実現－</p> <p>第6回 社会福祉の制度①－戦後の社会福祉法制－</p> <p>第7回 社会福祉の制度②－社会福祉の行財政と実施機関－</p> <p>第8回 社会福祉の制度③－社会福祉と社会保障</p> <p>第9回 社会福祉の制度④－社会福祉施設と専門職</p> <p>第10回 生活保護（公的扶助）</p> <p>第11回 利用者の権利擁護の仕組（苦情処理，情報提供，第三者評価）</p> <p>第12回 社会福祉における相談援助① 理論・意義・機能</p> <p>第13回 社会福祉における相談援助② 対象と展開過程，方法，技術</p> <p>第14回 地域福祉の意義と役割－在宅福祉・地域福祉の推進－</p> <p>第15回 期末テスト，総括</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校，高校社会科の社会福祉，社会保障，社会保険，国の一般会計などを復習して授業に参加する。 ・授業中「分からない」は「（何が）分からない」と明確化して授業に取り組むこととする。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、発言内容（意欲） 20% ・課題（提出期限厳守） 20% ・期末試験 60% 								
参考文献	<p>大久保秀子著『新・社会福祉とは何か 第3版』中央法規出版，2018年（ISBN-13：978-4805856840）</p> <p>松原康雄，坪洋一，金子充編集，児童育成協会監修『新・基本保育シリーズ 社会福祉』中央法規出版，2019年（ISBN-13：978-4805857847）</p> <p>直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉＜第2版＞』萌文書林，2017年（ISBN-13：978-4893472496）</p> <p>橋本好市，宮田徹編集『保育と社会福祉 [第3版]』（学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会）みらい，2019年（ISBN-13：978-4860154592）</p>			特記事項	<p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語，飲食，化粧，電子機器使用などは禁止する。 【課題等へのフィードバック方法】 ・課題，期末テストは模範解答などを提示して解説する。 			
卒業・免許状・資格との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格必修 ・社会福祉主事任用資格選択必修 			幼保	保育の本質・目的に関する科目			
実務経験のある教員等による授業内容	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司），児童養護施設，児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題，指導内容などに触れ，より実践的な授業を実施する。							

ナンバリング	B⑤02	科目名	こども家庭福祉		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	単独			
テキスト	「子どもと家庭の福祉を学ぶ」ななみ書房			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭福祉の現代的意義とその歴史について理解し、説明できる。 ・こどもの人権擁護について説明できる。 ・こども家庭福祉に関する法令や制度、実施体系等について理解し、説明できる。 ・こども家庭福祉の現状や動向、今後の課題や展望について説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>こども家庭福祉の意義とその課題について、今日の子どもの生活や多様な生活スタイルを持つ家庭の実情から、具体的な事例を通して学ぶ。また、こども家庭福祉の法律や制度、こどもの人権擁護等について歴史的な変遷から捉え、現状や課題、展望について理解を深める。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 現代社会におけるこども家庭福祉の理念とその概念 第2回 こども家庭福祉の歴史と現代社会における課題 第3回 こどもの人権擁護の歴史と現代社会における課題 第4回 児童の権利に関する条約とその内実 第5回 こども家庭福祉に関する制度と法体系及びその実施体系 第6回 児童福祉施設と専門職としてのこども家庭支援 第7回 少子化現象と地域における子育て支援 第8回 母子保健とこどもの健全育成の現状と課題 第9回 多様な保育ニーズへの対応とその功罪 第10回 こども虐待・DVへの対応とその防止 第11回 社会的養護における障がいのあるこども、外国籍のこども及びその家庭への対応 第12回 社会的養護における少年非行、貧困家庭への対応 第13回 次世代育成支援とこども家庭福祉の推進とその内実 第14回 地域における連携・協働とそのネットワークづくり 第15回 諸外国におけるこども家庭福祉の動向</p> <p>■準備学習</p> <p>前回授業で与えられた資料及び教科書の関連ページを復習し、授業内容の理解を深めた上で、次回の授業に出席すること。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 — 70% ・授業への参加状況（討議への積極的な取り組み、発言内容） — 30% 							
参考文献	特になし。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポート等に対するコメントを行う。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修 社会福祉主事任用資格選択必修			幼保	保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑤03	科目名	社会的養護 I		担当教員	砥 上 正 樹	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	喜多一憲監修、堀場純矢編 「社会的養護 I」(みらい×子どもの福祉ブックス) 株式会社みらい			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ・社会的養護の意味を理解し、説明できる。 ・社会的養護の歴史を学び、現在に至る経緯を時代背景と共に説明できる。 ・社会的養護のしくみについて現状と課題を理解し、これからのあり方について自ら考えることができる。							
■授業の概要 社会的養護の理念である「子どもの最善の利益のために、社会全体で子どもをはぐくむ」の意味を理解しながら保育士としての役割を学ぶ。また、演習を通して児童福祉施設で暮らす子どもたちや通所利用している子どもたちの成長にどのように関わっていけばよいのかを考えていく。							
■授業計画 第1回 社会的養護とは何か?社会的養護の理念と体系・基本原則 第2回 社会的養護の現状と課題(1) 児童虐待の現状と地域福祉 第3回 社会的養護の現状と課題(2) 子育てをめぐる社会状況と児童家庭福祉 第4回 社会的養護の歴史(1) 古代から明治期まで 第5回 社会的養護の歴史(2) 明治期から現代まで 第6回 こどもの権利擁護と自立支援 第7回 社会的養護のしくみと実施体系① 児童相談所、児童家庭支援センター 第8回 社会的養護のしくみと実施体系② 児童養護施設、自立援助ホーム 第9回 社会的養護のしくみと実施体系③ 母子生活支援施設、乳児院 第10回 社会的養護のしくみと実施体系④ 児童自立支援施設、児童心理治療施設 第11回 社会的養護のしくみと実施体系⑤ 障害児入所施設 第12回 社会的養護のしくみと実施体系⑥ 障害児通所支援 第13回 家庭養護(里親等)と施設養護 第14回 虐待の防止と社会的養護における保育士の倫理と役割 第15回 まとめ・期末試験							
■準備学習 ・虐待等の社会問題や子育てに関する報道に関心を持ち、理解しておくこと。 ・毎回の授業を振り返り、疑問点などをまとめ、次の授業の課題として準備しておく。							
■評価方法 ・授業へ取り組む姿勢 — 25% ・期末試験・提出物(課題・小レポート等) — 75%							
参考文献	授業において紹介する。			特記事項	・授業は講義・演習・ディスカッション。 ・単位を修得できない場合、社会的養護Ⅱは履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 ・試験後模範解答を提示し、解説する。 ・レポートなどの課題にはコメントを書き加えて返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

Ⅲ. シラバスー 2 年生ー

52回生 2年次 開講科目一覧

ナンバリング	科 目 名	担 当	ページ
教養基礎科目 ①基礎科目系			
A①06	オーラル・コミュニケーションⅡ	赤松	71
教養基礎科目 ②教養総合科目系			
A②06	フィールドワーク(人間と文化)	昔話が息づく町・遠野	泉澤
A②06	フィールドワーク(人間と文化)	自主上映会を開催しよう	大村
A②06	フィールドワーク(人間と文化)	ナイトウォーク in Chiba	古賀・鶴田
A②06	フィールドワーク(人間と文化)	千葉と世界のダンス鑑賞から学ぶ文化	田中
A②07	フィールドワーク(生活と社会)	東北スタディツアー	金子
A②07	フィールドワーク(生活と社会)	生活と文化を考える～富山県利賀村研修	由田
A②08	フィールドワーク(自然と環境)	プレーパークへいこう～ちばの遊び場について考える	由田
A②05	現代社会論<総論>		明石・金子・小木曾・佐藤・鈴木・鶴田・松山・吉岡・鷺野・渡辺
A②05	現代社会論<各論>	芸術を教育・福祉へ	明石
A②05	現代社会論<各論>	子ども家庭福祉	小木曾
A②05	現代社会論<各論>	現代社会の中の犯罪 - 同じ社会に生きる者として	金子
A②05	現代社会論<各論>	短大生のワイドショー	佐藤
A②05	現代社会論<各論>	今どきの児童館・放課後児童クラブ・子育てサロン	鈴木
A②05	現代社会論<各論>	(前期)多様な背景をもつ外国人/ (後期)多様な現実を生きる外国人	鶴田
A②05	現代社会論<各論>	人類学とフィールドワーク - 文化と伝統を学ぶ-	松山
A②05	現代社会論<各論>	コンビニから社会の変化を考える	吉岡
A②05	現代社会論<各論>	「まちあるき」から社会を考える	鷺野
A②05	現代社会論<各論>	現代社会と関係する方法	渡辺
A②09	キャリアデザインⅡ	金子・田中	90
専門科目 ①教育・保育/理論系			
B①11	保育内容総論	泉澤	91
B①12	こどもの健康と安全	有馬	92
B①13	特別支援保育Ⅱ	大村	93
B①14	こどもの食と栄養Ⅰ	島本	94
B①15	こどもの食と栄養Ⅱ	島本	95
B①16	子育て支援	高橋	96
専門科目 ②教育・保育/実践系			
B②09	こどもと健康	田中	97
B②08	保育方法論Ⅰ	伊藤・由田	98
B②11	保育方法論Ⅱ	伊藤・由田	99
B②12	保育者論Ⅱ	伊藤・由田	100
B②13	こども臨床学	大村	101
B②10	保育・教職実践演習(幼稚園)	泉澤・大澤・古賀・鶴田・由田	102
専門科目 ③教育・保育/実習系			
B③01	教育実習(実習指導)	池谷・大澤・郷家	103
B③06	教育実習(幼稚園Ⅱ)	池谷・大澤・郷家	104
B③07	保育実習指導Ⅱ	井上・大村	105
B③08	保育実習指導Ⅲ	金子・佐藤	106
B③09	保育実習Ⅱ	井上・大村	107
B③10	保育実習Ⅲ	金子・佐藤	108

専門科目 ④表現技術系			
B④06	あそび技能演習		阿部・池谷・園田・山田 109
B④08	あそび実践演習（音楽）		阿部 110
B④09	あそび実践演習（造形）		久保寺 111
B④10	あそび実践演習（運動）		田中 112
B④11	あそび実践演習（言葉）		池谷 113
B④12	あそび実践演習（自然）		古賀 114
B④07	音楽表現演習Ⅲ		明石・大澤・木村・清水・曾我・福中・松井 115
B④13	音楽表現演習Ⅳ		明石・阿部・大澤・福中 116
専門科目 ⑤福祉系			
B⑤04	社会的養護Ⅱ		砥上 117
B⑤05	こども家庭支援論		佐藤 118
専門科目 ⑥専門総合科目系			
B⑥01	専門総合演習	子どもと芸術Ⅰ	明石 119
B⑥01	専門総合演習	学内の子育て支援「たいむ」について学ぶ	池谷 120
B⑥01	専門総合演習	子ども理解 他者理解Ⅰ	伊藤 121
B⑥01	専門総合演習	子どもの姿を捉えるⅠ	井上 122
B⑥01	専門総合演習	子どもの表現と表現する自分	大澤 123
B⑥01	専門総合演習	他者理解を試みる～様々な当事者に出会う～	大村 124
B⑥01	専門総合演習	個人を尊重する人間関係を探るⅠ	金子 125
B⑥01	専門総合演習	遊びの中の学びを分析する	郷家 126
B⑥01	専門総合演習	保育における対話とプロジェクトⅠ	古賀 127
B⑥01	専門総合演習	家族理解のためのアセスメント 基本編	佐藤 128
B⑥01	専門総合演習	からだを学ぶ	田中 129
B⑥01	専門総合演習	外国にルーツをもつこどもⅠ	鶴田 130
B⑥01	専門総合演習	遊びと保育者の援助について考えるⅠ	由田 131
B⑥02	卒業演習	子どもと芸術Ⅱ	明石 132
B⑥02	卒業演習	様々な経験を通して考える私の保育観	池谷 133
B⑥02	卒業演習	子ども理解 他者理解Ⅱ	伊藤 134
B⑥02	卒業演習	子どもの姿を捉えるⅡ	井上 135
B⑥02	卒業演習	表現する自分を探究する	大澤 136
B⑥02	卒業演習	他者理解を試みる～当事者とのかかわる・当事者になる～	大村 137
B⑥02	卒業演習	個人を尊重する人間関係を探るⅡ	金子 138
B⑥02	卒業演習	幼児が夢中になって遊びこむためには？	郷家 139
B⑥02	卒業演習	保育における対話とプロジェクトⅡ	古賀 140
B⑥02	卒業演習	家族理解のためのアセスメント 応用編	佐藤 141
B⑥02	卒業演習	からだから学ぶ：関わる、動く、創る	田中 142
B⑥02	卒業演習	外国にルーツをもつこどもⅡ	鶴田 143
B⑥02	卒業演習	遊びと保育者の援助について考えるⅡ	由田 144

※本年度はキャリアデザインⅢは開講しません。

ナンバリング	A①06	科目名	オーラル・コミュニケーションⅡ	担当教員	赤松直子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・④		担当形態	単独		
テキスト	「Children's Garden 保育英語」(成美堂) ISBN978-4-7919-1095-3		単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マザーグースの唄(英語の伝承童謡)から様々な英語表現や音とリズムの仕組みを学び、遊び唄を覚え、歌うことができ、手遊びなどを保育活動で実践できる。 ・英語圏の文化を学び、外国の文化について保育の現場で子どもたちに説明でき、異文化に親しむ活動を取り入れることができる。 ・英語絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちに英語の言葉を紹介し、説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>保育所保育指針では子どもたちが「異なる文化にふれる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養えるようにすること」を求めている。これを鑑み、この授業では「保育英語」からマザーグースの唄を中心に学ぶ。マザーグースは英語のリズムやライム(音遊び)を学習するのに優れた音声英語教材とされ、オーラル・コミュニケーションにおいて、聴解力や発信力の基礎を育むことは言うまでもない。異文化学習として英語圏の子ども文化からハロウィーンとクリスマスについて理解を深める。この日のアメリカの幼稚園の様子をDVDで視聴する。また、英語絵本の読み聞かせから語彙を学び、言葉が持つリズムや音の楽しさ、そして絵が醸し出す豊かな世界観も味わう。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 Orientation/Mother Goose Rhymes オリエンテーション/マザーグースとは 第2回 Where is Thumbkin? /Rhythm/Where is Butterfly? 手遊び唄:親指どこ? /英語のリズム/替え唄 第3回 Twinkle, Twinkle, Little Star/Rhyme/Minibook 手遊び唄:きらきら星/英語のライム(押韻)/ミニブック製作 第4回 Humpty Dumpty/Little Nancy Etticoat/Riddles/Paper puppet なぞなぞ唄 ハンプティダンプティ/エティコートちゃん(紙人形製作) 第5回 Halloween 異文化学習 ハロウィーン(Trick-or-treat Bag製作) 第6回 The Mulberry Bush/Ring-A-Ring O' Roses 輪遊び唄 桑の木の周りをまわろう/バラの花輪(パンデミックの歴史唄) 第7回 Pat-A-Cake / Mix a Pancake 手合せ唄 ケーキを作る遊び唄/ホットケーキの英詩 第8回 Old MacDonald Had a Farm/Onomatopoeia 遊び唄 マクドナルドおじさん/英語の擬声語(動物の鳴き声) 第9回 One, Two, Three, Four, Five / Two Little Sausages 数え唄 1, 2, 3, 4, 5/2本の小さなソーセージ 第10回 Apples, Peaches/Mother's Knives and Forks: Rhymes 縄跳び唄 リンゴにモモ/手遊び唄 お母さんのナイフとフォーク・頭韻 第11回 Christmas 異文化学習 クリスマス 第12回 Christmas crafts お菓子の家の製作 第13回 Hickory Dickory Dock/マザーグースのメロディ 遊び唄 ヒコリディコリドック:イギリスとアメリカのメロディ比較 第14回 Hush-A-Bye Baby/Peek-A-Boo Toy Cup 子守唄 ハッシャバイベイビー/手作りおもちゃ製作 第15回 Wrap-up/ Class report 振り返りとまとめ</p> <p>■準備学習</p> <p>予習ノートを作り、次回に学習する唄をノートに写し、語彙を辞書で調べておくこと。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の行う準備学習(必要な物品、予習ノート提出で確認)20% ・授業時間内の取り組み(積極的な取り組み、製作物、発言回数および内容で確認)30% ・ノート提出 10% ・学習の記録 20% ・学期末レポート20% 						
参考文献	よもう うたおう!マザーグース(講談社) 英語絵本は本学図書館所蔵を活用する		特記事項	英語が苦手な学習者も履修を期待する。英和・和英辞書(電子辞書可)を持参し、参加すること。スマホ辞書使用不可。製作のときは、はさみ、のり、色鉛筆などが必要。 【課題へのフィードバック方法】 学習の記録にコメントを書き、毎回返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許選択必修 保育士資格選択必修		幼保	第66条の6に定める科目 教科科目		
実務経験のある教員等による授業内容	インターナショナルスクールでの勤務経験を活かし、外国語学習への取り組みが楽しく、より実践的になるように授業を行います。					

ナンバリング	A②06	科目名	フィールドワーク（人間と文化） 「昔話が息づく町・遠野」		担当教員	泉 澤 文 子	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	「遠野物語」新潮文庫			単位数 授業形態	2単位 演習	開講 時期	集中
講義概要 ■到達目標 ・次世代への継承も含めて、さまざまな伝承あそびを知り、実践することができる。 ・見知らぬ人たちとも積極的にコミュニケーションを取り、他者に感謝する心をもつ。 ■授業の概要 生活が時代と共に変化する一方で、昔ながらの生活の中で生まれてきたものを次世代に伝えようとする人々がいます。今を生き、保育に関わる者として、私たちは何を受け継ぎ、何を次世代に伝えていくのかということを考えます。 柳田国男の「遠野物語」で知られる遠野では、様々な人が昔話や習俗などの文化を伝えようとしています。それらの取り組みを通して、自分たちの文化について考える端緒としてください。 ■授業計画 1) 事前研修 ・遠野及び「遠野物語」に関する簡単な解説。 ・千葉県の昔話や伝承遊びを調べる。 2) 体験研修 9月中旬に3泊4日で行う予定 研修内容 ・とおの物語の館・遠野市立博物館・伝承園等の伝承関連施設を見学する。 ・語りやわらべうた遊びに取り組んでいる遠野市内の保育園を訪問し、交流会を行う。 ・遠野まつりに参加する。 3) 事後学習 ・研修レポート作成 ■準備学習 ・遠野という地域の歴史や文化について各自調べておく。 ・千葉県の昔話やわらべうた等、一つは演じられるようにしておく。 ■評価方法 ・事前準備への取り組み — 20% ・研修中の取り組み — 60% ・体験レポート — 20%							
参考文献	適宜紹介します。			特記事項	定員3名以上5名以内。 予算 6万～7万 【課題等へのフィードバック方法】 ・提出されたレポートに基づいて話し合いを行い、教員もコメントを述べる。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②06	科目名	フィールドワーク（人間と文化） 「自主上映会を開催しよう」	担当教員	大村 あかね		
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	通年
<p>授業概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な映画の魅力を知り、自分の言葉で語るができる。 ・保育・福祉等をテーマとした自主上映の企画・運営を通して、他者と協力して長期的なプロジェクトに取り組む力を養う。 ・多くの人に映画を観てもらうことで、関心を共有する喜びを知る。 <p>■授業の概要</p> <p>自主上映が可能な作品は、世の中にたくさんありますが、多くはミニシアターで限られた期間に上映された作品です。作品の良さとメッセージを理解し、その作品を多くの人と共有するために、自主上映は行われます。</p> <p>本授業では、現在、保育や幼児教育、福祉の分野で働く人々が観に来たいと思えるようなドキュメンタリー映画を選び、自主上映会を企画・運営するという活動を計画しています。</p> <p>活動を通して、様々な映画の面白さに気付き、他者と協働し、観に来て下さった観客と関心を共有する喜びを知ることが大切です。</p> <p>具体的な作業を通じて、長期的な仕事に取り組む段取りや、モチベーションを維持する体験もでき、社会人として働く上での力が養われると思います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション① みんなの映画体験 第2回 オリエンテーション② 自主上映とは 第3回 フィールドワーク 名画座での映画鑑賞① 第4回 フィールドワーク ミニシアターでの映画鑑賞② 第5回 ふりかえり～映画の面白さ、魅力について語り合う～ 第6回 自主上映 企画会議①（各メンバーによるプレゼンテーション） 第7回 自主上映 企画会議②（協議・作品選考・鑑賞料等に関する打ち合わせ） 第8回 自主上映 宣伝会議①（広報戦略について話し合う） 第9回 自主上映 宣伝会議②（グループに分かれてSNS、チラシなどの内容検討） 第10回 フィールドワーク ミニシアターを味わう 第11回 ふりかえり～作品・場について～（レポート・ポスター作成） 第12回 自主上映 準備①（試写会・試写会を受けた会場作り案作成） 第13回 自主上映 準備②（会場づくり） 第14回 自主上映 本番 第15回 総括（レポート・ポスター作成）</p> <p>■準備学習</p> <p>フィールドワークや自主上映後には、個人でのレポートとグループでのポスター作成をします。必ず参加して下さい。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的な参加 — 10% ・レポート — 20% ・ポスター作りへの参加 — 20% ・自主上映会開催へのとりくみ、グループ活動での協力姿勢 — 50% 							
参考文献	随時紹介します。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・最少催行人数：5名 ・フィールドワークは、土曜日あるいは日曜日を使っています。 ・フィールドワークにかかる費用は自己負担となります。 ・レポート等は、指定の形式で作成すること。 【課題等へのフィードバック方法】 ・提出物については、必要に応じてコメントを記入し、学生に返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②06	科目名	フィールドワーク（人間と文化） 「ナイトウォーク in Chiba」		担当教員	古賀琢也 鶴田真二	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	特になし。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講 時期	集中
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校から自身の設定したゴールまで完歩する。 ・自身と向き合い、他者と協力する姿勢を身に付ける。 ・臨機応変に行動する力を身に付ける。 ■授業の概要 <p>車や電車等といった移動手段としての交通機関の発達には、私たちの社会や生活のあり方、また人の感性や健康、人間関係等、多岐にわたる変化をもたらしています。その一つに、歩く機会の減少があります。本授業では、ナイトウォークを通して長距離歩くことで、人が本来備えている歩く力を実感すると共に、普段とは異なる移動中の音や光の感じ方、景色の見え方、時間の過ごし方、他者との距離の取り方等を体験します。具体的には、夜に学校を出発し、九十九里浜で朝日を眺めます。総距離は約30kmを予定していますが、ゴールは自身で設定します。また、参加者全員で一緒に歩くため、参加者の体調や道路事情等によってはルート等を変更する場合があります。</p> ■授業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・4月：第1回オリエンテーション ・5月：第2回オリエンテーション ・7月①：第3回オリエンテーション ・7月②：練習 ・7月③：ふりかえり ・8月上旬：ナイトウォーク実施・おつかれさま会 ・実施後、レポート作成および報告会の準備 ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・各自、適度の距離を歩くことに慣れておくこと。 ・夜通し歩くため、普段から（特に直前の）健康管理をしておくこと。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加 — 70% ・レポートの作成および報告会への参加 — 30% 							
参考文献	特になし。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・体験中の飲食代等は自己負担となります。 ・長時間かつ夜間に歩くための服装、靴、懐中電灯等が必要。 ・雨天決行、荒天延期。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートは確認し返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②06	科目名	フィールドワーク（人間と文化） 「千葉と世界のダンス鑑賞から学ぶ文化」	担当教員	田 中 葵		
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	随時資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化の意義を考え、自分の言葉で語るができるようになる。 ・ダンスと文化の関係について理解し述べるができる。 <p>■授業の概要</p> <p>コロナ渦にある中、芸術文化の価値や意義を改めて考えます。さまざまな芸術がある中でも総合芸術としてのダンスから、地元の千葉をはじめとする日本の踊りと世界の多様なダンスを取り上げます。特に、日本の盆踊りと西洋の古典舞踊であるバレエ、そして時代や国の境界を超えた現代の舞踊であるコンテンポラリーダンスに焦点を当てます。</p> <p>学内での事前学習として、世界のダンスを映像を通して鑑賞し、さまざまな国のダンスと文化の関係を学びます。①事前学習：(1)ダンスの歴史・文化的背景と概要について学ぶ (2)ダンサーに話を聞く ②鑑賞：実際に劇場等で鑑賞する ③事後学習：事前学習から鑑賞までを含めたレポートを作成する ことを通して理解を深めます。最終的に、私たちの暮らしと芸術・文化について自分の考えをまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々なダンスとその背景にある文化 ・千葉や日本の踊り① 事前学習 ・千葉や日本の踊り② 参加・鑑賞 ・千葉や日本の踊り③ 事後学習 ・バレエ① 事前学習 ・バレエ② 鑑賞 ・バレエ③ 事後学習 ・コンテンポラリーダンス① 事前学習 ・コンテンポラリーダンス② 鑑賞 ・コンテンポラリーダンス③ 事後学習 ・まとめ <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として指定された課題を行うこと。 ・鑑賞後はレポートを提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習レポート：30% ・フィールドワークでの取り組み：30% ・事後学習のレポート：40% 							
参考文献	小野和也「今日も盆踊り」タパブックス、2015。 渡辺真弓「名作バレエ70鑑賞入門」世界文化社、2020。 ジェラルド・ジョナス「世界のダンス」大修館書店、2000。		特記事項	※鑑賞費用は15,000円前後。 ※鑑賞の順番は公演スケジュールによって前後する場合があります。 ※コロナの状況によってはオンライン鑑賞になる場合もあります。 【課題等へのフィードバック方法】 ・提出されたレポートに基づき話し合い、コメントをする。			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択		幼保	教養科目			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②07	科目名	フィールドワーク（生活と社会） 「東北スタディツアー」		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	集中
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災・福島第一原発事故後の現状を知り、感じたことを言葉に表す。 ・復興とは何かについて、自らの考えを語るができる。 ・原子力発電の是非について自分の考えを語るができる。 ■授業の概要 <p>福島の浜通りを中心に見学し（できれば現地の方にガイドをお願いする）、東日本大震災後の現状を把握し、地元の方の話を聞く。復興が進んでいるか否かも含め、私たちの生活に欠かせない電気あるいはエネルギーが危険の上に作られてきたことを認識する。</p> <p>その上で、私たちの問題として原発の是非を考える。また、復興とは何かということについても考えてみる。</p> ■授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前準備 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の経過、福島第一原発事故の概要を学習する。 岩手、福島の地理を把握し、行程を把握する。 2) 研修 <ul style="list-style-type: none"> 8月中旬ごろに実施（授業概要のとおり）。2泊3日の予定。日程が決定次第、掲示にて知らせる。 3) 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・研修レポート作成。 ・レポートについて、参加者間でコメントを出し合うことも企画している。 ■準備学習 <p>東日本大震災に関する現在の状況は今でも報道されている。報道番組を見るなどして、現在の状況・問題点を把握しておく。</p> ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備への取り組み — 10% ・研修中の取り組み — 50% ・レポート — 40% 							
参考文献	特になし。			特記事項	定員：10名以内 予算：3万円程度 【課題等へのフィードバック方法】 レポートは提出後、グループで共有し、教員もコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②07	科目名	フィールドワーク（生活と社会） 「生活と文化を考える～富山県利賀村研修」		担当教員	由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講 時期	集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の人々の生活にふれ、自らの生活をふりかえり、その違いや共通点について語ることができる。 ・「小さな異文化」の発見から多様なものの見方、考え方に気づき、語ることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>大都市圏とは違う昔ながらの生活スタイルをもっている富山県南砺市利賀村で様々な生活体験をすることを通して、普段無意識に営んでいる自分自身の「生活」を問い直したいと思います。また、仲間との共同生活・村の人との交流を通して、お互いの中にある「小さな異文化」にも気づいてほしいと思います。</p> <p>■授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前準備 2) 研修（9月に一週間程度を予定） <ul style="list-style-type: none"> ・村の生活を体験（一般の家庭に宿泊・そば打ち体験・農作業等） ・保育所での実習体験 ・自然体験（ブナ原生林探索・ナイトウォーク・岩魚のつかみ取り等） ・仲間との長期にわたる共同生活体験 3) 事後学習 <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の際、利賀村について調べる等の準備学習を課します。 ・事後学習の準備として、利賀村研修での体験をまとめる等の課題を課します。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加状況（積極的な取り組み、発言内容等） — 40% ・話し合いでのまとめレポート — 20% ・研修レポート — 40% 							
参考文献	適宜紹介します。			特記事項	費用は9～10万円程度を予定しています。 【課題等へのフィードバック方法】 提出されたレポートに基づいて話し合いを行い、教員もコメントを述べる。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②08	科目名	フィールドワーク（自然と環境） 「プレーパークへいこう～ちばの遊び場について考える」	担当教員	由田 新		
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	集中
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・“プレーパーク”に参加し、そこにいる子どもや大人とかわりを持つことができる。 ・“プレーパーク”という場が子どもや大人にとってどんな場になっているか、どんな意味があるのか、体験をまじえながら説明することができる。 ■授業の概要 <p>プレーパークを通して、千葉の遊び場について考えます。</p> <p>子どもの遊び場がどんどんなくなり、地域の繋がりも失われてきている時代ですが、千葉県の現状はどうでしょうか。そんな中「プレーパーク」と呼ばれる遊び場が県内各地に生まれています。「プレーパーク」は「自分の責任で自由に遊ぶ」というモットーを掲げ、地域の大人が運営をしている子どもの遊び場です。この授業では、「プレーパーク」へ定期的に通い、活動に参加し、そこにいる子どもや大人と関わりながら、こういう場が子どもや大人にとってどんな場になっているか知り、社会的な意味を検討します。</p> ■授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前準備 2) フィールドワーク 月に1-2回程度（土曜日等）、プレーパークに通います。 フィールド先：NPO法人四街道プレーパーク どんぐりの森 他 3) 事後学習 フィールドワークについて定期的に振り返りを行い、最終的にレポートをまとめます。 ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークについて、どんな場なのか、千葉県にどのくらいあるのか、調べます。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークへの参加状況 — 60% ・ふりかえりレポート — 10% ・まとめのレポート — 30% 							
参考文献	適宜紹介します。			特記事項	現地までの交通費がかかります。 【課題等へのフィードバック方法】 提出されたレポートに基づいて話し合いを行い、教員もコメントを述べる。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<総論>		担当教員	現代社会論 全教員	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	特になし。			単位数 授業形態	4単位	(各論とあわせて) 演習	開講時期 通年
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を構成する諸々の事象を通じ、その現状と事象と事象の相互関係を理解するとともに意見表明できる。 ・保育者である前に社会構成員の一人として現代社会の課題と、今後の社会に必要な「モノ」を意識して発信できる。 ・学生自ら生活を営む現代社会を探求して実際の保育、子育て支援に反映できる。 <p>■授業のテーマ及び概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択履修する各論の学習に際して、総論は多角的に「現代社会」の外観を知り、実際の社会を考察する材料とする。 ・各論は、多様化する社会の背景・成り立ちなどを調べ、私達の実際の生活と比較検討して長所・短所などを考察するとともに、展開される各論はそれぞれ相互に関連性のあるところを理解する。 ・総論に関しては、報告、討論などを通じて自分の学んだ各論の内容・実践などを発信し、それぞれの「現代社会」を共有する。 ・各論のテーマ及び概要は、各論担当教員の「シラバス」のとおり。 <p>■授業計画</p> <p>第1回 「現代社会論」の理解・各論担当教員による「現代社会」①</p> <p>第2回 各論担当教員による「現代社会」② 各論選択</p> <p>第3回 中間報告①（各論の授業実践）</p> <p>第4回 中間報告②（各論の授業実践）</p> <p>第5回 学生による「『現代社会論』で学んだこと」報告（1年間のまとめ）①</p> <p>第6回 学生による「『現代社会論』で学んだこと」報告（1年間のまとめ）②</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総論は各論の延長線上にあり、常に各論を振り返ることとする。 ・中間報告に際して各論の内容を整理、準備する。 ・「『現代社会論』で学んだこと」の報告に際して1年間の各論を整理し、報告内容を検討・準備する。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、各論担当教員が担当学生の意欲、取組姿勢、レポート（総論、各論含め）などの課題提出の内容・状況により評価する。 ・また、総論（中間報告、学生による「『現代社会論』で学んだこと」報告）の参加姿勢・態度などに関して意見集約して各論担当教員に提示し、各論担当教員の成績評価の参考にする。 							
参考文献	特になし。			特記事項			
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「芸術を教育・福祉へ」		担当教員	明 石 現	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	適宜配布。			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

「芸術による社会貢献」に関する多くの事例を考察し、芸術が現代社会の諸問題にどのように役立てられるのかという道筋を理解し、教育、福祉の現場での具体的方策を構築することが出来る。

■授業の概要

世界に視線を向けてみると、希望や人としての誇りに満ちた芸術活動の実践例が数多く存在していることに気付く。その実践例を学修し、芸術が社会に如何に貢献しているかを学び合う。

音楽、写真、美術という3つのカテゴリーに分け、芸術による社会貢献の実践例を取り上げ、ディスカッションをした上で総括する。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション 一年間の視点を共有する。
 第2回 「エル・システム ～奇跡の音楽教育プログラム～」① 歴史
 第3回 「エル・システム」② 仕組み
 第4回 「エル・システム」③ 取り組み
 第5回 「エル・システム」④ 欧米諸国への影響
 第6回 「エル・システム」⑤ 日本への影響
 第7回 「エル・システム」①～⑤についてのディスカッションと総括
 第8回 「ラマラ・コンサート ～国境を越える平和コンサート～」① 歴史
 第9回 「ラマラ・コンサート」② 仕組み
 第10回 「ラマラ・コンサート」③ 取り組み
 第11回 「ラマラ・コンサート」④ 国際社会への影響
 第12回 「ラマラ・コンサート」①～④についてのディスカッションと総括
 第13回 「報道写真家サルガド ～ある写真家が見つめた希望～」① その対象
 第14回 「報道写真家サルガド」② 取り組み
 第15回 「報道写真家サルガド」③ 未来への展望
 第16回 「報道写真家サルガド」①～③についてのディスカッションと総括
 第17回 「鷺田清一・語りきれないこと」①話すこと
 第18回 「鷺田清一・語りきれないこと」②聞くこと
 第19回 「鷺田清一・語りきれないこと」③語り合うこと
 第20回 「鷺田清一・語りきれないこと」①～③についてのディスカッションと総括
 第21回 「荒川修作・天命反転住宅」① 荒川修作とマドリン・ギンズの活動
 第22回 「荒川修作・天命反転住宅」② 建築が精神・身体に与える影響
 第23回 「荒川修作・天命反転住宅」③ 環境を見つめ直す
 第24回 「荒川修作・天命反転住宅」①～③についてのディスカッションと総括

■準備学習

- ・各カテゴリーに関して、その社会的背景を事前に調べ概要を理解しておくこと。
 - ・円滑なグループ授業展開のために、事前に課された調べ学習を行い、授業後のレポートを必要に応じて提出すること。
- その他、学外へのフィールドワークでの積極的な学習意欲を求めます。

■評価方法

- ・授業後のレポート — 60%
- ・フィールドワーク・発表 — 40%

※原則として試験は実施しません。

参考文献	・山田真一「エル・システム」教育評論社 ・小島美子「音楽からみた日本人」NHK出版 ・姜尚中「希望と絆」岩波ブックレット	特記事項	フィールドワークによる入館料、交通費等、各自負担。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートと発表にはコメント等をする。
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼保	教養科目
実務経験のある教員等による授業内容			

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「子ども家庭福祉」		担当教員	小木曾 宏	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	単独			
テキスト	授業中に適宜示します。			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども虐待」の背景について理解し、その予防対策について考えることができる ・社会的養護施設の現状について理解し、保育士の役割が理解できる ・「事例検討」の意義と方法を理解し、将来の実践に繋げることができる ・海外の子ども達の現状を知り、多角的支援の在り方を深めることができる <p>■授業の概要</p> <p>「しつけ」と称した暴力を受けた末、命を落とす事件が後を絶たない中、親などによる体罰禁止を盛り込んだ法律が施行されました。本授業は、「マルトリートメント」（不適切な養育）を考えることで、「適切な養育」について学生と議論します。さらに「社会的養護施設」について、ゲストスピーカーや視察を行い現状の理解と課題を一緒に考えたいと思います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション「子ども虐待」の現状と課題① 第2回 「子ども虐待」の現状と課題 第3回 「子ども虐待死亡事件」から考える 第4回 「マルトリートメント」とは何か？ 第5回 子どものための福祉施設－1－児童養護施設 第6回 施設の小規模化の方向性と課題を学ぶ 第7回 社会的養護施設におけるリビングケアからアフターケアの重要性を学ぶ 第8回 里親制度について－「こうのとりのゆりかご」の実践 第9回 子どものための福祉施設－2－児童自立支援施設 第10回 障がいのある子どもの施設－3－児童心理治療施設 第11回 ケースアプロー①日常生活支援に関する事例分析 第12回 非行と虐待の相関とは？ 第13回 ゲストスピーカー①－児童養護施設の現場から 第14回 子どもの権利条約の誕生 第15回 フィールドワーク－児童養護施設の見学 第16回 日本における格差社会の現状を学ぶ 第17回 子どもの貧困－ヤングケアラーについて 第18回 子どもと家庭関係を学ぶ－ジェノグラムの書き方と効用 第19回 福祉先進国の子どもと家庭の現状を学ぶ 第20回 海外の子ども達－カンボジアストリートチルドレンの現状 第21回 保育現場におけるソーシャルワークの役割を学ぶ 第22回 社会的養護施設における『性的問題』の現状と対応 第23回 施設養護と家庭養護の関係機関連携の違いを学ぶ 第24回 母子生活支援施設の現状と課題</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくる ・授業内で学んだことを整理し、次回の授業に繋げる <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート 20% ・各授業のリアクションペーパー 30% ・期末レポート 50% 							
参考文献	山田・良編『新版・子ども家庭福祉』建帛社 小木曾編『児童福祉施設における性的問題対応ハンドブック』生活書院（2022年3月刊行予定）			特記事項	・講義と演習を取り入れた授業であるため、グループワーク等の積極的なディスカッションの参加を期待する		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「現代社会の中の犯罪 - 同じ社会に生きる者として」		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	③・④		担当形態	単独			
テキスト	随時、資料を配付します。			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

犯罪や非行は、私達の住む社会とは別の社会の話ではなく、私達自身にも関わる社会の問題であることを認識し、何故、犯罪・非行が起きるのかを考えることから社会の中の問題を自分たち自身で考える力を持ち、意見交換できるようになることを到達目標とします。

■授業の概要

現代社会の中で、犯罪・非行がなぜ起きるのか、その原因を明確にすることは困難です。しかし、他方、犯罪・非行の傾向・原因は、現在の社会を反映しているとも言えることが可能です。たとえば、高齢者の犯罪が増加していることは、単に、高齢者人口が増加していることだけでは説明が付きません。少年事件の総数だけで言えば一時期より減少しているものの、再非行率は増加していることは、現在の社会の問題性を映し出しているとも言えます。

また、裁判員裁判が行われるようになり、誰でもいつ裁判員として刑事裁判（しかも重大事件の）に関わるかも知れません。刑事裁判を知っておくことが、国民の義務とも言いえる状況にあります。

本授業では、犯罪・非行の傾向を犯罪白書等で知ることとともに、なぜそのような傾向が生じるのかを考えることで、現代社会の問題性を見つめること、ひいては同じ社会の中で生きている自分たちの問題性を見つめることまでも視野に入れてともに考える授業にしたいと思います。

具体的には、刑事裁判手続、少年審判手続の概要を把握した上で、実際の刑事裁判を傍聴し（少年審判は、非公開のため傍聴できません）、犯罪白書等で現在の犯罪・非行の傾向を掴むこと、犯罪者の更生に携わる人のお話を聞き、施設を見学すること、最終的には模擬裁判を学生とともにやりたいと考えています。

■授業計画

- 第1回 刑事手続・少年審判手続の概要①
- 第2回 刑事手続・少年審判手続の概要②
- 第3回 講師が担当した刑事事件・少年事件の事案の紹介①
- 第4回 講師が担当した刑事事件・少年事件の事案の紹介②
- 第5回 刑事裁判の傍聴①
- 第6回 刑事裁判の傍聴②
- 第7回 刑事裁判の傍聴③（可能であれば、裁判員裁判）
- 第8回 犯罪・非行の分析①
- 第9回 犯罪・非行の分析②
- 第10回 犯罪者・非行少年の更生のための制度①
- 第11回 犯罪者・非行少年の更生のための制度②
- 第12回 刑事収容施設もしくは更生保護施設の見学①
- 第13回 刑事収容施設もしくは更生保護施設の見学②
- 第14回 時代背景を知ろう（戦後の歴史）①
- 第15回 時代背景を知ろう（戦後の歴史）②
- 第16回 自分たちで問題を解決してみよう（和解への試み）①
- 第17回 自分たちで問題を解決してみよう（和解への試み）②
- 第18回 自分たちで問題を解決してみよう（和解への試み）③
- 第19回 模擬裁判準備①
- 第20回 模擬裁判準備②
- 第21回 模擬裁判準備③
- 第22回 模擬裁判
- 第23回 判決を考える
- 第24回 まとめ

■準備学習

- ・授業の前に、前回の授業で何をしたかについて思い出すこと。
- ・授業全体が終わったときに、自分自身何を得られたかをまとめられるように意識すること。

■評価方法

- ・随時のレポート — 50%
 - ・討論や模擬裁判への参加状況（積極的な取り組み、発言内容等） — 50%
- ※再試験なし。

参考文献	「犯罪白書」 ただし、必要な統計は、随時資料として配付する。	特記事項	裁判傍聴は、東京地方裁判所もしくは千葉地方裁判所を考えている。また、施設見学（千葉県内もしくは近県）については、未定であるが、いずれも現地もしくは現地付近集合となるため、各自交通費負担となる。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートに対してはコメントを行う。
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼保	教養科目
実務経験のある教員等による授業内容			

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「短大生のワイドショー」		担当教員	佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
講義概要 ■到達目標 ・私達を取り巻く政治経済、社会、家族問題などの現状と、慣習、伝統文化の変遷などを理解して社会人として必要な一般教養を得ることができる。 ・社会のマナー、モラル、ルール、エチケットなどを題材にして人間関係のあり方と、私達一人一人が求める社会のあり方を考える素材を習得できる。							
■授業の概要 本授業は、基本的にワイドショー形式により展開する。学生は、時事問題、事件報道などをレポートして発表し、発表以外の学生はコメンテーターになり、意見、質問などを発信してレポートの内容を掘り下げる。必要に応じて資料を配布して事件の詳細・用語などを理解して社会人としての基礎知識を習得することとする。 なお、授業の進捗状況等により、若干、前後することもあり得る。							
■授業計画 第1回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説① オリエンテーション 第2回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説② 学生のレポート報告と「コロナ時代のカタカナ言葉」(仮)など 第3回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説③ 学生のレポート報告と「新幹線のたこ焼きはNG」(仮)など 第4回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説④ 学生のレポート報告と「運動会の時短化」(仮)など 第5回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑤ 学生のレポート報告と「防衛出動と治安出動」(仮)など 第6回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑦ 学生のレポート報告と「バーベキューのマナー違反! 地元住民からも怒りの声」(仮)など 第7回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑧ 学生のレポート報告と「奇祭・来訪神パレントゥ」(仮)など 第8回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑨ 学生のレポート報告と「消え去る、おかめ蕎麦」(仮)など 第9回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑩ 学生のレポート報告と「暴力が暴力を生む“DV”問題」(仮)など 第10回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑪ 学生のレポート報告と「お萩と牡丹餅の違い」(仮)など 第11回 フィールドワーク① 第12回 前期の総括 第13回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑨ 学生のレポート報告と「謎の生物の死体」(仮)など 第14回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑩ 学生のレポート報告と「『嫌われる人の話し方』の共通点」(仮) 第15回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑫ 学生のレポート報告と「結婚したくない男性の増加」(仮)など 第16回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑬ 学生のレポート報告と「その名は鼠小僧次郎吉」(仮)など 第17回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑭ 学生のレポート報告と「尖閣諸島と中国・海警法」(仮)など 第18回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑮ 学生のレポート報告と「米国の児童虐待事情」(仮)など 第19回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑯ 学生のレポート報告と「千葉県の都市伝説」(仮)など 第20回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説⑳ 学生のレポート報告と「年越し蕎麦と引越し蕎麦」(仮)など 第21回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説㉑ 学生のレポート報告と「餅つき禁止!?!、除夜の鐘は迷惑!」(仮)など 第22回 政治社会・家庭・教育欄などの報告・解説㉒ 学生のレポート報告と「なまはげは児童虐待」(仮)など 第23回 フィールドワーク② 第24回 後期の総括							
■準備学習 ・レポートする新聞記事などの用語(分からない)は、必ず調べて理解する。 ・意識的に新聞、通信機器のデジタルニュースなどを視聴して最新の報道(事件、事故)を理解する。							
■評価方法 ・授業態度、発言内容(意欲) 20% ・レポート 40% ・課題提出(提出期限厳守) 40%							
参考文献	授業中、必要に応じて紹介する。			特記事項	・一部、画像、DVDなどを題材にディスカッションするため積極的発言を期待する。 ・フィールドワークの交通費などは自己負担。 ・授業中の私語、飲食、化粧、電子機器使用などは禁止する。 【課題等へのフィードバック方法】 ・適宜レポートの内容に関してコメントする。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「今どきの児童館・放課後児童クラブ・子育てサロン」		担当教員	鈴木良東	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	単独			
テキスト				単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 児童館、放課後児童クラブ、子育てサロン等の基本的な機能・役割について理解し説明できる 健全育成について理解し、説明できる 子どもの意見を運営に反映させている施設や子どもが企画段階から関わる事業等を知り、「子どもの参画」の重要性を理解し、説明できる 子どもを取り巻く環境に関心を持ち、課題を発見し、解決する姿勢を身に着ける ■授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> 子育てには切れ目はない。保育者として、学童期の子どもに対する支援の内容・方法について理解することは重要である。小学生の居場所でもある児童館・放課後児童クラブの機能や役割を知り、切れ目のない子育て支援を理解する一助とする。 子育て支援施設等（子育てサロン等乳幼児に特化した施設）や児童館での乳幼児活動を知ること、乳幼児期の子育て支援の多様なアプローチを理解する。 児童館、放課後児童クラブ、子育てサロンへのフィールドワークやその事前・事後にワークショップ等（ディスカッションやロールプレイ、事業計画作成や工作等）の体験形学習を取り入れる。特に児童館でのフィールドワークでは、学生が小学生向けの遊びの体験コーナー（お店）を設けて、ミニえんにちを実施する。放課後児童クラブでは、小学生とドッジボールなどをして遊ぶ。子育てサロンでは乳幼児保護者向けにペープサートやパネルシアターを実演する。 ■授業計画 <p>第1回 オリエンテーション 子どもにとって遊びとは</p> <p>第2回 児童館や放課後児童クラブでの遊びと、健全育成の5要素</p> <p>第3回 小学生の発達とカウンセリング</p> <p>第4回 児童館・放課後児童クラブの機能の理解 総論</p> <p>第5回 フィールドワーク（放課後児童クラブ訪問）Ⅰ</p> <p>第6回 子どもの権利条約と児童館（意見表明権を中心に）</p> <p>第7回 児童館での小学生の遊びや活動Ⅰ</p> <p>第8回 児童館での小学生の遊びや活動Ⅱ</p> <p>第9回 事業計画作成（こどもまつりを計画）</p> <p>第10回 ワークショップ（ミニこどもえんにちのお店づくり）</p> <p>第11回 フィールドワーク（児童館訪問 ミニこどもえんにち実施）</p> <p>第12回 フィールドワークまとめ</p> <p>第13回 被災地や途上国における遊びの支援</p> <p>第14回 放課後児童クラブでの子どもの遊びと生活</p> <p>第15回 放課後児童クラブでの障害児への支援</p> <p>第16回 放課後児童クラブと学校等との連携および保護者対応</p> <p>第17回 フィールドワーク（放課後児童クラブ訪問）Ⅱ</p> <p>第18回 フィールドワークまとめ</p> <p>第19回 乳幼児保護者支援と子育てサロン</p> <p>第20回 中高生対応児童館の機能と役割</p> <p>第21回 地域福祉活動</p> <p>第22回 フィールドワーク（中高生対応児童館・子育てサロン訪問）</p> <p>第23回 フィールドワークまとめ</p> <p>第24回 1年間のまとめ</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク（施設訪問）の事前に質問事項を考えておく フィールドワークを通しての「ふりかえり」をレポートにしまとめておく ■評価 <ul style="list-style-type: none"> 授業内での取り組み（積極的な取り組み、発言内容） － 50% レポート － 50% 							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	【特記事項】 通年で4回程度のフィールドワーク（水曜日）を実施します。交通費は自己負担 【課題等へのフィードバック方法】 レポートに関してコメントを行い、発表には講評を行う。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 前期「多様な背景をもつ外国人」 後期「多様な現実を生きる外国人」		担当教員	鶴田真二	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人が抱える問題について理解し、説明することができる。 ・日本人と外国人とが互いに支え合って生きていくにはどうすれば良いかについて自分の考えを持つことができる。 ・他者の話に耳を傾けることができる。 ・他者の立場から物事を考えることができる。 ・理想とする社会について自分の考えを持つことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>世界には、生まれた場所、皮膚の色、眼の色、髪の毛の色、性、考え方、言葉、生活習慣、宗教などが異なる人々がたくさん生きています。日本もそうです。誰一人として同じではありません。では、異なる人同士が互いに支え合って生きていくにはどうすれば良いのでしょうか。本授業では、多様な背景をもつ外国人・多様な現実を生きる外国人を取り上げてそれについて考えます。前期は主に資料や映像を用いて外国人の抱える問題について学びます。後期は前期の学びを基に、フィールドワークを実施します。具体的には、外国人収容所を訪ね、そこに収容されている外国人と面会します。これらの学習を通して考えたことを整理し、最後に「理想とする社会」について自分の考えをまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：「多様な背景をもつ外国人」について 第2回 日本人と外国人（1） 第3回 日本人と外国人（2） 第4回 日本人と外国人（3） 第5回 在留資格（1） 第6回 在留資格（2） 第7回 外国人収容所（1） 第8回 外国人収容所（2） 第9回 前期のまとめ（1） 第10回 前期のまとめ（2） 第11回 オリエンテーション：「多様な現実を生きる外国人」について 第12回 フィールドワーク事前準備 第13回 フィールドワーク（1）実施 第14回 フィールドワーク（1）ふりかえり 第15回 フィールドワーク（2）実施 第16回 フィールドワーク（2）ふりかえり 第17回 フィールドワーク（3）実施 第18回 フィールドワーク（3）ふりかえり 第19回 フィールドワーク（4）実施 第20回 フィールドワーク（4）ふりかえり 第21回 面会報告会への参加 第22回 後期のまとめ（1） 第23回 後期のまとめ（2） 第24回 全体のまとめ</p> <p>■準備学習</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後に小レポートを作成し、学習内容を整理します。 ・期末にレポートを作成し、前期の学習内容をまとめます。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）で考えたことを自分で整理します。 ・毎フィールドワーク後にレポートを作成し、ふりかえりで用います。 ・期末にレポートを作成し、後期の学習内容をまとめます。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み — 60% ・レポート — 40% 							
参考文献	適宜紹介します。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・通年で2回程度、本コースのテーマに沿った、上記とは別のフィールドワーク（土曜日か日曜日の予定）を実施します。 ・フィールドワークに要する費用は全て自己負担となります。【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「人類学とフィールドワークー文化と伝統を学ぶー」		担当教員	松山 啓	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
講義概要 ■到達目標 ・民族誌の読解を通して人類学的な思考を理解し、説明できる。 ・大相撲に関する具体的な事例を考察し、「文化」や「伝統」という概念を理解し、説明できる。 ・フィールドワークを実践することで、他者理解の方法を学び、説明できる。 ■授業の概要 文化人類学とは、フィールドワークを通して対象世界の「文化」や「社会」を研究し、人間とは何かを問う学問である。本授業では、人類学的な思考を学びつつ、フィールドワークを実施することで、理論と実践を往還しながら異文化と他者理解の方法を学習する。ここでは、現代社会における日本の相撲興行を対象とし、相撲部屋への参与観察や、両国の街歩きから「文化」や「伝統」をテーマにディスカッションをする。 ■授業計画 第1回 オリエンテーション 今後の授業計画の概説 第2回 文化人類学とは何か 第3回 文化人類学と民族誌① 第4回 文化人類学と民族誌② 第5回 フィールド演習：理論編 第6回 フィールド演習：実践編① 大学周辺を歩く 第7回 ディスカッション 演習の報告と考察 第8回 相撲の歴史① 第9回 両国の歴史 第10回 フィールド演習：相撲部屋に参与する（実践編②） 第11回 ディスカッション 演習の報告と考察 第12回 フィールド演習：実践編 両国の街を歩く③ 第13回 ディスカッション 演習の報告と考察 第14回 民族誌を読む① 第15回 民族誌を読む② 第16回 伝統社会と近代社会① 第17回 伝統社会と近代社会② 第18回 徒弟制度と学習① 第19回 徒弟制度と学習② 第20回 フィールド演習：実践編 再び大学周辺を歩く④ 第21回 ディスカッション 演習の報告と考察 第22回 フィールド演習：実践編 相撲部屋に参与する⑤ 第23回 ディスカッション 演習の報告と考察 第24回 一年間のまとめ ■準備学習 ・事前に示された課題やテーマの概要を調べておくこと。 ・事前の授業準備において、コメントや質問を考えておくこと。 ■評価方法 ・授業への参加・コメント - 30% ・フィールドワークの調査報告・発表 - 30% ・レポート - 40%							
参考文献	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 (2016)『質的社会調査の方法ー他者の合理性の理解社会学』有斐閣。 新田一郎 (1994)『相撲の歴史』講談社。 マリノフスキ、プラニスワフ (2010)『西太平洋の遠洋航海者』増田義郎訳、講談社。 ラトゥール、ブルーノ (2008)『虚構の「近代」ー科学人類学は警告する』川村久美子訳、新評論			特記事項	フィールドワークにおける交通費等は各自負担。授業課題等に関する補足資料は適宜PDFファイルなどで共有する。 【課題等へのフィードバック方法】 レポート・報告・発表に対するコメントを実施する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「コンビニから社会の変化を考える」		担当教員	吉岡 秀子	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介。 必要に応じて資料を配布します。			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニの進化の過程から社会における変化を理解し、説明できるようになること。 ・コンビニ商品やサービスの在り方から社会課題を見出し、議論し、解決策を検討できるようになること。 ・他者とコミュニケーションを取って意見をまとめ、積極的にプレゼンテーションできるようになること。 <p>■授業の概要</p> <p>何の変哲もないコンビニですが、実際は社会の変化に応じて、店のしくみや商品を変えながら成長してきました。本授業では、コンビニを教材とし、店や商品に込められた現代社会の課題を考察していきます。</p> <p>なじみある商品がなぜ作られたのかといったケーススタディ、またワークショップ等を重ねることで自主的な学びにつなげ、議論し合っ、自分たちがいかにして社会と関わっているのかを認識する授業にします。最後には、近未来のコンビニがどのようなになれば人々に役立つかを提案する発表会で社会の課題をあぶり出し、その解決の糸口を見つけます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の方向性を共有する）</p> <p>第2回 コンビニの変遷・黎明期</p> <p>第3回 コンビニの変遷・成長期</p> <p>第4回 コンビニの変遷・成熟期</p> <p>第5回 ワークショップ：これまでの授業を受けての議論と考察 テーマ「コンビニの転換期はいつだったか？」</p> <p>第6回 ヒット商品が映す社会（1）コンビニおにぎり</p> <p>第7回 レポート発表（前授業で得た考えを発表、授業終了後に提出。以下同）</p> <p>第8回 ヒット商品が映す社会（2）ローソン「プレミアムロールケーキ」</p> <p>第9回 ワークショップ：商品開発を体験 テーマ「シニア向けスイーツを設計する」</p> <p>第10回 コンビニが抱える直近の課題</p> <p>第11回 レポート発表</p> <p>第12回 フィールドワーク：東京都内の「未来型コンビニ 実験店舗」を視察</p> <p>第13回 ワークショップ：フィールドワーク後の議論と考察</p> <p>第14回 フィールドワーク：セブン&アイHLDGS伊藤研修センター視察</p> <p>第15回 ワークショップ：フィールドワーク後の議論と考察</p> <p>第16回 フィールドワーク：ローソン本社視察</p> <p>第17回 ワークショップ：フィールドワーク後の議論と考察</p> <p>第18回 フィールドワーク：ファミリーマートコラボ店視察</p> <p>第19回 ワークショップ：フィールドワーク後の議論と考察</p> <p>第20回 グループワーク:テーマ「2030年のコンビニは、どうなっているか？」</p> <p>第21回 プレゼンテーション準備</p> <p>第22回 プレゼンテーション</p> <p>第23回 グループワークのまとめ</p> <p>第24回 総括（年間授業を通じて学んだこと）</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞、ネットニュースなどを読む習慣をつけ、「社会に何が起きているか」を知るよう努めること。 ・授業終了後に、自分が何を得られたか、何に関心を持ったかをまとめられるように意識すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時のレポート（提出期限厳守） — 50% ・プレゼンテーションを含む、授業内での積極的な取り組み・発言内容など — 50% 							
参考文献	授業中に適宜紹介します。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチするため、授業中にスマホなどの使用を許可（指示した時に限る）。 ・フィールドワークの内容・日程は変更する場合があります。 <p>【留意事項】</p> <p>フィールドワークの交通費などは自己負担。</p> <p>【課題等へのフィードバック方法】</p> <p>レポートや発表にはコメント等を行います。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「まちあるき」から社会を考える		担当教員	鷲野 宏	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

- ・都市を観察するための様々な方法を獲得し、「まちあるき」で気づいたことを具体的に記録・説明できるようになること。
- ・都市という現象と社会との関係について、観察結果を踏まえて、考察し・説明し・議論することができるようになること。
- ・多様な価値観の存在や他者への理解を踏まえて、社会について自主的かつ客観的な考察ができるようになること。

■授業の概要

この各論では、江戸・東京の「まちあるき」を通して、都市という現象と社会との関係を考えます。都市に現れるデザインと時代との関係を探るためのいくつかの視点をもとにして、具体的な都市でのフィールドワークをおこない、両者の関係性を体感していきます。その体感をもとにグループワークによる議論・考察をおこない、思考をまとめながら意見を交換することを通じて、多様な価値観や他者の存在を踏まえたうえで、常に進行形である現代社会という状況について自ら考察し続けることのできる教養を得ることを目的とします。都市を鑑賞する感性を刺激するための普段とは異なる視点として、運河からの視点やサウンドスケープ(音の風景)という考え方もとりあげます。

■授業計画

- 第01回 オリエンテーション：学園周辺のまちあるきと気づきの共有
 第02回 準備：都市を観察するための基礎知識（建築・都市のデザイン史：誰のためのデザイン？）
 第03回 まちあるき：「国家中枢のまち」を観察する（訪問地：東京駅丸の内駅舎・江戸城跡・丸の内）
 第04回 まちあるき：「国家中枢のまち」を観察する（訪問地：国会議事堂およびその周辺）
 第05回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第06回 準備：都市を観察するための基礎知識（都市計画：まちがデザインされる仕組み）
 第07回 まちあるき：「ニュータウン：計画された住宅地」を観察する（訪問地：おゆみ野ニュータウン）
 第08回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第09回 まちあるき：「まっさらな土地にうまれた計画都市」を観察する（訪問地：幕張新都心）
 第10回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第11回 ワークショップ：「まちあるき」から社会を考えた前期のまとめ
 第12回 準備：都市を観察するための基礎知識（まちを創り出すモノとコトの循環／大正期の和風住宅と庭園）
 第13回 まちあるき：「物事が連鎖するファッションなまち」を観察する（訪問地：代官山ヒルサイドテラス／旧朝倉家住宅）
 第14回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第15回 準備：都市を観察するための基礎知識（視点を変えてみる：運河からの視点／サウンドスケープ／江戸の都市計画）
 第16回 まちあるき：サウンドインスタレーションへの参加または音聴き歩き（訪問地：いずれも都内想定・詳細未定）
 第17回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第18回 準備：都市を観察するための基礎知識（視点を変えてみる：江戸城の鬼門に位置する寺社地の明治以降の土地利用の変遷）
 第19回 まちあるき：「江戸城の鬼門のまちの現在」を観察する（訪問地：上野公園・東照宮・旧岩崎邸・神田明神・旧万世橋駅等）
 第20回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第21回 準備：都市を観察するための基礎知識（大規模再開発と歴史の保存／パブリックスペース／日本橋上の高架高速道路景観論争）
 第22回 まちあるき：「江戸以来の商業の中心地」を観察する（訪問地：京橋・日本橋）
 第23回 ワークショップ：まちあるき後の気づきの共有と議論と考察
 第24回 ワークショップ：「まちあるき」から社会を考えた1年間のまとめ

■準備学習

- ・まちあるき体験を通じて気になったことについて、調査・考察し、ワークショップで共有できる状態にしていくこと

■評価方法

- ・参加姿勢、発言内容、小テスト（基礎知識と観察力を問う内容） 30%
- ・ワークショップでの気づきの共有・議論・考察の内容 40%
- ・レポート提出 30%

参考文献	東京建築探偵団『建築探偵術入門』文春文庫2014 ISBN978-4167901943 藤森照信『日本の近代建築（上） 幕末・明治篇』岩波書店1993 ISBN978-4004303084 藤森照信『日本の近代建築（下） 大正・昭和篇』岩波書店1993 ISBN978-4004303091 陣内秀信『東京の空間人類学』ちくま学芸文庫1999 ISBN978-4480080257 川添登『今和次郎 その考現学』ちくま学芸文庫2004 ISBN978-4480088604 赤瀬川原平ほか『路上観察学入門』筑摩書房1993 ISBN978-4480028181 五十嵐敬喜・小川明雄『都市計画 利権の構図を超えて』岩波書店1993 ISBN978-4004302940	特記事項	フィールドワークは現地集合現地解散。交通費が必要。／チケット代・喫茶代等がかかる場合あり／まちあるきの所要時間は3時間程度を想定するが伸びる可能性あり／フィールドワークは休日に実施する場合あり／座学・ワークショップは水曜日3限・4限で実施／授業計画は社会状況や天気により臨機応変するので連絡網を設けます。 【課題等のフィードバック方法】 議論にはコメントし、発表には講評をおこないます。
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼保	教養科目
実務経験のある教員等による授業内容			

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論<各論> 「現代社会と関係する方法」		担当教員	渡辺泰子	
ディプロマポリシーとの関連性	②	担当形態	単独				
テキスト	適時資料を配布			単位数 授業形態	4単位 演習	開講時期	通年
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・美的判断/価値基準の起源を理解し、自分の感性を表現できる。 ・異なる物の見方、価値観が存在することを学ぶことで、現代社会への課題について意見を交し合える。 ・出来事や人の行動の裏側にある動機や意図を考察する力を身につける。 ・効率優先、成果優先の社会のスピードに惑わされぬ心の豊かさをもち、自分なりに検討できる。 ■授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・美術作品や現代における様々なイメージを通し、そこに含まれた意図や背景との相互関係を理解しようとする事は、すなわち一個人がその時代の社会をどう眼差し、他者にどのようなメッセージを伝えようとしているかを理解する試みとなる。 ・時代や国を超えて自らの好奇心を拡張し感性のスケールを広げることで、現代社会における諸問題との関わり方を見つけていく。 ・学びの価値は答えを見つけることではなく、自らの問いを増やすことにある。自分自身が持つ「あたりまえ」を都度疑いながら、多角的な考察力を獲得するため、プレゼンテーションや授業内での発言は「伝える・受けとめる・共に考察する」機会とし、考えや感じ方の差異を確かめ合う時間として特に重要視する。 ■授業計画 第1回 導入 第2回 演習 ①鉛筆を使う「線を引く、線を見比べる」 第3回 演習 ②年表と世界地図を作る「視点の持ち方、広げ方」 第4回 写真史 第5回 演習 ③語彙を増やす「鑑賞し、そして耳をすます」 第6回 写真プレゼンテーション 第7回 写真プレゼンテーション 第8回 事前学習（博物館、美術館の成り立ち） 第9回 フィールドワーク 第10回 レポート報告 第11回 まとめ 第12回 演習 ④課題を設定する「不安なこと・不満なこと」 第13回 美術史1 第14回 演習 ⑤ヒントをもらう「すぐそばにいる生物と、いるかもしれない地球外知的生命体」 第15回 美術史2 第16回 事前学習 第17回 フィールドワーク 第18回 レポート報告 第19回 事前学習 第20回 フィールドワーク 第21回 レポート報告 第22回 最終プレゼンテーション（期末試験） 第23回 最終プレゼンテーション（期末試験） 第24回 まとめ ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・年間の授業の流れの中で、自身がなにを考え、感じてきているか、その積み重ねの連なりを常に意識すること。 授業内で配布するプリントや自身が作成してきたレポートを繰り返し参照し、検討材料にすること。 ・年度末の最終プレゼンテーションに向けて、年間を通し月に1度、短大内あるいは利用可能な図書館を利用し、ミニレポートを提出すること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート — 30% ・授業内での取り組み — 20% ・期末試験 — 50% 							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	自己負担：フィールドワーク時の交通費・チケット代 【課題等へのフィードバック方法】 レポートや発表等にはコメントをします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	A②09	科目名	キャリアデザインⅡ		担当教員	金子重紀 田中葵	
ディプロマポリシーとの関連性	②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 ・自身の就労イメージを明確にし、自分なりに書き表すことができる。 ・応募書類の準備の仕方、就職活動におけるマナーなど、就職活動の具体的な進め方について学び、実行することができる。							
■授業の概要 本授業は、自身の社会における将来像を具体的に検討し、どのような形で社会と自己との関係性を構築するのかを考えることをねらいとしている。これまでの保育体験や実習をふりかえることから自身の価値観や特性を自覚的に捉え、自身の就労イメージを明確にしていく。また、就職活動の具体的な進め方や書類の作成方法等について学び、それらを修得する。							
■授業計画 第1回 オリエンテーション、前年度の就職状況について 第2回 自身の価値観・特性を知る 第3回 履歴書の基本的な書き方・求職の流れ 第4回 先輩の話から学ぶ 第5回 働くための知識を学ぶ（1）労働法・規則 第6回 働くための知識を学ぶ（2）労働条件・ハラスメント 第7回 働くための知識を学ぶ（3）求人票の見方 第8回 まとめ（就職活動の具体的な進め方）							
■準備学習 ・提示した課題に取り組み、期限内に提出すること。 ・就職のイメージ、人生のイメージを持つこと。 ・身近な現場について調べたり、ボランティアなどの体験をすること。							
■評価方法 ・提示した課題の提出状況及び内容 — 75% ・授業時間内に行われる模擬面接における積極性 — 25%							
参考文献	授業中に適宜紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 提出物には次回の授業の冒頭で教員がコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教養科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①11	科目名	保育内容総論		担当教員	泉澤文子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	神田伸生・高橋貴志 編著「演習 保育内容総論—保育の総合性を読み解く—」萌文書林			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境を通して行う保育」における保育内容についての最低限の知識をもち、さらに、保育者の役割について理解し、説明できる。 ・保育の計画をたて、援助の見通しを持ち、説明できる。 ・保育を振り返る姿勢を持ち、自身の実践について説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>1年次の「保育内容」の授業では子どもの生活や遊びについて領域の視点からみることを行ってきましたが、「総論」では保育内容をもっと総合的にとらえていきます。まずは日本の保育の基本である「環境を通して行う教育（保育）」について具体的に再確認します。また、6月の教育実習を視野に入れながら、計画をたてる、実践する、振り返るという一連の流れを学びます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 保育内容の構成と意義 第2回 保育内容の歴史の変遷 第3回 「環境を通して行う教育・保育」の考え方の再確認 第4回 遊びのとらえ方と援助について 第5回 生活場面のとらえ方と援助について 第6回 設定活動・行事の考え方について 第7回 子どもの育ちと保育内容 第8回 保育内容と指導計画の作成・展開・評価①～理論～ 第9回 保育内容と指導計画の作成・展開・評価②～実践～ 第10回 保育を「振り返る」とはどういうことか 第11回 保育内容と保育環境のありかた①～理論～ 第12回 保育内容と保育環境のありかた②～実践～ 第13回 家庭・地域・小学校との連携と保育内容 第14回 保育の実際と保育内容の多様性①～幼稚園・保育所～ 第15回 保育の実際と保育内容の多様性②～認定こども園～ 期末試験・期末試験解説</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくること。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小レポート — 30% ・小テスト — 30% ・期末試験 — 40% 							
参考文献	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 ・感想について、次の授業のテーマのきっかけとなるようなものは全体で共有できるよう授業のはじめに紹介する。 ・学生に課す課題については、添削をし指導する。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	幼稚園教諭40年の経験を活かし、幼児期の発達に促した指導のあり方や保育現場での課題に対しての問題点に触れ、より実践的な授業を行います。						

ナンバリング	B①12	科目名	こどもの健康と安全		担当教員	有馬 祐子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③・④		担当形態	単独			
テキスト	「子どもの保健と安全〔第2版〕」教育情報出版 「保育手帖」親業訓練協会刊		単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 1. 保育における保健的な観点をふまえた保育環境や援助について説明できる。 2. 保育における衛生管理・事故防止・安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策等について関連するガイドラインや近年のデータをふまえ説明できる。 3. こどもの体調不良に対する適切な対応について具体的に理解し、活用できる。 4. こどもの健康・安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画・評価について、具体的に理解し、説明できる。 ■授業の概要 保育施設でこどもが健康で安全に生活するために必要なことについて、事例を通して具体的に学ぶ。 ■授業計画 第1回 こどもの健康と保育の環境と援助 第2回 保育における健康及び安全の管理（1）衛生管理・事故防止・安全対策 第3回 保育における健康及び安全の管理（2）危機管理・災害対策 第4回 感染症対策（1）ガイドラインに基づく感染症の予防 第5回 感染症対策（2）ガイドラインに基づく感染症の対処 第6回 保育における保健的な対応（1）基本的な考え方・乳児への対応 第7回 保育における保健的な対応（2）個別配慮の必要なこどもへの対応 第8回 保育における保健的な対応（3）障がいのあるこどもへの対応 第9回 健康・安全管理の実施体制（1）職員の連携・協働、組織的取り組み 第10回 健康・安全管理の実施体制（2）保育における保健活動の計画・評価 第11回 健康・安全管理の実施体制（3）施設外との連携 第12回 こどもの体調不良に対する適切な対応（1）体調不良・傷害 第13回 こどもの体調不良に対する適切な対応（2）救急処置・救急蘇生法① 第14回 こどもの体調不良に対する適切な対応（3）救急蘇生法② 第15回 試験・救急蘇生法③ ■準備学習 ・授業時に与えられた事前課題は、次回授業時まで必ず内容を把握し、出席時に提出すること。 ・授業の記録は、時々点検する予定なので、提出できるノートを用意し、記録の整理をしておくこと。 ■評価方法 ・授業時配付する課題（事前） — 28% ・授業中配付するワークシート — 28% ・期末試験 — 44%							
参考文献	授業中に適宜示す。		特記事項	・授業時には必要ないものを整理し、片付けるべき道具はしまうこと。 ・課題の提出においては、書式、提出期日を守ること。 ・こどもの保健（講義）の単位を修得していない場合履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートには、コメントをして返却します。			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修		幼保	保育の内容・方法に関する科目			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①13	科目名	特別支援保育Ⅱ	担当教員	大村 あかね	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独		
テキスト	適宜プリント教材を配布します。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期 前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 障害及び特別な支援を必要とするこどもを理解し、その実態に応じて関係機関との連携のもとに具体的援助を行うことができるようになるために、以下のことを目標とします。 ・特別な支援を必要とするこどもの様々な生活実態や発達状況について理解し、それに応じた援助を考えることができる。 ・特別な支援を必要とするこどもを含めたクラスの中で、こども同士が育ち合うことを理解し、説明できる。 ・親やきょうだいなど、特別な支援を必要とするこどもの身近な当事者について知り、様々な関係機関との連携・協働や、その現状と課題を理解し、説明できる。</p> <p>■授業の概要 1年次の保育実習を踏まえて改めて障害とは何かを理念・歴史的に整理し、要支援家庭や外国籍のこどもも含めた特別支援保育という枠組みを理解します。それぞれの具体的な生活実態や保育の事例を扱いながら、個々のケースに応じた援助の実際や、クラスでのこども同士のかかわり、育ち合いの実際を捉え、手立てを考えるワークを重ねます。更に、保護者、きょうだいなどを含む当事者の内面を知り、それを踏まえた家庭との連携について考えます。関係機関との連携や特別支援を巡る制度の現状と課題を学び、保育者という立ち位置で自分に何ができるのか、考える態度を育みます。</p> <p>■授業計画 第1回 オリエンテーション 保育実習をふりかえる「障害」とは何か 第2回 「障害」の理解と合理的配慮／特別支援保育という枠組み 第3回 特別支援保育の歴史的変遷 第4回 障害を持つこどもの生活と保育（視覚・聴覚・四肢等の障害） 第5回 障害を持つこどもの生活と保育（知的障害） 第6回 障害を持つこどもの生活と保育（発達障害） 第7回 医療的ケアを必要とするこどもの生活と保育 第8回 要支援家庭のこども・外国籍のこども等の生活と保育 第9回 特別なニーズを持つこどもの内面世界の理解 第10回 特別なニーズを持つこどもの家族の現状と支援 第11回 特別なニーズを持つこどもにとっての健康と安全 第12回 こども同士の育ち合い 第13回 関係諸機関との連携・協働／特別支援保育の制度の現状と課題 第14回 学習内容のまとめ・期末試験 第15回 授業全体の総括・改めて、インクルーシブ保育について考える</p> <p>■準備学習 ・事前に授業で指定された課題には必ず取り組み、予習をしておくこと。 ・授業終了後は、授業後ワークでその日の授業で感じたこと、学べたことをふり返って整理し、期限までに必ず提出すること。</p> <p>■評価方法 ・授業時間内の取り組み（参加状況・授業内ワークを含む） — 20% ・授業後ワーク — 30% ・期末試験 — 50%</p>						
参考文献	鯨岡峻編「最新保育講座 障害児保育 第2版」 ミネルヴァ書房 2013.		特記事項	「特別支援保育Ⅰ」の単位を修得していない学生は、履修できません。 【課題等へのフィードバック方法】 ・授業後ワーク、レポートなどは、必要に応じてコメントを記入し、学生に返却する。 ・試験は終了後に解説を行う。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修		幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容						

ナンバリング	B①14	科目名	こどもの食と栄養Ⅰ		担当教員	島本和恵	
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	単独				
テキスト	「こどもの食と栄養」保育出版社 「基本マスター フード&クッキング」実教出版社		単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、活用できる。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し、説明できる。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解し、説明できる。 ■授業の概要 子どもの栄養と食生活は、単に栄養素を摂取するだけでなく、心身の順調な発育・発達を促し、健康な生活を営むための基礎となる。本授業では、養護及び教育が一体となった保育における生活の基本でもある食生活の現状と意義、栄養に関する基礎的な知識を修得する。また、子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、調乳や保育者として知っておくべき調理の基本について具体的に学ぶ。特に調理実習は、衛生管理の基礎を踏まえて行う。							
■授業計画 第1回 子どもにとっての栄養とは～子どもの心身の健康と食生活～ 第2回 子どもの食生活の現状と課題 第3回 栄養の基本的概念 第4回 栄養の種類と機能 第5回 日本人の食事摂取基準 第6回 家庭や児童福祉施設における食事・栄養 第7回 食事バランスガイド 第8回 食事バランスガイドと献立作成・調理の基本 第9回 実習① 調理の基礎 第10回 保育現場における食事～現場実習のふりかえりから～ 第11回 妊娠期の栄養 第12回 胎児期の栄養 第13回 乳汁栄養 第14回 実習② 調乳 第15回 まとめ～課題レポートの確認を通して～							
■準備学習 授業で指定された課題について、以下のことを踏まえて、授業に出席すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく。 ・実習を通じて理解を深めた内容については、理論的に考察を行うこと。 その他、必要に応じて課題等を提示するので、指示に従ってレポート等を作成すること。							
■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内の取り組み（グループワークおよび実習参加状況） — 20% ・レポート — 80% 							
参考文献	特になし。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートには、適宜コメント等をつけて返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の対象の理解に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①15	科目名	こどもの食と栄養Ⅱ		担当教員	島本和恵	
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	単独				
テキスト	「子どもの食と栄養」保育出版社 「基本マスター フード&クッキング」実教出版社 「ちゃんと食べとる？」中本忠子 小鳥書房			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ・関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 <p>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等</p> <p>■授業の概要</p> <p>幼児期以降の子どもの発育・発達と食生活について理解を深める。併せて、食育の基本とその内容を知り、地域・文化や現代社会との関連という視点から保育における食育の意義と目的を考える。また、家庭や保育現場における食生活の実態、疾病やアレルギーなどのガイドラインを踏まえ、特別な配慮を要する子どもへの対応を学ぶ。保育との関連の中で保育者として対応できる知識と技術を身に付けることを目標とする。特に調理実習は、衛生管理の基礎を踏まえて行う。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 離乳の意義と必要性 第2回 離乳食の進め方・与え方 第3回 離乳食に適した食品と調理 第4回 実習① 離乳食実習 第5回 幼児期の心身の発達と食生活 第6回 実習② 幼児の食事 第7回 幼児期の栄養上の問題と、食生活指導・保護者支援 第8回 実習③ 幼児のおやつ 第9回 学童期・思春期の心身の発達と食生活 第10回 保育における食育の意義・目的と基本的考え方 第11回 食育の内容と環境作り 第12回 食育の計画及び評価 第13回 実習④ 食育を踏まえた実習 第14回 特別な配慮が必要な子どもへの対応 第15回 まとめ～課題レポートの確認を通して～</p> <p>■準備学習</p> <p>授業で指定された課題について、以下のことを踏まえて、授業に出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく。 ・実習を通じて理解を深めた内容については、理論的に考察を行うこと。 <p>その他、必要に応じて課題等を提示するので、指示に従ってレポート等を作成すること。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内の取り組み（グループワークおよび実習参加状況） — 20% ・レポート — 80% 							
参考文献	特になし。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポートには、適宜コメントをつけて返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の対象の理解に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B①16	科目名	子育て支援		担当教員	高橋 あい	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ・保育士の専門性に基づいた保護者に対する支援について、その特性と展開を理解し、具体的に説明できる。 ・保育士が行う子育て支援について、対象にふさわしい支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して理解し、活用できる。 ■授業の概要 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する支援について、その特性と展開を理解する。さらに、具体的な支援内容と方法及び技術を、事例を通して学ぶ。 ■授業計画 第1回 保育士の行う子育て支援の特性 第2回 保護者やその家庭への支援ニーズに対する気づきと多面的理解 第3回 保護者との相互理解と信頼関係構築における日常的・継続的な関わり 第4回 保育所保育における子育て支援とその実際 第5回 子育て家庭の状況の把握と個別の支援 第6回 支援計画と環境構成、実践・記録・評価・カンファレンスの循環 第7回 職員間の連携・協働 第8回 特別な配慮を要する子ども及びその家庭への支援 第9回 自治体・関係機関・専門職との連携・協働など社会資源の具体的活用 第10回 障害のある子ども及びその家庭への支援 第11回 子ども虐待の予防と対応① 第12回 子ども虐待の予防と対応② 第13回 保護児童等の家庭に対する支援 第14回 まとめ・期末試験 第15回 試験の解説・全体の振り返り ■準備学習 ・授業で課された自己学習を行うこと。 ・授業内で学んだことを復習すること。また、疑問がある場合は質問をすること。 ■評価方法 ・課題 — 15% ・授業での取り組み — 45% ・期末試験 — 40%							
参考文献	・太田光洋 編著「保育・教育相談支援 — 子育てを支える」建帛社		特記事項	・授業では、議論やワークを行う予定であるため、積極的な参加を期待する。 【課題等へのフィードバック方法】 ・試験は模範解答を提示して解説を行う。			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修		幼保	保育内容・方法に関する科目			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②09	科目名	こどもと健康	担当教員	田中 葵
ディプロマポリシーとの関連性	①・③・④	担当形態			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館	単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の定義と乳幼児期の健康の意義について説明できる。 乳幼児期を通しての身体と運動の発達を説明できる。 乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 安全教育に関する基本的な考え方を理解している。 <p>■授業の概要</p> <p>今日の子どもを取り巻く環境を踏まえ、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識や技能を身につけることを目的とする。これまでの実習での事例などを共有しながら、乳幼児の子どもの身体と運動の発達や、生活習慣、安全な生活について理解し、子どもの健康を支える保育者としての役割について考える。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 健康の定義、昨今の子どもを取り巻く環境と健康 第2回 乳幼児期の身体の発達 第3回 乳幼児期の生活習慣、園生活の中で育む生活習慣 第4回 生活習慣を育む保育者の役割と家庭との連携 第5回 乳幼児期の運動発達の特徴 第6回 遊びと生活の中での子どもの身体活動 第7回 子どもの健康と安全教育、遊びの中で育む安全の意識 第8回 子どもの健康における今日的課題と保育者の役割、まとめ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習として指定された資料や課題を行うこと。 授業毎に小レポートを提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業毎の小レポート：35% 事前学習や授業内での取り組み：35% まとめのレポート：30% 					
参考文献	武藤隆他「事例で学ぶ保育内容<領域>健康」 萌文書林、2018.	特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 ・提出物には適宜コメントし、学生に返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修	幼保	領域及び保育内容の指導法に関する科目・健康 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容					

ナンバリング	B②08	科目名	保育方法論 I		担当教員	伊藤 恵里子 由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 その他、資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育の方法の実際を挙げ、具体的な子どもの姿と共に説明することができる。 ・具体的な教材とその工夫について、具体的な子どもの姿と共に説明することができる。 ・様々な記録の書式を知り、目的に応じた記録を書くことができる。 ■授業の概要 <p>これまでの実習等と関連づけながら、クラスの実態や子どもの発達に応じた環境構成や遊びの援助について、実践事例を用いて、「環境を通して行う教育（保育）」「遊びを通しての総合的な指導」という保育の方法を具体的に学ぶ。また、それらを計画する基となる記録の意義を理解する。</p> ■授業計画 <p>第1回 様々な保育の方法の理論と実際（1）子どもの1日の生活 第2回 様々な保育の方法の理論と実際（2）子どもの遊びと援助 第3回 子どもの遊びと体験内容 第4回 教材研究の実際（1）保育者のねらいと教材の工夫 第5回 教材研究の実際（2）子どもの遊びと教材 第6回 子どもの遊びを豊かにする環境構成 第7回 様々な記録の書式と保育の評価の考え方 第8回 子どもの捉え方と記録の方法の関係</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくる。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめる。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内コメントシート — 20% ・授業内課題 — 30% ・期末レポート — 50% 							
参考文献	「保育方法の実践的理解」萌文書林 その他、授業内で紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 授業内コメントシートや課題に対しては、次回以降の授業でコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②11	科目名	保育方法論Ⅱ		担当教員	伊藤 恵里子 由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 その他、資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の様々な保育方法のいくつかを挙げ、保育観と共に説明することができる。 ・自身の実践を多角的に検討し、その意義または課題について説明することができる。 ・「環境を通して行う教育（保育）」「遊びを通しての総合的な指導」について、具体的に説明し、その意義を述べることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>国内や諸外国の様々な保育方法を学び、それぞれの意義を考察すると共に、背景となる保育観との関係を学ぶ。また、保育方法の見直しに繋がる、個人や同僚との実践検討・評価の実際を知る。最後に、保育方法として「環境を通して行う教育（保育）」「遊びを通しての総合的な指導」について実践的理解を深める。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 様々な保育方法（1）現在の日本における保育方法 第2回 様々な保育方法（2）日本の保育方法の変遷 第3回 様々な保育方法（3）諸外国の主な保育方法 第4回 子どもの遊びと保育技術 第5回 情報機器を使用した保育の展開 第6回 保幼小連携と保育 第7回 保育のねらい・内容と評価～保育実践の検討 第8回 「環境を通して行う教育（保育）」「遊びを通しての総合的な指導」を再考する</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくる。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめる。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内コメントシート — 20% ・授業内課題 — 30% ・期末レポート — 50% 							
参考文献	「子どもも保育者も笑顔になる！遊び保育のための実践ワーク」萌文書林 「保育指導法 幼児のための保育・教育の方法」同文書院 その他、授業内で紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 授業内コメントシートや課題に対しては、次回以降の授業でコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼 保	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②12	科目名	保育者論Ⅱ		担当教員	伊藤 恵里子 由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	複数			
テキスト	高橋貴志「これからの保育者論」(萌文書林) その他、資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 講義	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる専門性について理解し、説明することができる。 ・保育者として自ら学び続けようとする姿勢をもつ。 ・自分自身の目指す保育者像をもち、説明することができる。 ■授業の概要 1年次の保育者論Iでは、保育者の役割や倫理、その制度的役割、資質等を学んだ。2年次後期の保育者論Ⅱでは、これまでの実習や様々な専門科目を通して学んだ事を踏まえ、時代の要請として今日求められる保育者の専門性について学び、自身の中での保育者像をより確かなものとしていきたい。 ■授業計画 第1回 保育者の資質と今日求められる専門性 第2回 振り返りの専門家としての保育者(1) 学び続ける存在として 第3回 振り返りの専門家としての保育者(2) 記録を問い直す 第4回 保育の質の向上のために－保育の評価 第5回 保育における職員間の連携・協働 第6回 保育における専門機関および地域との連携・協働 第7回 保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 第8回 まとめ－目指す保育者像を考える ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくること。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内コメントシート — 20% ・授業内課題 — 30% ・期末レポート — 50% 							
参考文献	授業内で紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 授業内コメントシートや授業内課題に対しては、次回以降の授業でコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	教育の基礎的理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②13	科目名	こども臨床学	担当教員	大村 あかね		
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	塚本美知子編著「子ども理解と保育実践－子どもを知る・自分を知る」萌文書林		単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	後期	
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 こどもを理解し、その理解に基づいてかかわり、実践をふりかえり、更にこども理解を新たにしていく、という保育の基本を改めて確認します。その上で、自分のこどもへの理解と関わりが、こどもにとってどのような意味を持つのかを考え、多様な視点で検討する姿勢をもつことを目指します。次の3点を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のこども理解やこどもへの関わりについて、その根拠を交えて説明できる。 ・他者の多様な意見を聞いて、自分のこども理解や考えを捉え直し、様々な援助の可能性を検討できる。 ・保育・教育の現場における相談の基礎知識を習得し、説明できる。 <p>■授業の概要 こども理解や援助そのものに答えはなく、その場、その時によって、適切な判断には様々な可能性があります。そこで、自分のこども理解やその根拠について知り、そこに他者との話し合いやワークを通して自分以外の多様な意見や見方に耳を傾け、自分の考えの枠組みやこども観、保育観を検討し続ける姿勢を身につけていきます。また、こどもの育ちの中でのつまずきに気づき、支援につなげる理解についても学びます。</p> <p>更に、保育・教育の現場における保護者からの相談の具体例や、いわゆる教育相談の基本的な考え方やそれを裏打ちする心理的枠組み・技法についての基礎知識について学びます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 こども理解の意義・こども理解と関わりとの関係 第2回 発達からの理解・表現としての理解 第3回 こどもを理解し、かかわる基本姿勢としてのカウンセリング・マインド 第4回 こども理解の様々な手がかり・方法について考える 第5回 こども理解とかかわりをふりかえるための記録 第6回 記録からこども理解とかかわりをふりかえる 第7回 「つまずき」を捉える視点：サインへの気付き 第8回 「つまずき」を捉える視点：個と集団の関係からみるこども理解 第9回 保育・教育の現場における「教育相談」の意義 第10回 保護者からの相談内容の具体例と、教育相談の基本的な進め方 第11回 こども・保護者の心理的特性や教育上の課題を捉える為の枠組み 第12回 相談活動を支えるカウンセリング技法 第13回 園全体で検討していく体制作り～教育相談の計画・共有～ 第14回 保育者同士の支え合い、他機関・地域に開かれた体制作り 第15回 保育における「臨床」とは 期末レポート作成</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習等の記録を見返し、話して伝えられるようにしておくこと。 ・授業で示された自己学習を行うこと。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いやワークへの取り組みの積極性 — 20% ・小レポート — 30% ・期末レポート — 50% 							
参考文献	津守真「子どもの世界をどう見るか 行為とその意味」NHKブックス 大場幸夫「こどもの傍らに在ることの意味－保育臨床論考」萌文書林		特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポートやワークの記録用紙は、必要に応じてコメントを記入して、必ず学生に返却する。			
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修		幼保	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 保育の対象の理解に関する科目			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B②10	科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		担当教員	泉大古鶴由	澤澤賀田田	文ちづる也	子づる也二新
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	複数					
テキスト	プリント・資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期		
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの全ての実習体験から、自身の良さや課題を明らかにし、就業に向けて、良さを伸ばし課題を改善することができる。 ・自身に必要な学習課題を明確にし、それを具体的に深化することができる。 ・子どもや利用者が主体的に活動し、よりよく生活し、自己実現ができるような環境を構成することができる。 ・日常の小さな出来事から「気づく」ことのできる感性を、保育において大切な事を日々の実践から学び、次の実践につなげていくような、学びの姿勢をもつことができる。 ・これまでの学びから保育おける現代的課題をとらえ、何ができるか考えることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本科目は、2年間の総まとめの科目という位置づけになる。今後主に保育や福祉等、人とかかわる現場において、社会人となるために、2年間の実習体験、その他の体験からの学びを関連付け（つなげる）、2年間の学びの集大成となるような取組を行なう。就業に向けて、主に、これまでのすべての実習体験を振り返ることによって、自身の良さや課題を明確にするとともに、社会人となった自分の未来像をどうデザインしていくのかということも合わせて考えていく授業となる。</p> <p>また、今現在の保育における課題について考え、何ができるのかを考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習やその他の課題によって、グルーピングを行う。グループごとに共通の課題を設定して取り組む。 ・さらに、個人別の課題を設定して取り組む。 ・「他者と協同して活動を創る学習」「実践から学ぶ学習」（実践）、「これまでの2年間の実習の振り返り」（振り返り）、「自身に必要な知識や技術の研究（教材研究）」（技能）など、個人やそのグループの課題に応じて、多様な方法で学修する。 ・「学びのファイル」（履修カルテ）を積極的に使用し、2年間の学びを継続する。 <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション～授業の進め方と自己課題を持つことの重要性</p> <p>第2回 これまでの学びの確認</p> <p>第3回 自己課題の発見と目標の設定</p> <p>第4回 これまでの実習の振り返り</p> <p>第5回 グループ別学習（実践①、振り返り①、技能①）※各分野ごとに3回ずつ実施</p> <p>第6回 グループ別学習（実践②、振り返り②、技能②）</p> <p>第7回 グループ別学習（実践③、振り返り③、技能③）</p> <p>第8回 グループ別学習（実践④、振り返り④、技能④）</p> <p>第9回 グループ別学習（実践⑤、振り返り⑤、技能⑤）</p> <p>第10回 グループ別学習（実践⑥、振り返り⑥、技能⑥）</p> <p>第11回 グループ別学習（実践⑦、振り返り⑦、技能⑦）</p> <p>第12回 グループ別学習（実践⑧、振り返り⑧、技能⑧）</p> <p>第13回 グループ別学習（実践⑨、振り返り⑨、技能⑨）</p> <p>第14回 保育における現代的課題と私たち</p> <p>第15回 学習成果の発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのファイル」の加筆・整理。 ・実習の総括レポートのデータ化及び新たな考察の記述。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習をまとめたレポートの内容 — 50% ・発表会への取り組み（取り組み・成果物・内容） — 30% ・学びのファイルの内容 — 20% 									
参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 その他、適宜紹介します。			特記事項	設定された授業時間内にとどまらず、自主的な学習が必要になります。 【課題等へのフィードバック方法】 授業内でまとめた成果物について、話し合いを行い、教員もコメントをつけます。				
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修			幼保	教育実践に関する科目 総合演習				
実務経験のある教員等による授業内容									

ナンバリング	B③01	科目名	教育実習（実習指導）		担当教員	池谷 潤子 大澤 ちづる 郷家 史芸	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「教育課程・保育の計画と評価」萌文書林 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、子どもとのかかわり、適切な援助を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことで、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。 ・保育の過程を理解し、計画の立案から実践、評価までを行う体験（部分実習・責任実習等）のための準備を整える。 ・3週間という長期間の実習で、背景を含めた子どもの理解やこれまでの実習から見えてきたテーマについて、実習から見えてきた自己の良さや課題について、深く掘り下げるための準備ができる。 <p>■授業の概要</p> <p><事前指導></p> <p>1年次の実習の成果等を基に、実習のテーマを設定します。そして、①目的・テーマにそった実習の実施、②部分・責任実習等、保育の過程の理解に向けた準備、③幼稚園教育要領の理解、④記録の作成（経過記録／エピソード記録）⑤実践から自身の価値観や良さと課題の傾向を観ていきます。</p> <p><事後指導></p> <p>実習後の振り返りは、実習の総括レポートを基に、実習の記録や体験を基に仲間同士で振り返り、自身が実習を通して何を見て何を感じ、目の前の子どもとどのように関わり、なぜそのように考えたかなど実習のまとめを行います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 2年次の実習のねらいとすすめ方 第2回 実習をするということ・大切にしていきたいこと 第3回 これまでの実習を振り返りながらテーマを設定する 第4回 幼稚園教育要領を実習に生かす 第5回 園での子どもの生活・保育者の仕事をどう理解するのか 第6回 部分・責任実習に向けて① 第7回 記録の書き方 第8回 事前訪問（1日体験） 第9回 事前訪問の振り返りとまとめ 第10回 部分・責任実習に向けて② 第11回 教育実習において何をどう学ぶのか 第12回 事後指導① 第13回 事後指導② 第14回 事後指導③ 第15回 事後指導④</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の作成 ・これまでの実習記録の見直し・修正 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録及び指導案の課題 — 20% ・幼稚園教育要領の理解 — 20% ・実習の総括レポート — 40% ・実習成果の発表 — 20% 							
参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業に出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 <p>【課題等へのフィードバック方法】 課題やレポートは必要に応じてコメントを記入し返却します。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修			幼保	教育実践に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	<p>（大澤）国内外の幼稚園教諭経験があり、発達支援を目的とした音楽療法についても経験を有する （郷家）認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。</p>						

ナンバリング	B③06	科目名	教育実習（幼稚園Ⅱ）		担当教員	池谷潤子 大澤ちづる 郷家史芸	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館			単位数 授業形態	3単位 実習	開講時期	集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、子どもがどのように学び、生活をし、どう成長を遂げるのかなどその背景を含めて具体的に考察する。その理解にもとづき、幼児と適切に関わることができる。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の援助と、その基となる保育観や意図を理解する。 <p><園の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのかかわり、地域の幼児教育のセンターとしての使命など、様々な支援を理解する。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の過程を理解し、保育の計画立案、実践、自己評価、改善を試行することができる。この過程を通し、保育に必要な基礎的技術や情報機器の活用を身につける。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して自己の良さや課題、価値観などに気づく。 <p>■授業の概要</p> <p>本実習は、幼稚園教諭免許状を取得するために必要な実習の1つであり、3週間という長期に亘って実施されます。実習としては、教育実習Ⅰ・保育実習Ⅰに続くステップとなります。子ども理解、職務理解に加え、保護者への支援についても学びます。各自の実習課題をきちんと意識して臨むことが必要となります。</p> <p>■準備学習</p> <p>教育実習（実習指導）の受講および実習園からの課題</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で立てた目標の達成状況、実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 30% ・実習園からの評価 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修している事が条件となる。</p>							
参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・教育実習（幼稚園Ⅰ）の単位を修得していない場合、履修出来ません。 <p>【課題等へのフィードバック方法】 実習記録は必要に応じてコメントを記入して返却します。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修			幼保	教育実践に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	(郷家) 認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。						

ナンバリング	B③07	科目名	保育実習指導Ⅱ		担当教員	井上 裕美子 大村 あかね	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、総合的に保育を実践する。 ・実習や既習の教科目の内容との関連性を思考しながら、保育の実践に必要な力を習得する。 ・保育の観察、記録、自己評価等の検討に基づく保育における改善点について、具体的実践や事例を通して理解する。 ・保育所に従事する保育士の専門性について、具体的に理解し活用できる。 ・保育実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行うと共に、保育における課題や認識を明確化し可視化する。 <p>■授業の概要</p> <p>＜事前指導＞ 保育所における保育実習の意義と目的を理解し、保育所保育指針及び各教科との関連性を踏まえ、子ども一人一人に応じたかかわりや必要となる保育技術等、実習に臨む観点を明確にしていきます。保育における計画と実践、記録と自己評価の方法を学び、実習後には、それらの実際と改善について学びます。</p> <p>＜事後指導＞ 実習の総括を行い、保育士の専門性や職業への理解を深め、課題を明確にします。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 実習の目的・心構え／これまでの学びの確認 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育所保育と保育に関する制度の理解 第3回 保育所保育の内容と保護者支援 第4回 一人一人の子どもの状況に応じた適切な援助と関わり 第5回 これまで得た保育の知識・技能・技術を活かした具体的な保育の実践 第6回 実習園の概要と地域の理解 第7回 保育の過程と計画 第8回 全体的な計画に基づく長期・短期の計画の理解と作成 第9回 保育の観察、記録に基づくより良い保育の展開 第10回 経過記録の理解と作成 第11回 エピソード記録の理解と作成 第12回 保育における自己評価に基づく保育の改善 第13回 保育所に従事する保育士の専門性と職業倫理に関する理解 第14回 事後指導における保育所実習の総括と自己評価 第15回 今後の自己課題の明確化と可視化</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の準備課題の実施 ・これまでの実習記録の見直し、修正 ・低年齢児向けの指導計画の作成 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題 — 20% ・事後学習の際のふり返りのレポート — 40% ・実習記録・指導案の課題 — 40% 							
参考文献	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習準備のため授業の全てに出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。 <p>【課題等へのフィードバック方法】 課題やレポートは必要に応じてコメントを記入し返却します。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択必修			幼保	保育実習		
実務経験のある教員等による授業内容	(井上) 保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。						

ナンバリング	B③08	科目名	保育実習指導Ⅲ		担当教員	金子重紀 佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、総合的に保育を実践する。 ・実習や既習の教科目の内容との関連性を思考しながら、保育の実践に必要な力を習得する。 ・保育の観察、記録、自己評価等の検討に基づく保育における改善点について、具体的実践や事例を通して理解する。 ・施設に従事する保育士の専門性について、具体的に理解し活用できる。 ・保育実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行うと共に、保育における課題や認識を明確化し可視化する。 ■授業の概要 <事前指導> 本授業は、施設における保育実習の意義と目的を理解し、各教科との関連性を踏まえ、児童福祉施設等の実情の理解、利用者理解、必要な技能などの観点を明確化にするところにあります。施設における支援計画と支援計画による実践、記録と自己評価の方法を学び、実習後には実習の反省と改善すべき事項について学びます。 <事後指導> 実習の総括を行い、保育士の専門性の理解を深め、今後、就職に際して学生自身の課題を具体化します。							
■授業計画 第1回 実習の目的・心構え／これまでの学びの確認 第2回 利用者にとっての最善の利益を考慮した施設での生活と関連諸制度の理解 第3回 施設における生活の具体的内容と支援 第4回 一人一人の利用者の状況に応じた適切な支援と関わり 第5回 これまで得た知識・技能・技術を活かした具体的な支援の実践 第6回 実習施設の概要と地域の理解 第7回 保育の過程と計画 第8回 全体計画に基づく具体的な支援計画の理解 第9回 観察、記録に基づくより良い支援の展開 第10回 経過記録の理解と作成 第11回 エピソード記録の理解と作成 第12回 施設における支援の自己評価に基づく改善 第13回 施設に従事する保育士の専門性と職業倫理に関する理解 第14回 施設における保育実習の総括と自己評価 第15回 今後の自己課題の明確化と可視化							
■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の理解、制度、障がいについての学習 ・各自の準備課題の実施 ・これまでの実習記録の見直し、修正 							
■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題 — 20% ・事後学習の際のふり返りのレポート — 40% ・実習記録の課題 — 40% 							
参考文献	特になし。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習準備のため授業の全てに出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。 【課題等へのフィードバック方法】 課題にはコメントを記入し返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択必修			幼保	保育実習		
実務経験のある教員等による授業内容	(佐藤) 児童相談所(区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司)、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。						

ナンバリング	B③09	科目名	保育実習Ⅱ	担当教員	井上 裕美子 大村 あかね
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④	担当形態	複数		
テキスト	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		単位数 授業形態	2単位 実習	開講時期 集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p><施設理解> ・保育所の社会的役割やその機能について理解を深め、具体的な保育実践において活用できる。</p> <p><子どもの理解> ・子どもの観察やその援助、関わりの視点を明確にし、保育の具体的な理解を深める</p> <p><保育の過程理解> ・保育所における保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p><職務理解> ・保育所に従事する保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践と関連づけて理解する。 ・こどもの保育及び子育て支援について総合的な理解を深める。</p> <p><自己課題> ・自己の課題を明確化し、可視化する。</p> <p>■授業の概要</p> <p>保育所保育の全般に参加し、個々のニーズに対応したかわり方を考察する視点を培います。また、指導計画を作成、実践し、自己課題を確認します。さらに、今日の課題となる家庭や地域社会との連携を視野に入れてこどもの育ちを保障する職務を遂行する保育者についての理解を深めていきます。</p> <p>■授業計画</p> <p>おおむね11日間以上、90時間以上の実習を行います。実習においては、意欲を持って参加するとともに、出勤時間を守り、日々記録の作成と提出等を行うことが必要です。1年次からの全ての実習の経験や学びから、実習での目標を立て、それに向けた実習準備を行い達成できるよう実践します。</p> <p>子どもの理解、保育士の職務理解、施設理解等、実習での学びを深めるとともに、保育の過程を理解するための実践（部分実習や責任実習）などにも取り組む場合があります。</p> <p>実習を通して、保育士としてふさわしい心構えや態度、知識や技術の習得はもちろんのこと、保育や子育て支援の理解、専門職として自律する自己の理解も狙います。さらに、将来どのような職業に就くのかなど、具体的に就業を考える機会にもなるような学びの獲得を期待します。また、自身が設定したテーマやこれまでの実習の中で見えてきた良さや課題について、考察したり、さらに深く掘り下げていくことが求められます。</p> <p>実習においては、具体的に以下の内容について学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育の一体化と保育の展開 ・保育所の社会的役割及び責任とその機能 ・一人一人のこどもの心身の状態や集団での活動の観察 ・保育所における保育士等の援助と関わり ・保育所の生活の流れとあそびや活動の展開への理解 ・保育所保育と環境を通して行う保育 ・保育所保育と生活やあそびを通して総合的に行う保育 ・入所しているこどもとその保護者に対する子育て支援に関する理解 ・地域の保護者やそのこども等に対する子育て支援の理解 ・保育所とその関係機関や地域社会との連携・協働 ・全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程に関する理解 ・具体的指導計画に基づく保育の実践とその評価 ・多様な保育の内容・展開と保育士の具体的業務 ・多様な保育の内容・展開と保育士が順守する職業倫理 ・集大成としての保育実習における自己課題の明確化と可視化 <p>■準備学習</p> <p>保育実習指導Ⅱの受講および実習園からの課題</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で立てた目標の達成状況 — 10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習園からの評価 — 30% <p>※単位認定前提として、実習事前事後指導を学修している事が条件となる。</p>					
参考文献	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府		特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。 【課題等へのフィードバック方法】 ・実習記録に対して指導します。 	
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択必修		幼保	保育実習	
実務経験のある教員等による授業内容	(井上) 保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。				

ナンバリング	B③10	科目名	保育実習Ⅲ		担当教員	金子重紀 佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	複数			
テキスト	保育実習指導Ⅲで配布した資料等			単位数 授業形態	2単位 実習	開講時期	集中
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p><利用者理解></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活を通して、その時の利用者の気持ちを理解しようとし、考察し、具体的な支援に結びつける。 <p><施設理解></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設等（保育所以外）の社会的役割と機能に関して実践を通して総合的な理解を深める。 <p><職務理解></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設に従事する保育士の職業倫理・業務内容について、具体的な実践と関連付けて理解する。 子ども家庭支援、子ども家庭福祉、社会的養護などの理解を基本にして保護者支援、家庭支援に関する知識・技能、技術を習得する。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を明確化し、可視化する。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業は、児童福祉施設等（保育所以外）の保育、生活支援全般に参加して個別のニーズに対応した関わり方を考察する視点を培うこととする。また、個別支援計画を作成、実践して自己課題を確認する。更に、今日的課題となる家庭支援、地域支援における関係機関との連携に関して「保育者のあり方」を理解する。</p> <p>■授業計画</p> <p>概ね11日間以上且つ90時間以上の実習を実施します。</p> <p>実習に際して意欲・目的意識を持って参加するとともに、勤務時間の順守及び、日常の記録の作成と提出などが必要になります。また、これまでの実習経験と学びの成果を基盤として保育者・施設職員としての心構えの習得はもちろんのこと、より一層、実際の支援に結び付く知識と技術を獲得して専門性の向上に努めることが求められます。</p> <p>実習を通じて「自分は、将来、どのような職業に就くのか」などの就業を考える機会となるような学びの獲得を期待します。そのためには、自身の設定したテーマの明確化と実習を通しての疑問、課題などを考察したり、深く掘り下げる姿勢が求められます。</p> <p>実習においては、具体的に以下の内容について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設等（保育所以外）の社会的役割とその具体的機能 施設における支援の実際とその具体的事例 子ども（利用者）を受容し、共感する態度に関する具体的実践 個人差や生活環境に応じた子ども（利用者）のニーズの把握と理解 施設における個別支援計画の理解と作成 施設における個別支援計画に基づいた実践 家庭支援の実際 児童福祉施設等における多様な専門職との連携・協働 児童養護施設等と地域社会との連携・協働 児童福祉施設等における保育士の多様な業務内容と職業倫理 集大成としての保育実習における自己課題の明確化と可視化 <p>■準備学習</p> <p>保育実習指導Ⅲの受講および実習先からの課題</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前指導の目標の達成状況 — 10% 実習の取り組み状況 — 40% 実習記録 — 20% 実習園からの評価表 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修していることが条件となる。</p>							
参考文献	授業中に適宜紹介する。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。 <p>【課題等へのフィードバック方法】 実習記録は必要に応じてコメントを記入し返却する。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択必修			幼保	保育実習		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B④06	科目名	あそび技能演習	担当教員	阿部友理 池谷潤子 園田真名美 山田典子
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③	担当形態	オムニバス		
テキスト	適宜プリントを配布します。	単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に対して保育現場で期待されている基礎技能を身につけ、実演できる。 ・手あそび、パネルシアター、音楽表現遊び、身体遊びなどの活動するための技能を身につける。 ・様々な表現活動を展開する保育者としての姿勢を身につける。 ・教育実習での活動をイメージした指導案の作成と活動を展開できる。 <p>■授業の概要</p> <p>保育現場で求められる技能について学び、実践する力をつけていくために、教育実習Ⅱに向けて、「つくって、あそぶ」「お話をたのしむ」「体を育てるあそび」「音楽表現あそび」といった多様な角度から準備を進めていきます。そして実習後には、その反省を踏まえ、更に技能を高めていく工夫について、考えていきます。</p> <p>各授業において確認のために小テストを行い、最終的には、全員が各テーマに取り組み、課題確認テストを行ないます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 身近な素材でつくって、あそぶ（池谷） 第2回 素話・お話を体験する（山田） 第3回 様々なダンス（園田） 第4回 歌の教材作りと発表（阿部） 第5回 パネルシアターをつくる（池谷） 第6回 絵本と紙芝居（山田） 第7回 発達にあわせたゲームの展開（園田） 第8回 音楽表現あそびの実践、指導案作成について（阿部） 第9回 「身近な素材でつくって、あそぶ」「パネルシアターをつくる」のふりかえりと改善（池谷） 第10回 「素話・お話を体験する」「絵本と紙芝居」のふりかえりと改善（山田） 第11回 「様々なダンス」「発達にあわせたゲームの展開」のふりかえりと改善（園田） 第12回 「音楽表現あそびと指導案のふりかえりと改善」（阿部） 第13回 教育実習の経験を踏まえた課題決定（全員） 第14回 教育実習の経験を踏まえた模擬実践（課題確認テスト）（全員） 第15回 模擬実践の総評・まとめレポート作成（全員）</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で出された課題について、活動案を考え、準備・実践を行うこと。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（製作物や実技での確認） — 40% ・授業での取り組み（ワークショップへの積極的な取り組みや発言内容） — 40% ・レポート — 20% 					
参考文献	取り組まれる課題により示される。 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説書」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館	特記事項	・課題実施の進展を把握するため「課題カード」を持ち、必ず各自で記入し、授業後担当教員に提出してください。 「課題カード」が未提出の場合、欠席扱いになります。 【課題等のフィードバック方法】 ・課題の発表にはコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修	幼保	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容					

ナンバリング	B④08	科目名	あそび実践演習（音楽）		担当教員	阿部友理	
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	単独				
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と音楽的表現に関する知識と技術を身につけ、実践することができる。 ・子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成及び保育の具体的な展開に必要な知識と技術が身につけ、実践することができる。 ■授業の概要 <p>教育・保育実習を振り返りながら、子どもの音楽的発達や保育における音楽環境について考える。 また、子どもが音楽に親しみ、歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなどの楽しさが味わえるような遊び・環境・具体的な援助について学ぶ。</p> ■授業計画 <p>第1回 「音楽と私」「こどもと音楽」を考える 第2回 歌の教材作りと実践 第3回 リズム楽器と音遊び 第4回 身体を使った表現 第5回 手作り楽器と音遊び 第6回 実習の振り返りと音楽環境を考える 第7回 障がい児者の音楽活動について 第8回 こどもの音楽表現について</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとに振り返り、記録を整理する。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業記録、課題 60% ・授業での取り組み（実技、発言、発表）40% 							
参考文献	「こどものうた100」チャイルド社 「こどものうた200」チャイルド社 「続こどものうた200」チャイルド社			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・手作り楽器や教材の材料の準備は各自で行うこととする。 【課題へのフィードバック方法】 ・授業記録や課題のコメントは個別にも行う。 		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	幼稚園教諭、子どもや障がい児者の音楽活動の経験を活かし、エピソードを取り上げながらより実践的な授業を行います。						

ナンバリング	B④09	科目名	あそび実践演習（造形）		担当教員	久保寺 賀 子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料の配布（配信）			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 保幼小における造形活動の連続性を踏まえ、教材研究や実践の視点から幼児の造形表現を理解し、こどもの遊びを豊かな経験へと発展させるための造形活用を行う。</p> <p>■授業の概要 こどもの学びは、日常生活の中の遊びを通して自然に体得します。ここに造形遊びを導入することで、全身を使った表現を獲得し、心身の発育を促します。保育者には、こどもの創造性や発想、思考を理解し、同調することが求められます。そのため、保育者も豊かな感性や柔軟な思考が必要とされます。ここでは、造形の基礎を主軸に素材の可能性を探求し、実践へとつなげます。私たちの身の回りにある多種多様な素材の特性や性質を理解し、表現内容へと創造していく過程を重視します。</p> <p>■授業計画 第1回 保幼小の造形について 第2回 表現の原理（色彩） 第3回 素材の探求「生活素材」 第4回 素材の探求「自然素材」 第5回 鑑賞「対話による美術鑑賞」 第6回 保育現場における造形活動の方法 第7回 幼児の造形活動の応用と展開① 第8回 幼児の造形活動の応用と展開②</p> <p>■準備学習 各回の授業内で説明およびプリント配布（もしくはネット配信）にて提示します。</p> <p>■評価方法 授業への出席と積極的な参加態度や姿勢、提出物（作品やポートフォリオ、レポート）による総合評価</p>							
参考文献	榎 英子「保育をひらく造形表現」萌文書林 樋口一成「幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形素材」萌文書林			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 準備学習の予習をおこない、授業内の経験を以って授業後の復習へとつなげること。作成課題に関する資料収集や過程を記録し、感想やカリキュラムの考案を加えてポートフォリオにまとめること。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B④10	科目名	あそび実践演習（運動）		担当教員	田 中 葵	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ・動きの質を理解し、その要素を使った即興を楽しむことができる。 ・子どもの動きから学び、そこからのさまざまな遊びの展開について考え、検討することができる。							
■授業の概要 本授業の前半は、動きの質に関係する空間・時間・エネルギーに焦点を当てながら、動きで即興的に遊びます。また、毎授業、ペアやグループで互いの動きから学び合います。後半は、子どもたちと遊びながら、子どもがどのような動きを楽しんでいるか、それによりどのような経験をしているのかを観察し、考察します。							
■授業計画 第1回 オリエンテーション：身体の再発見、指の研究 第2回 空間：床の図形をつくって遊んでみる 第3回 時間：自然のリズムを探す、調べる、遊ぶ 第4回 エネルギー：気まぐれな1分間を過ごしてみる 第5回 描く：空間に絵を描いてみよう 第6回 身近なものに触れて感じて遊ぼう、学外学習の準備 第7回 フィールドワーク 子どもと遊ぶ、観察する、関わりあう 第8回 ふりかえり、まとめ							
■準備学習 ・授業で行われる技能や課題について自己練習をすること。 ・毎授業後にはレポートを提出すること。							
■評価方法 ・授業での取り組み（実技への積極的な取り組み） — 50% ・実技の成果 — 40% ・授業毎のレポート — 10%							
参考文献	無藤隆他（2007）「領域表現」萌文書林、西洋子他（2003）「子ども・からだ・表現—豊かな保育内容のための理論と演習」市村出版等、随時紹介する。			特記事項	・体を動かしやすい服装と上履きで参加すること。 【課題等へのフィードバック方法】 ・授業毎のレポートにはコメント等を書き加えて返却する。 ・発表の際には口頭でコメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B④11	科目名	あそび実践演習（言葉）		担当教員	池谷潤子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 言葉を使った保育実践の意義を理解し、説明できる。</p> <p>(2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、実践できる。</p> <p>(3) 言葉に関わる児童文化財の意義を理解し、周辺領域である音楽や造形、身体による表現を含めた実践的な技能を身につける。</p> <p>■授業の概要</p> <p>幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を学び、「言葉」を使った保育実践の意義について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践を身につける。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回：児童文化財の紹介、パネルシアターの製作（1）</p> <p>第2回：パネルシアターの製作（2）</p> <p>第3回：パネルシアターの製作（3）と発表</p> <p>第4回：わらべうたの実践（1） 様々なわらべうたを学ぶ</p> <p>第5回：わらべうたの実践（2） わらべうた音階の音楽アンサンブル</p> <p>第6回：紙芝居を演じる（1） 様々な紙芝居の紹介</p> <p>第7回：紙芝居を演じる（2） と発表</p> <p>第8回：言葉のリズムと音楽 ドラムサークルの体験</p> <p>■学習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題となるパネルシアター、わらべうた、紙芝居について図書館等で調べておくこと <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度（グループ活動、発表、模擬保育等） — 60% 小レポート（テーマごとの授業での学びのふりかえり） — 20% 最終レポート（授業での学びのふりかえりと今後の展開） — 20% 							
参考文献	「増田裕子のミュージックパネル（子どもとあそび傑作選）」増田裕子 「オルフ・シュールヴェルク：子どものための音楽 1、わらべうたと即興表現」カール・オルフ 「紙芝居・共感のよろこび」まついのりこ 「映像で見る0・1・2歳のふれあいうた・あそびうた」エイデル出版（DVD）			特記事項	パネルシアターの製作のための材料等は各自で購入します。 【課題等のフィードバック方法】 レポートにはコメントを記入して返却する		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B④12	科目名	あそび実践演習（自然）		担当教員	古賀琢也	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 ・身近な植物や生き物を実際に見たり、触れたりし、自分なりの興味・関心を言葉などで表現できる。 ・木の実や枝葉など身近な素材をあそびや保育の中にどのように取り入れられるかを考えられる。 ・自分が関心を持ったことを文献等で調べ、活かすことができる。							
■授業の概要 普段出会っている植物や生き物など身近な自然に目を向け、自分なりの興味やおもしろいと思ったことを語り合う。また、それらを遊びの中あるいは保育の中に取り入れるためにどのような工夫や配慮が必要かを考えていく。 フィールドワーク、図鑑等の文献を基に各自調べたことを加えてまとめ、意見を交換することで学びを深めていく。							
■授業計画 第1回 オリエンテーション、自分の原風景、実習先での身近な自然とこどもとの関わり 第2回 センス・オブ・ワンダーって何？ 図鑑や本に親しむ 第3回 まちを歩いてみよう 第4回 あそびの探求と意見交換 第5回 集めてみる・並べてみる・使ってみる 第6回 あそびの探求と意見交換 第7回 テーマ・つながりを意識する 遊びのしりとり 第8回 振り返り、まとめ							
■準備学習 ・授業に際し、指定された資料がある場合は読み、考えをまとめてくること ・前回の授業で調べたこと、学んだことを整理しておく							
■評価方法 ・授業・活動への参加の姿勢（取り組み、発言）－40% ・小レポート－30% ・まとめのレポート－30%							
参考文献	「そんなふう生きていたのね まちの植物」雷鳥社			特記事項	【課題等のフィードバック方法】 レポートにはコメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修選択			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	保育所、認定こども園での勤務経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組みの方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行う。						

ナンバリング	B④07	科目名	音楽表現演習Ⅲ		担当教員	現る子 美子 子 ちづ 記朋 桂琴 直
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	クラス分け・単独		明大木清 曾福松	石澤村水我 中井
テキスト	ギターコース：「新ギター教本」ギタラ社 共通テキスト：「こどものうた100」チャイルド社 適宜、楽譜や資料を配布する		単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 ピアノやギターによる伴奏を弾きながら「こどものうた」を豊かに表現し、保育で応用する技術が身につく。具体的には、教育実習Ⅱ（幼稚園実習）に向けて「子どもの歌」のレパートリーを増やすとともにコードネームから簡易伴奏をつくる知識・技術の習得を目指す。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。</p> <p>■授業の概要 保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターを用いた弾き歌いの力量を高め、豊富なレパートリーをもとに応用できることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。教育実習Ⅱでは「こどもの歌」の弾きうたい伴奏を求められることが多く、この授業はそのための準備も兼ねている。実習園の課題曲についても、個々に応じて指導する。一方で、表現技術の向上、就職試験に備えて独奏曲の指導も行う。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 保育における音楽の役割 第2回 季節の歌 第3回 行事の歌 第4回 生活の歌 日本のこどものうたの歴史 第5回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い① 第6回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い② 第7回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い③ 第8回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い④ 第9回 伴奏パターン④ 第10回 伴奏パターン⑤ 第11回 乳幼児期と楽器—打楽器の特徴と奏法 第12回 学生と教職員によるコンサートの参加と鑑賞 第13回 独奏曲 第14回 独奏曲・リハーサル 第15回 まとめ・実技試験</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、必ず実技の課題に関する自己練習をしておくこと。 ・終了した課題曲に関しても日常的に復習をして、レパートリーの蓄積をすること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題曲の達成度・弾き歌いの実技試験 — 60% ・授業内の取り組み — 40% 						
参考文献	「幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」教育芸術社 「こどものうた200」チャイルド社 「続こどものうた200」チャイルド社 「保育者・教師をめざす人、集まれ！みんなピアノだい好き！」 全音楽譜出版社 「マンガでわかる楽譜入門」誠文堂新光社		特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得には10曲以上の課題曲達成が必要となる。継続的に自己練習を行うこと。 ・免許・資格の取得を希望する場合、必ず履修すること。 <p>【課題等へのフィードバック方法】 発表に対しては、適宜コメントをする。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択		幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容						

ナンバリング	B④13	科目名	音楽表現演習Ⅳ		担当教員	明石 現 阿部 友理 大澤 ちづる 福中 琴子	
ディプロマポリシーとの関連性	①	担当形態	クラス分け				
テキスト	「こどものうた100」チャイルド本社 演奏技術に応じて、練習曲集を適宜指示する。			単位数 授業形態	1単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ピアノやギターによる伴奏を弾きながら「こどものうた」を豊かに表現し、保育で実践的に応用できる力・発展できる力が身につく。音楽的な感性を豊かにし、演奏技術の確実なレベルアップを図り、学内のコンサートで発表する。							
■授業の概要 保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターを用いた弾き歌いの力量を高め、豊富なレパートリーをもとに応用・発展できることを目的として、個人指導を行う。ピアノコースでは、連弾を取り入れて、互いを感じながら、演奏する機会を設けている。授業での取り組みとともに、コンサートでの実技発表を実施する。							
■授業計画 第1回 オリエンテーション 演奏技術の確認と計画立案 第2回 弾き歌いと練習曲① 春 第3回 弾き歌いと練習曲② 夏 第4回 弾き歌いと練習曲③ 秋 第5回 弾き歌いと練習曲④ 冬 第6回 連弾・アンサンブル① 弾くこと 第7回 連弾・アンサンブル② 聴くこと 第8回 連弾・アンサンブル③ 表現すること 第9回 独奏曲 第10回 学生と教職員によるコンサート① 準備 第11回 学生と教職員によるコンサート② 準備 第12回 学生と教職員によるコンサート③ リハーサル 第13回 学生と教職員によるコンサート④ 発表と鑑賞 第14回 独奏曲 第15回 まとめ							
■準備学習 ・授業前に、必ず実技の課題に関する自己練習をしておくこと。 ・終了した課題曲に関しても日常的に復習をして、レパートリーの蓄積をすること。							
■評価方法 ・授業での取り組み（実技で確認） — 50% ・コンサートでの発表 — 50%							
参考文献	「こどものうた200」チャイルド本社 「続こどものうた200」チャイルド本社			特記事項	継続的に自己練習を行うこと。 【課題等のフィードバック方法】 発表に対しては、適宜コメントをする。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格選択			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	幼稚園での勤務経験を活かし、保育者に求められる実践力を踏まえ、今日的課題である保育における音楽の質について触れながら、授業を展開することができる。						

ナンバリング	B⑤04	科目名	社会的養護Ⅱ	担当教員	砥上正樹		
ディプロマポリシーとの関連性	①・③		担当形態	単独			
テキスト	小野澤 昇／大塚良一／田中利則編著「子どもの未来を支える 社会的養護」ミネルヴァ書房			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の特長や機能を理解し説明できる。 ・施設は子どもたちの発達保障にどのような役割を果たすべきかを理解し、説明することができる。 <p>■授業の概要</p> <p>社会的養護の理念である「子どもの最善の利益のために、社会全体で子どもをはぐくむ」の意味を理解しながら保育士としての役割を学ぶ。また、演習を通して児童福祉施設で暮らす子どもたちや通所利用している子どもたちの成長にどのように関わっていけばよいのかを考えていく。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 社会的養護の内容（1）こども理解 第2回 社会的養護の内容（2）日常生活支援 第3回 社会的養護の内容（3）治療的支援・自立支援 第4回 社会的養護の実際（1）児童相談所 第5回 社会的養護の実際（2）養育環境に問題がある児童の施設養護（乳児院・母子生活支援施設） 第6回 社会的養護の実際（3）養育環境に問題がある児童の施設養護（児童養護施設・児童自立援助ホーム） 第7回 社会的養護の実際（4）情緒・行動面に問題がある児童の施設養護（児童自立支援施設・児童心理治療施設） 第8回 社会的養護の実際（5）障害のある児童の施設養護 第9回 社会的養護の実際（6）家庭養護を支援する施設 第10回 社会的養護の実際（7）家庭養護 第11回 施設養護を支える職員の資質と援助力 第12回 社会的養護における支援の計画・記録・自己評価 第13回 社会的養護に関わる相談援助の知識と技術と実践 第14回 社会的養護の課題と今後の展望 第15回 まとめ・期末テスト</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で学んだことや疑問を整理し、授業の中で生かすと共に、疑問を解決していけるように自分の考え方をまとめておく。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業へ取り組む姿勢・積極的な発言 — 30% ・期末テスト・レポート課題 — 70% 							
参考文献	授業において紹介する。			特記事項	<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義・演習・ディスカッション。 【課題等へのフィードバック方法】 ・試験後模範解答を提示し、解説する。 ・レポートなどの課題にはコメントを書き加えて返却する。 		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑤05	科目名	こども家庭支援論		担当教員	佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	③・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	2単位 講義	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭に対する支援の目的を説明できる。 ・家庭支援の意義と必要性を理解して子育て家庭に関わる制度、支援体制などを説明できる。 ・多様な支援の展開と支援の現状、課題などを整理して説明できる。 ・児童虐待防止のための発見、通告、また、関係機関との連携などを理解して子どもの権利擁護に尽力する。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業は、子育て家庭の直面する問題を理解するとともに、保育の専門性を活かした多様な支援の展開と家庭支援の必要性の背景を理解して適切な支援に結び付けることとする。</p> <p>なお、授業の進捗状況等により、若干、前後することもあり得る。また、状況に応じてオンデマンド型授業を取り入れる。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 こども家庭支援の意義と必要性 第2回 こども家庭支援の目的と機能 第3回 保育の専門性を活かした家庭支援－保育士に求められる態度－ 第4回 保護者支援の変遷－保護者及び地域の子育て実践力の向上に資する支援－ 第5回 保育士による支援① 家庭の状況に応じた支援 第6回 保育士による支援② 国・都道府県・市町村の役割と関係機関等との連携・協働 第7回 家庭支援のための社会資源－社会資源の意味と支援の対象－ 第8回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第9回 児童虐待の理解① 虐待の定義の理解 第10回 児童虐待の理解② 発見・通告・介入・支援、市町村要保護児童対策地域協議会 第11回 子育て支援を巡る社会資源① 保育所入所児童の家庭支援 第12回 子育て支援を巡る社会資源② 地域の子育て家庭への支援－相談窓口の理解－ 第13回 子育て支援サービスの現状と課題 第14回 期末テスト 第15回 総括</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高校社会科の社会福祉、社会保障、社会保険、国の一般会計などを復習して授業に参加する。 ・授業中「分からない」は「(何が)分からない」と明確化して授業に取り組むこととする。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、発言内容 20% ・課題（提出期限厳守）20% ・期末試験60% 							
参考文献	【保育所保育指針】 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】 松本園子・堀口美智子・森和子著『子どもと家庭の福祉を学ぶ〔改訂版〕』ななみ書房、2017年（ISBN-13：978-4903355665） 宮崎正宇・大月和彦・櫻井慶一編著『新保育ライブラリ 社会的養護〔新版〕』北大路書房、2020年（ISBN-13：978-4762828409）			特記事項	・授業中の私語、飲食、化粧、電子機器使用などは禁止する。 【課題等へのフィードバック方法】 ・課題、期末テストは模範解答などを提示して解説する。		
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修			幼保	保育の本質・目的に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。						

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「子どもと芸術Ⅰ」		担当教員	明 石 現	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 子どもの育みに、芸術が如何に関わり、繋がり行く何かで在り得るかを考察する。その大切な軸として、子どもが持つ多様性を受け入れる柔軟なところへの発見、敬意を据え、保育と芸術の関わりの答えを導くための課題を、具体的な芸術という体験の中で見つめ、発見し、その認識を持ち具体的方策を説明する事が出来ることを到達目標とする。</p> <p>■授業の概要 本授業のテーマおよび概要は、子どもの育みへの芸術の関与であり、探求である。「福祉の音プロジェクト」(手話合唱)をはじめ、芸術には子どもが持つ多様性を受け入れる柔軟なところを引き出す力があるという視点から始め、音楽、文学、映像等の芸術作品の鑑賞、考察を行い、個々の課題を設定する。</p> <p>■授業計画 第1回 オリエンテーション 授業の方向性の確認 第2回 「子どもの多様性を受け入れる柔軟なところ」とは何か ディスカッション 第3回 「子ども」を考える① 文学を通して 第4回 「子ども」を考える② 文学を通して 第5回 「子ども」を考える③ 映像作品を通して 第6回 「福祉」を考える① 文学を通して 第7回 「福祉」を考える② 文学を通して 第8回 「福祉」を考える③ 映像作品を通して 第9回 「社会」を考える① 文学を通して 第10回 「社会」を考える② 文学を通して 第11回 「社会」を考える③ 映像作品を通して 第12回 「福祉の音プロジェクト」① 手話合唱について 第13回 「福祉の音プロジェクト」② 保育、福祉と芸術の接点 第14回 「福祉の音プロジェクト」③ プロジェクトの成り立ちについて 第15回 「福祉の音プロジェクト」④ まとめ</p> <p>■準備学習 ・指示した課題、レポートを期限内に行うこと。 ・事前学習等、円滑なグループワークの準備、自己練習に取り組むこと。</p> <p>■評価方法 ・授業への参加、取り組み姿勢 — 70% ・小レポート作成 — 30%</p>							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・今西祐行「一つの花」ポプラポケット文庫 ・ヘレン・ケラー「光の中へ」めるくまー他 			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 ゼミ内でレポートを共有し、それに対し教員がコメントを加えます。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「学内の子育て支援「たいむ」について学ぶ」		担当教員	池谷潤子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 ・子育て支援の具体的内容について理解し、説明できる。・文献・資料・映像等を通して、保育現場の実践と課題について理解し、説明できる。 ・グループディスカッションを通して、自分の解決すべき課題を発見することができる。							
■授業の概要 学内の子育て支援「たいむ」の環境（室内・外、人・物）、保護者と子どもとの関わり、スタッフの経験談等から子育て支援と保育者の役割についての理解を深める。 また文献・映像等から、保育現場での様々な取り組みや課題について学び、話し合いで自分の意見を述べ、互いに理解することなど、学生の表現力や多様な視点から物事を捉える力を高めることもねらいとします。 機会があれば、学生が製作した作品（パネルシアター等）を用いてたいむに遊びに来ている子どもたちに発表し、その活動のふりかえりも行います。							
■授業計画 第1回 オリエンテーション ゼミのねらいと活動について 第2回 子育て支援とは何か？（1）「たいむ」について 第3回 子育て支援とは何か？（2）様々な支援の形について 第4回 たいむのスタッフから話を聞く 第5回 たいむの環境整備（室内） 第6回 たいむの環境整備（屋外） 第7回 実習に向けて 自己課題を考える 第8回 実習のふりかえりと今後の課題 第9回 たいむでのボランティア 第10回 保育についての資料を読む（保育現場におけるおもちゃ） 第11回 保育についての資料を読む（園庭・室内環境） 第12回 保育映像を見る（特徴的な保育） 第13回 たいむの環境整備（屋外） 第14回 自己課題の検討と準備 第15回 前期のまとめ							
■準備学習 ・授業内で出された課題について、小レポートを書いてくること							
■評価方法 ・授業での取り組み（話し合いにおける積極的な参加と発言） — 60% ・ふりかえりレポート — 40%							
参考文献	保育・子育て支援演習（萌文書林） 雑誌「エデュカール」（臨床育児保育研究会）			特記事項	【課題等のフィードバック方法】 小レポート、発表課題についてコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング		科目名	専門総合演習 「子ども理解 他者理解Ⅰ」		担当教員	伊藤 恵里子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態				
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の語りを聴き、感じたことや考えたことを言葉にすることができる。 ・「子ども（他者）理解」という保育者にとって重要な姿勢についてあらためて考察する。 ・卒業レポートにおいて自ら取り組みたい課題を発見する。 <p>■授業の概要</p> <p>「保育とは一人ひとりの子どもを理解するところから始まる」ということは、これまで保育を学んできたみなさんにとっては自明のことなのではないでしょうか。本授業では、あらためて「子ども理解」について学んでいきますが、子どもだけでなく、私たちが出会うさまざまな「他者」について理解しようとすることを目指しています。</p> <p>保育者にとってなぜ子ども（他者）を理解することが重要なのかを考えるとところから始め、ドキュメンタリーや生活史等を用い、さまざまな他者の語りに耳を傾け、それぞれの人について理解しようとしています。授業の終わりには、受講生一人ひとりの追求したい課題を見出していきます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：他者の話を聴く 第2回 あらためて「子ども理解」とは 第3回 実習で出会った子どもの事例から考える① 第4回 実習で出会った子どもの事例から考える② 第5回 ドキュメンタリーを鑑賞する 第6回 ドキュメンタリーのふりかえり 第7回 「生活史調査」について学ぶ 第8回 生活史を読む① 第9回 生活史を読む② 第10回 生活史のふりかえり 第11回 実習で出会った他者の事例から考える 第12回 さまざまな他者について調べる① 第13回 さまざまな他者について調べる② 第14回 卒業レポート題目発表会 第15回 まとめ：他者理解の重要性</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された参考資料を読んだ上で授業に臨むこと。 ・提示された課題について調査・検討してくること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの取り組み姿勢－30% ・授業内課題－30% ・課題発見への取り組み姿勢－40% 							
参考文献	適宜紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 授業内課題等の提出物に対しては、適宜コメントを記入し返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング		科目名	専門総合演習 「子どもの姿を捉えるⅠ」		担当教員	井上 裕美子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を育む保育の実際を幼稚園、保育所、認定こども園などに参加し、体感する。 ・フィールドワークを行う中で、子どもたちの姿を見取り、考察した内容を記すことができる。 ・気づいたことや学んだことを整理し、プレゼンテーションするを通して伝えることができる。 ・自分の興味・関心に基づき、明らかにする課題を見つけることができる。 ■授業の概要 <p>保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、様々な子どもの姿が記されています。子どもについて記されている内容を、子どもの実際の姿と照らしあわせ、理解につなげるため、フィールドワークを行います。また、子どもの姿の捉えについて、グループワークを重ねながら考えていきます。自分の考察をレポートに記すだけでなく、グループワークで共有・検討することで多様な捉え方に気づくことを目指します。プレゼンテーションを作成し、気づきや学びを他者へ伝える方法を学びます。</p> ■授業計画 <p>第1回 オリエンテーション かしこい体とじょうぶな頭 第2回 事例検討①保育所・認定こども園での事例 第3回 事例検討②これまでの実習・ボランティア 第4回 フィールドワークへ向けて 第5回 フィールドワーク（1） 第6回 フィールドワーク（1） 振り返り・グループワーク 第7回 資料収集・文献調査 第8回 プレゼンテーションの方法を知る 第9回 プレゼンテーションを作成 第10回 フィールドワーク（2） 第11回 フィールドワーク（2） 第12回 フィールドワーク（2） 振り返り・グループワーク 第13回 資料収集・プレゼンテーション作成 第14回 資料収集・プレゼンテーション作成 第15回 発表 後期に向けて</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された資料を読み、自身の見解をまとめる。 ・フィールドワークを振り返りレポートに表す。 ・グループワークとしてプレゼンテーションを完成させる。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークへの参加の姿勢 — 40% ・レポートの提出（提出期限厳守） — 30% ・プレゼンテーションの発表内容 — 30% 							
参考文献	適宜資料を配布する。			特記事項	フィールドワークの交通費は自己負担とります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポート等には、コメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。						

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「子どもの表現と表現する自分」	担当教員	大澤 ちづる	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独		
テキスト	適宜、資料を配布する			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期 前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものさまざまな「表現」について学び、グループディスカッションを通して、自らの考えを見出したり、他者の意見を受け入れたりしながら、自己課題を発見する。 ・自分の声に向き合い、歌を歌う経験を通して、豊かな感性と表現力を高める。 <p>■授業の概要</p> <p>保育者は、子どものモデルです。子どもの前に立つとき、保育者は、常に見られる存在となります。保育者の立ち居振る舞いや言葉は、子どもに刷り込まれていきます。皆さんは、見られる自分をどれほど意識したことがあるでしょうか。</p> <p>本演習では、年間を通じて、声や歌で表現する経験を通して、歌う楽しさを体感し、表現の豊かさ探求します。表現する自分、見られる自分を意識し、人に何かを伝えるために自分に必要なものは何か、自己課題を発見して欲しいと思います。</p> <p>前期は、子どもの表現について考え、学ぶことと並行して、自己の表現活動を行います。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション ゼミのねらいと内容について 第2回 日本の保育現場における表現活動について事例紹介 第3回 海外の保育現場における表現活動について事例紹介 第4回 子どもの表現①「子どもに生きる」子どもの目 第5回 表現活動① 第6回 幼稚園実習に向けて 活動内容検討 第7回 幼稚園実習に向けて 指導案検討 第8回 幼稚園実習のふりかえり 自己課題について 第9回 幼稚園実習のふりかえり 表現について 第10回 表現活動② 第11回 子どもの表現②「子どもに生きる」環境に込める保育者の願い 第12回 子どもの表現③「子どもに生きる」共に表現する保育者 第13回 子どもの表現④「子どもに生きる」保育の仕事場 第14回 表現活動③ 表現発表 第15回 まとめ・後期にむけて</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業で取り扱う指示された文献等を事前に読み込んでおくこと。 ・音楽表現の実践については、与えられた課題を自己練習すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（討議への積極的な参加、発言内容、実技） — 50% ・レポート — 20% ・実技発表 — 30% 						
参考文献	青木久子「新保育者論 子どもに生きる」萌文書林 「オペラシアターこんにゃく座ソング集 世界は劇場1」 全音楽譜出版社		特記事項	ワークショップの参加を予定しています。参加費は自己負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 発表課題についてコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修		幼保			
実務経験のある教員等による授業内容						

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「他者理解を試みる～様々な当事者に出会う～」		担当教員	大村 あかね	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 他者への想像力を持ち、当事者としての自分を語る大人になっていくために、本授業では「当事者」というキーワードを立て、以下のことを目指します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な当事者の語りに謙虚に耳を傾け、その体験世界を知って感じたことを言葉にすることが出来る。 2. 他者を理解する自分の視点を、相対的に捉えることができる。 3. 自ら取り組みたい課題を見つける。 ■授業の概要 どのような人も、特定の他者と出会い、時間や空間を共にしたり、かかわりを持ちながら生きており、それはこれからは続きます。それは職業人としても、対人援助職に限らず言えることです。 保育者であれば、子ども、保護者、同僚、上司等、更にそのような一般的な枠組みとどまらない、「その子」「その人」たちとの関係の中で、生きていくのです。 当事者としての「その人」の体験を知ろうとすることは、共に生きていく上で、とても大切なことです。究極的にはその人にならない限り分からないことだとしても、その人の書いたものや語りから、その人にとっての事実を知ることが出来ます。 そして、私たち自身も、様々なことの当事者です。他者を理解しようとするを通して、実は自分がどのような当事者なのかを自覚することに繋がっていきます。 授業の終わりには、一人ひとりが、自分の課題・関心を見いだすことを目指します。 ■授業計画 第1回 オリエンテーション 自分の興味・関心を探る 第2回 当事者の体験を知る①（障害者の世界に出会う） 第3回 ふりかえりトーク・まとめ① 第4回 当事者の体験を知る②（親となった人に出会う） 第5回 ふりかえりトーク・まとめ② 第6回 当事者の体験を知る③（保育の当事者に出会う） 第7回 ふりかえりトーク・まとめ③ 第8回 教育実習期間に向けて 第9回 教育実習期間をふりかえって 第10回 当事者としての私①（マインドマップで明確化する） 第11回 当事者としての私②（語り合う・自己理解を深める） 第12回 新聞記事からみつけよう（多様な他者、他者が携わる活動） 第13回 図書館で調べよう（新聞記事をきっかけに、調べを進めてみよう） 第14回 他者とのかかわるために（FWの心得） 第15回 取り組みたい課題について発表しあう ■準備学習 ・あらかじめ提示された参考資料は、読んで理解した上で臨むこと。 ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 ■評価方法 ・話し合いや演習への積極的な参加 — 40% ・小レポート — 20% ・課題発見への取り組み — 40%							
参考文献	随時紹介します。			特記事項	小レポート、レジュメ等は全てPCで作成すること。 【課題等へのフィードバック方法】 小レポート等の提出物は、必要に応じてコメントを記入して、必ず学生に返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「個人を尊重する人間関係を探るⅠ」		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の特徴を語ることができる。 ・自分なりの人間関係のあり方について語ることができる。 ・個人を尊重する社会のあり方を考えることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>担当教員は、1年次に憲法の学習で個人の尊重を基軸に講義してきた。しかし、「個人」が「尊重」に基づく人間関係あるいは社会の在り方について、私たちは実現できていない。特に情報化社会の中で、個人と個人の関係、社会と個人の関係はより複雑になり、個人を尊重することがより危機に瀕しているとさえ言える。社会に出る前に、個人を尊重するとはどういうことであるかをできるだけ深く考えておくことは、生きていくうえでの一つの柱になると考えている。専門総合演習では、まず、自分を振り返り捉えることから始めていき、その材料として過去の若者やその文化との比較をすることで、現在の自分を捉える契機にしていく。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：人間関係はどうあるべきかを考える。</p> <p>第2回 自分史を語ろう（1）</p> <p>第3回 自分史を語ろう（2）</p> <p>第4回 自分史を語ろう（3）</p> <p>第5回 自分史を語ろう（4）</p> <p>第6回 自分史を語ろう（5）</p> <p>第7回 若者文化の変遷を見てみよう・1960年代後半から（1）</p> <p>第8回 若者文化の変遷を見てみよう・1960年代後半から（2）</p> <p>第9回 若者文化の変遷を見てみよう・1960年代後半から（3）</p> <p>第10回 社会の変化と人間関係（1）</p> <p>第11回 社会の変化と人間関係（2）</p> <p>第12回 社会の変化と人間関係（3）</p> <p>第13回 少数者を受け入れる姿勢（1）</p> <p>第14回 少数者を受け入れる姿勢（2）</p> <p>第15回 前期のまとめ・後期「卒業演習」に向けて</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後に学んだことを確認します。次回の授業までに確認しておく。 ・各單元ごとに学んだことを振り返る。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み — 60% ・小レポート — 20% ・期末レポート — 20% 							
参考文献	随時紹介します			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、教員並びに学生の個人のプライバシーにかかわる情報が開示されることが想定されます。授業の中で知り得た個人情報を絶対に外部に流さないこと。これに違反した場合は、単位を認めない。 ・フィールドワークに出ることも検討しています。その場合は、これに要する要する費用は自己負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「遊びの中の学びを分析する」		担当教員	郷 家 史 芸	
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③, ④		担当形態	単独			
テキスト	資料に関しては適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びを観察し、子どもの関心・興味、学びを読み取ることができる。 ・グループディスカッションを通して、互いの意見を共有し、自分の学びにつなげることができる。 ■授業の概要 幼児は遊びの中で疑問を持って試行錯誤したり、興味を持ったことに挑戦したり、友達と意見を交わしたり様々な経験をします。その経験からたくさんの事を学び、成長していきます。保育者は幼児の遊びから興味関心、学びを読み取り、次の援助を検討します。この授業では幼児の遊びの観察を通して、幼児の学びについて考え、分析していきます。							
■授業計画 第1回 遊びの中の学びについて文献を読む 第2回 事例から学びを読み取る① 第3回 事例から学びを読み取る② 第4回 フィールドワーク① 第5回 フィールドワーク①の事例とエピソードまとめ 第6回 エピソードについて発表と意見交換 第7回 エピソードについて発表と意見交換 第8回 フィールドワーク② 第9回 フィールドワーク②の事例とエピソードまとめ 第10回 エピソードについて発表と意見交換 第11回 エピソードについて発表と意見交換 第12回 フィールドワーク③ 第13回 フィールドワーク③の事例とエピソードまとめ 第14回 エピソードについて発表と意見交換 第15回 エピソードについて発表と意見交換							
■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドに出た際に、子どもの遊ぶ姿を写真・動画で撮影し、エピソードとしてまとめてくること。 また、その際に自分の考え、感じたことなどもまとめておくこと 							
■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（積極的な発言、自発的な姿勢等）・・・60% ・授業内のレポート・・・40% 							
参考文献	随時紹介いたします。			特記事項	フィールドワーク等にかかる費用については個人負担となります。 【課題などへのフィードバック方法】 授業内で共有し、コメントさせていただきます。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。						

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「保育における対話とプロジェクトⅠ」		担当教員	古賀琢也	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びについて、自分なりに考察し、記録や対話を通して言語化して行こうとする姿勢を身につける。 ・他者との対話をするために必要な関係づくり、進行、記録、発表についてその役割を理解する。 ・他者との対話を通して、新たな視点への気づきや深まり、その意義を体感する。 <p>■授業の概要</p> <p>保育を学ぶ上で欠かすことのできない「遊ぶ」ということは、誰もが親しんできたことの一方で、捉え所のない一面もあわせ持つ。子どもがその遊びの中で、何に興味や関心をもっているのか、またそれがどのように変化しているのか、そのプロセスを可視化し、共有することで「遊び」への理解を深めていこうとする姿勢を身につけていく。</p> <p>対話に有効な記録方法（ドキュメンテーション）を学ぶとともにカリキュラムや環境をどのように計画（デザイン）していくのかについて、対話（ダイアログ）を大切に考えていく。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 可視化して共有する</p> <p>第2回 対話から考える「遊び」ってなんだろう</p> <p>第3回 プロジェクトアプローチとプロセスの記録①</p> <p>第4回 プロジェクトアプローチとプロセスの記録②</p> <p>第5回 興味・関心の観察をもとにデザインをする①</p> <p>第6回 興味・関心の観察をもとにデザインをする②</p> <p>第7回 環境へアプローチ（環境構成）しよう① 準備</p> <p>第8回 環境へアプローチ（環境構成）しよう② 実施</p> <p>第9回 環境構成、援助への評価、振り返り①</p> <p>第10回 環境構成、援助への評価、振り返り②</p> <p>第11回 プロセスをまとめていく①</p> <p>第12回 プロセスをまとめていく② 伝えるために必要な情報は？</p> <p>第13回 他者に伝える 意見をもらう さらに対話を通して考える</p> <p>第14回 まとめ①</p> <p>第15回 まとめ②</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に際し、指定された資料がある場合は資料を読み、考えをまとめてくること ・調べたこと、学んだことを整理しておくこと <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業・活動への参加の姿勢 — 40% ・レポート — 40% ・まとめのレポート — 20% 							
参考文献	「保育の中のアート」小学館 「レッジョ・エミリア 保育実践入門」北大路書房 「ヴィジブルな保育記録のススメ」すずき出版			特記事項	フィールドワーク等にかかる費用は個人負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートは授業内で共有し、コメント等を加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	保育所、認定子ども園での勤務経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組みの方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行います。						

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「家族理解のためのアセスメント 基本編」		担当教員	佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	③・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦、親子などの縦横の関係に着目して実際の家庭支援に応用できる。 ・家族図（ジェノグラム）の記号と標準的描き方を習得する。 ・虐待、非行、不登校（園）、家族関係悪化などの問題解決の糸口を知る視点を獲得できる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業の基本は家族の構造的な理解にある。虐待、非行、不登校（園）、夫婦関係悪化などと目の前の問題に集中するところがあるが、問題解決には現象の背景を掘り下げなければ、問題の膠着化又は持続化に結び付くこととなる。授業の前半はジェノグラムの記号と標準的描き方を習得することとし、後半は繰り返し、繰り返し学生とディスカッションして家族固有のパターン（関係性）を探ることとする。特に「児童の人権を著しく侵害し、その心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与える」虐待事例などを振り返り、家族構造を理解する。</p> <p>なお、授業の進捗状況等により、若干、内容を変更することもあり得る。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 家族理解の基本① 家族構造論 第2回 家族の基本理解② 家族構造論 第3回 家族理解のためのアセスメント① ジェノグラムの描き方（基本事項） 第4回 家族理解のためのアセスメント② ジェノグラムの描き方（基本標記） 第5回 家族理解のためのアセスメント③ ジェノグラムを描く（事例Ⅰ） 第6回 家族理解のためのアセスメント④ ジェノグラムを描く（事例Ⅱ） 第7回 家族理解のためのアセスメント⑤ ジェノグラムの描き方、ジェノグラムインタビュー（基本編） 第8回 家族理解のためのアセスメント⑥ ジェノグラムの描き方、ジェノグラムインタビュー（応用編） 第9回 家族理解のためのアセスメント⑦ 世代間境界 第10回 家族理解のためのアセスメント⑧ サブシステム 第11回 家族理解のためのアセスメント⑨ パワー 第12回 家族理解のためのアセスメント⑩ 構造的メカニズムの特徴 第13回 三世代の家族理解① フィールドワーク「家族の育った時代背景を知る」 第14回 三世代の家族理解② フィールドワーク「家族の育った時代背景を知る」 第15回 総括</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待、非行、不登校、生活困窮などのニュースに注意して閲読する。 ・必ず復習して課題を明確化する。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、発言内容（意欲） 40% ・課題提出（提出期限厳守） 60% 							
参考文献	厚生労働省雇用均等・児童家庭局「子ども虐待対応の手引き 平成25年8月改訂版」厚生労働省雇用均等・児童家庭局、2013年 M・マクゴールドリック＋R・カーソン＋S・シェレンバガー著／石川元＋佐野祐華＋劉イーリン訳『ジェノグラム（家系図）の臨床』ミネルヴァ書房、2009年（ISBN-13：978-4623050833） 早稲一男「対人援助職のためのジェノグラム入門 家族援助と相談援助に役立つツールの活かし方」中央法規、2016年（ISBN-13：978-4805853603）			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・一部、画像、DVDなどを題材にディスカッションするため積極的発言を期待する。 ・フィールドワークの交通費などは自己負担。 ・授業中の私語、飲食、化粧、電子機器使用などは禁止する。 <p>【課題等へのフィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜レポートの内容に関してコメントする。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。						

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「からだを学ぶ」		担当教員	田 中 葵	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の身体について理解し、説明することができる。 ・生き生きとした身体の動きにつながるあそびの展開について自分なりに考え、グループ内で討議できる。 ・話し合いと実践を通し、からだに関する自分の関心や課題を発見する。 <p>■授業の概要</p> <p>私たち人間の活動は、すべて身体を通して行われています。本授業では、日常生活の身体を観察したり見つめなおしたりしながら、生きていく上で獲得すべき動きや生活がスムーズに送れる動きの巧みさ、賢いからだとは何かを実践しながら話し合い考えます。</p> <p>これらの話し合いや実践を通して、一人ひとりが自分の関心や課題を見つけていくことを目指します。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：私たちと身体の歴史 第2回 姿勢と呼吸を見つめてみよう 第3回 身体感覚を研ぎ澄ましてみよう（1）見る、聞く、触る、感じる 第4回 身体をつくる要素を考えよう（1）食べる、寝る、動く 第5回 身体に対する調査 第6回 人と関わる時の身体に着目してみよう 第7回 実習に向けた課題の確認 第8回 筋肉の緊張と弛緩を味わおう 第9回 日常生活における身体感覚を研ぎ澄ましてみよう（2）課題の探索 第10回 身体をつくる要素を考えよう（2）課題の探索 第11回 各自の調査実践発表 第12回 フィールドワークに向けた事前学習 第13回 フィールドワーク（1）身体のプロフェッショナルを観る 第14回 フィールドワークのふりかえり、各々の課題に向けた話し合い 第15回 フィールドワーク（2）身体のプロフェッショナルを観る</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークや表現活動毎にレポートを提出すること。 ・自身の課題に向けた調査や実践をすること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内及びフィールドワークのレポート — 20% ・授業での取り組み（話し合いや作品創作時の積極的な参加と発言） — 60% ・学園祭に向けた準備への積極的な取り組み姿勢 — 20% 							
参考文献	竹内敏晴「子どものからだことば」晶文社、1989。 近藤充夫「幼児のこころと運動」教育出版、2003。 等、随時紹介する。			特記事項	学外学習に伴う交通費及び参加費用は自己負担となる。 【課題等へのフィードバック方法】 提出されたレポートはコメントをする。また、グループでも共有する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「外国にルーツをもつ子どもⅠ」		担当教員	鶴田真二	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツをもつ子どもが抱える問題について理解し、説明することができる。 ・日本人と外国人とが互いに支え合って生きていくにはどうすれば良いかについて自分の考えを持つことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、外国にルーツをもつ子どもが抱える問題について、日本における外国人の辿ってきた歴史や現状（生活、人間関係、保育・教育、進学、就職等）を取り上げながら、資料や映像を用いて学びます。また、フィールドワークとして、外国人の家庭を訪問します。これらの学習を通して考えたことを整理し、本授業での学習内容を期末レポートとしてまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション：「外国にルーツをもつ子ども」について（1）</p> <p>第2回 「外国にルーツをもつ子ども」について（2）</p> <p>第3回 「外国にルーツをもつ子ども」について（3）</p> <p>第4回 「外国にルーツをもつ子ども」について（4）</p> <p>第5回 「外国にルーツをもつ子ども」について（5）</p> <p>第6回 「外国にルーツをもつ子ども」について（6）</p> <p>第7回 フィールドワーク（1）実施</p> <p>第8回 フィールドワーク（1）ふりかえり</p> <p>第9回 「外国にルーツをもつ子ども」について（7）</p> <p>第10回 フィールドワーク（2）実施</p> <p>第11回 フィールドワーク（2）ふりかえり</p> <p>第12回 「外国にルーツをもつ子ども」について（8）</p> <p>第13回 「外国にルーツをもつ子ども」について（9）</p> <p>第14回 前期のまとめ</p> <p>第15回 前期のまとめ・後期「卒業演習」に向けて</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後に小レポートを作成し、学習内容を整理します。 ・毎フィールドワーク後にレポートを作成し、ふりかえりで用います。 ・期末にレポートを作成し、前期の学習内容をまとめます。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み — 50% ・小レポート — 30% ・期末レポート — 20% 							
参考文献	随時紹介します			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの実施を予定していますが、先方の都合等により回数が増減する、日程変更あるいは中止する場合があります。 ・フィールドワークに要する費用は全て自己負担となります。【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「遊びと保育者の援助について考えるⅠ」		担当教員	由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	前期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の解決すべき課題を見つけることができる。 あそびと「保育環境」についての基本的な理解をもち、説明できる。 保育者として物的環境を整え、人的環境としてはたらくことについて理解し、説明できる。 <p>■授業の概要</p> <p>あそびとあそびに対する保育者の援助について考えます。保育者の間接的な援助（環境をつくる・自ら環境となること）、そして保育者の直接的な援助について？文献？実習での記録からの振り返り等を通して学びます。最終的には、自分で解決すべき課題を見つけ、後期の学びにつなげます。 受講者同士の話し合いを重視します。積極的に取り組む姿勢をもつことを望みます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション あそびについて、これまでの実習から振り返る 第2回 あそびとは何か？ 第3回 プレーパーク見学 第4回 プレーパーク見学の振り返り 第5回 あそびとは何か？ 第6回 あそびと保育環境について 第7回 あそびと保育者のかかわり 第8回 実習記録からの振り返り① 第9回 実習記録からの振り返り② 第10回 あそびをどう読み取るか① 第11回 あそびをどう読み取るか② 第12回 実習園の保育環境について考える 第13回 保育者の援助としての環境構成① 第14回 保育者の援助としての環境構成② 第15回 後期へ向けて一自己課題の設定</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に際し、指定された資料を読み、考えをまとめてくること。 フィールドに出た際に、子どもの遊びへのかかわりのエピソードをまとめてくること。 授業後に、その日の学びを整理すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの状況 — 20% 授業内での話し合いでの発言内容・授業内のレポート — 40% 課題レポート — 40% 							
参考文献	「演習 保育内容総論 子どもの生活・環境・遊びに向き合う」萌文書林 「遊びを中心とした保育」萌文書林 「子どもも保育者も笑顔になる！遊び保育のための実践ワーク」萌文書林 「遊び保育の実践」ななみ書房			特記事項	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポート等には、必要に応じてコメントを書き加えて返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「子どもと芸術Ⅱ」		担当教員	明 石 現	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講 時期	後期
講義概要 ■到達目標 前期「専門総合演習」で見出した課題に対し、実践的芸術表現及び体験を通し、保育に於ける芸術の大切さ、具体的方法を探求し、かつ理解し説明できることを到達目標とする。 ■授業の概要 前期「専門総合演習」で見出した子どもの育みや社会への芸術的関与を実践的な芸術体験、具体的には手話合唱を軸とした「福祉の音プロジェクト」による演奏活動、水俣でのゼミ合宿、フィールドワーク等を通して、個々の学びの定着を図る。 ■授業計画 第1回 「福祉の音プロジェクト」(手話合唱) 第2回 水俣ゼミ合宿① 歴史 第3回 水俣ゼミ合宿② フィールドワーク 第4回 水俣ゼミ合宿③ まとめ 第5回 フィールドワーク①事前学習 第6回 フィールドワーク① 第7回 フィールドワーク①振り返り 第8回 フィールドワーク②事前学習 第9回 フィールドワーク② 第10回 フィールドワーク②振り返り 第12回 卒業レポート作成・まとめ① 第13回 卒業レポート作成・まとめ② 第14回 卒業レポート作成・まとめ③ 第15回 学びの成果発表会 ■準備学習 ・指示した課題を期限内に行うこと。 ・フィールドワークにおける事前学習等、円滑なグループワークの準備、自己練習に取り組むこと。 ■評価方法 ・授業への参加、取り組み姿勢 — 60% ・卒業レポート — 40%							
参考文献	特になし。			特記事項	【ゼミ合宿について】 ・水俣ゼミ合宿5万円程度。その他フィールドワークの入館料、交通費等、各自負担。 【課題等へのフィードバック方法】 ゼミ合宿やフィールドワークを経て卒業レポートを作成し、それに対して教員がコメントを加えます。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「様々な経験を通して考える私の保育観」		担当教員	池谷潤子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たいむで、子ども、保護者、スタッフとの関わることで、子育て支援の内容を理解し、子育て家庭の課題を考える。 ・ゼミでの活動、自分で選択したテーマについてのレポートを作成し、学修の成果としてまとめ、自分の考えを述べることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>後期の卒業演習では学内の子育て支援「たいむ」でのボランティアを個別に行ない、環境整備や行事の準備等を行うことと並行して、自分が興味のあるテーマについての卒業レポート作成をします。</p> <p>ボランティアの際には、子どもの遊び、保護者との関わり、子育て支援における保育者の役割などに視点を置く参与観察をします。また卒業レポートでは、個人の興味に沿ったテーマで文献とフィールドワークの両方からまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 実習のふりかえり 第2回 後期の取り組みについて 第3回 ボランティアとふりかえり① 第4回 卒業レポートについて 第5回 ボランティアとふりかえり② 第6回 たいむの環境整備（室内） 第7回 ボランティアとふりかえり③ 第8回 卒業レポートについての個人発表 第9回 たいむの環境整備（屋外） 第10回 ボランティアとふりかえり④ 第11回 卒業レポートについての個人発表 第12回 卒業レポートについて 第13回 卒業レポートについて 第14回 学びの成果発表会① 準備 第15回 学びの成果発表会② 発表</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で出された課題について、 ・子育て支援での実践について整理し、まとめてくること <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（ワークショップ、グループ活動への積極的な取り組みや発言内容）— 60% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献				特記事項	ボランティアは、授業のない時間帯にたいむに個人で入ります。 【課題等のフィードバック方法】 グループ発表についてはコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「子ども理解 他者理解Ⅱ」		担当教員	伊藤 恵里子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな現場を訪ね、他者の語りを聴き、感じたことや考えたことを言葉にすることができる。 ・他者の合理性を理解することにより、身の周りの社会における問題や必要な支援について考える。 ・卒業レポートにおいて自ら設定した課題について探求し、「その人」の合理性の理解を目指す。 ■授業の概要 <p>本授業では、専門総合演習「子ども理解 他者理解Ⅰ」に引き続き、私たちの身の周りの「他者」について理解しようとすることを目指しています。</p> <p>他者の一見不合理に見える行為が、「その人」にとってどのような意味があるのかについて考えていきます。自分から見ると意味がなく全く理解できないような行為も、当事者にとっては大事な意味を持っていたり、合理的であり、普通のことかもしれません。このように他者の合理性について考えることは、人々が「普通に」暮らすことを支える保育者となるみなさんにとって、最も大事なことの一つです。</p> <p>受講生の関心に基づいてフィールドワーク先を決定し、さまざまな人の話を聴くことを通して、学びを深めていきます。</p> ■授業計画 <p>第1回 オリエンテーション：他者理解の理解</p> <p>第2回 研究計画の発表、フィールドワーク希望先について話し合い</p> <p>第3回 「生活史調査」について学ぶ（応用編）</p> <p>第4回 フィールドワーク①：事前学習</p> <p>第5回 フィールドワーク①：他者の語りを聴く</p> <p>第6回 フィールドワーク①：ふりかえり</p> <p>第7回 フィールドワーク②：事前学習</p> <p>第8回 フィールドワーク②：他者の語りを聴く</p> <p>第9回 フィールドワーク②：ふりかえり</p> <p>第10回 フィールドワーク③：事前学習</p> <p>第11回 フィールドワーク③：他者の語りを聴く</p> <p>第12回 フィールドワーク③：ふりかえり</p> <p>第13回 まとめ：ゼミでの取り組みと学び</p> <p>第14回 ゼミ内での卒業レポート発表会</p> <p>第15回 学びの成果発表会</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・提示された参考資料を読んだ上で授業に臨むこと。 ・提示された課題について調査・検討してくること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの取り組み姿勢 - 30% ・授業内課題 - 30% ・卒業レポート - 40% 							
参考文献	適宜紹介する。			特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 授業内課題等の提出物に対しては、適宜コメントを記入し返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「子どもの姿を捉えるⅡ」		担当教員	井上 裕美子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの選んだ課題を検討し、必要な資料収集・文献調査を行うことができる。 ・フィールドワークの振り返りやグループワークを通して考察を進め、卒業レポートとしてまとめることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>子どもの姿の捉えについて、フィールドワークや振り返り・グループワークを重ねながら考えていきます。前期「専門総合演習」の体験や実習・ボランティアも踏まえて、自らの課題を見つけ、検討していきます。これまでのフィールドワークやグループワークを通して考えたことを整理し、気づきや学びについて卒業レポートとしてまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 専門総合演習の振り返り 課題を見つける 第2回 フィールドワーク（1） 第3回 フィールドワーク（1） 第4回 フィールドワーク（1）振り返り・グループワーク 第5回 フィールドワーク（2） 第6回 フィールドワーク（2） 第7回 フィールドワーク（2）振り返り・グループワーク 第8回 資料収集・文献調査 第9回 卒業レポート作成 第10回 中間発表 第11回 卒業レポート作成 第12回 卒業レポート作成 第13回 ゼミ内での卒業レポート発表 第14回 発表準備・内容の検討 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された資料を読み、自身の見解をまとめる。 ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークやグループワークの取り組み姿勢や発言内容 — 30% ・レポート（提出期限厳守） — 30% ・卒業レポート（提出期限厳守） — 40% 							
参考文献	適宜資料を配布する。			特記事項	フィールドワークの交通費は自己負担とります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポート等には、コメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	保育所や幼保連携型認定こども園での勤務経験を活かし、保育現場の実情と諸課題に触れ、実践的な授業を実施します。						

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「表現する自分を探究する」		担当教員	大澤 ちづる	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門総合演習で見出した自己課題についてフィールドワークを行い、分析、検討することができる。 ・ 音楽劇の実演を通して、豊かな感性や表現力を身につける。 ・ 自分の表現方法、表現力の変化について振り返るとともに、自らの関心や問題意識を踏まえた「表現」や「保育」に関するレポートを作成し、学修の成果としてまとめることができる。 ■授業の概要 <p>前期に引き続き「声・歌う」をテーマに表現する自分を探求します。1つの音楽劇を仲間と一緒に実践、振り返りを繰り返しながら、自らが表現者となる体験を重ねていきます。自分の表現を探求しながら、自身の内面の変化にも焦点をあてていきたいと考えています。保育者が試行錯誤しながら環境を構成し、子どもと向き合い、その日の保育を省察する、これらの保育の営みは、本ゼミのねらいとしている「きいて、みて、やって、考える」という学びの循環と通ずるものがあります。ゼミ活動を通して、自己学習する力や自分への自信につなげて欲しいと思います。希望があれば、特色ある園への見学も行います。</p> ■授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 夏に取り組んだ自己課題の発表① 第2回 夏に取り組んだ自己課題の発表② 第3回 表現活動①（音楽劇全体をつかむ） 第4回 表現活動①を振り返る 第5回 表現活動②（それぞれの役を理解し、表現を考える） 第6回 表現活動②を振り返る 第7回 表現活動③（全体の流れを確認する） 第8回 表現活動③を振り返る 第9回 フィールドワーク（舞台観劇） 第10回 卒業レポートの作成① 第11回 卒業レポートの作成② 第12回 卒業レポートも作成③ 第13回 学びの成果発表会① 企画 第14回 学びの成果発表会② 準備 第15回 学びの成果発表会③ 発表 ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回授業で取り扱う指示された文献等を事前に読み込んでおくこと。 ・ 音楽表現の実践については、与えられた課題を自己練習すること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での取り組み（フィールドワークの準備、実践内容） — 60% ・ 卒業レポート — 40% 							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートにはコメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「他者理解を試みる～当事者とかかわる・当事者になる～」		担当教員	大村 あかね	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
授業概要 ■到達目標 他者への想像力を持ち、当事者としての自分を語れる大人になっていくために、本授業では「当事者」というキーワードを立て、以下のことを目指します。 1. 様々な現場に赴き、そこに居る当事者の語りに謙虚に耳を傾け、その体験世界を知った上で自分の考えを表明することが出来る。 2. 自ら設定したテーマについて探求し、他者の探求していることに興味を持ち、プレゼンテーション、意見交換をすることが出来る。 3. フィールドワークを通して、様々な当事者の置かれている状況や、普段感じている事、考えていることを知り、他者理解の枠組みを広げる。 ■授業の概要 学生が自ら関心を持った現場に、できれば継続して赴き、自らもそこでの活動に参加しながら、そこに居る人々の思いや考えに触れるフィールドワークをします。 学生の関心次第で、どのような形でフィールドワークを行うことになるかは変わってきますが、自らもその現場に赴いて、他者の気持ちになってみる経験をするを重視します。 ■授業計画 第1回 オリエンテーション この授業のねらいについて 第2回 卒業レポートのテーマの明確化 研究計画 FWの希望話し合い 第3回 インタビューの基本について 第4回 フィールドワーク①準備 第5回 フィールドワーク①当事者とかかわる 第6回 フィールドワーク①ふりかえり 第7回 フィールドワーク②準備 第8回 フィールドワーク②当事者と関わる 第9回 フィールドワーク②ふりかえり 第10回 フィールドワーク③準備 第11回 フィールドワーク③当事者と関わる 第12回 フィールドワーク③ふりかえり 第13回 これまでのゼミ全体での取り組みのまとめ 第14回 これまでの個人の取り組みのまとめ 第15回 学びの成果発表会 ■準備学習 ・あらかじめ提示された参考資料は、読んで理解した上で臨むこと。 ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 ■評価方法 ・話し合いへの積極的な参加 — 20% ・フィールドワークふりかえりレポート — 20% ・フィールドワークへのとりくみ、グループ活動での協力姿勢 — 20% ・卒業レポート（提出は必須） — 40%							
参考文献	随時紹介します。			特記事項	・フィールドワークにかかる費用は自己負担となります。 ・卒業レポート、その他レポート等は、全てPCで作成すること。 【課題等へのフィードバック方法】 ・フィールドワークの事前事後学習にかんする提出物については、必要に応じてコメントを記入し、学生に返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「個人を尊重する人間関係を探るⅡ」		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人間関係を振り返ることができる。 ・社会に出たときの人間関係を自分なりに構築する準備をすることができる。 ・個人を尊重する社会のあり方を考えることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>担当教員は、1年次に憲法の学習で個人の尊重を基軸に講義してきた。しかし、「個人」が「尊重」に基づく人間関係あるいは社会の在り方について、私たちは実現できていない。特に情報化社会の中で、個人と個人の関係、社会と個人の関係はより複雑になり、個人を尊重することがより危機に瀕しているとさえ言える。社会に出る前に、個人を尊重するとはどういうことであるかをできるだけ深く考えておくことは、生きていくうえでの一つの柱になると考えている。卒業演習では、専門総合演習を踏まえ、個人を尊重し合う人間関係とはどういうものかを考えていく。さらに、その関係の中での個人のあり方、他社に対する見方や対応の仕方を考えていく。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 専門総合演習の振り返り 第2回 改めて自分史を振り返る。(1) 第3回 改めて自分史を振り返る。(2) 第4回 改めて自分史を振り返る。(3) 第5回 現在の社会における人間関係の特徴を探る。(1) 第6回 現在の社会における人間関係の特徴を探る。(2) 第7回 理想の人間関係を考える。(1) 第8回 理想の人間関係を考える。(2) 第9回 理想の人間関係を考える。(3) 第10回 職場と人間関係 (1) 第11回 職場と人間関係 (2) 第12回 職場と人間関係 (3) 第13回 受講者の人間関係を振り返る。(1) 第14回 受講者の人間関係を振り返る。(2) 第15回 まとめ・社会に出る君たちへ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後に学んだことを確認します。次回の授業までに確認しておく。 ・各単元ごとに学んだことを振り返る。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み — 40% ・小レポート — 20% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	随時紹介します。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、教員並びに学生の個人のプライバシーにかかわる情報が開示されることが想定されます。授業の中で知り得た個人情報を絶対に外部に流さないこと。これに違反した場合は、単位を認めない。 ・フィールドワークに出ることも検討しています。その場合は、これに要する要する費用は自己負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「幼児が夢中になって遊びこむためには？」		担当教員	郷 家 史 芸	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料に関しては適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びを観察し、幼児が夢中で遊びこむための援助を考えることができる。 ・ グループディスカッションを通して、互いの意見を共有し、自分の学びにつなげることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>人間なら誰しも興味を持った遊び・活動・学問などに時間を忘れて夢中になって取り組んだ経験があると思います。幼児も夢中になって遊びこむことによって、遊びの中で得た経験が深い学びとなって成長につながります。では、夢中になって遊びこむために保育者はどうあるべきか？フィールドワークやディスカッションを通して考えていきます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 夢中になることとはどういうことか 第2回 夢中度について 第3回 フィールドワーク① 第4回 フィールドワーク①の事例とエピソードまとめ 第5回 エピソードについて発表と意見交換 第6回 エピソードについて発表と意見交換 第7回 TEM図について 第8回 動画を見ながらTEM図を作成する 第9回 フィールドワーク② 第10回 フィールドワーク②についてTEM図を作成する 第11回 フィールドワーク②についてTEM図を作成する 第12回 TEM図の発表と意見交換 第13回 TEM図の発表と意見交換 第14回 まとめ 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドに出た際に、子どもの遊ぶ姿を写真・動画で撮影し、エピソードとしてまとめてくること。また、その際に自分の考え、感じたことなどもまとめておくこと <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での取り組み（積極的な発言、自発的な姿勢等）・・・60% ・ 授業内のレポート・・・40% 							
参考文献	随時紹介いたします。			特記事項	フィールドワーク等にかかる費用については個人負担となります。 【課題などへのフィードバック方法】 授業内で共有し、コメントさせていただきます。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。						

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「保育における対話とプロジェクトⅡ」		担当教員	古賀琢也	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのテーマや問いを立て、探求し、発表を通して学びを深める。 ・子どもの遊びについて、自分なりに考察し、記録や対話を通して言語化できる ・他者との対話をするために必要な関係づくり、進行、記録、発表についてその役割を理解し、自分から積極的に担っていこうとする ■授業の概要 <p>前期に引き続き、保育の環境や計画（デザイン）のための対話（ダイアログ）、対話のための記録（ドキュメンテーション）を中心に考えを深めていく。自分たちで率先して対話を進行していく姿勢を身につけるとともに、それぞれの興味、関心から保育の中における自分なりの問いを立てていく。各自の問いについて、フィールドワークを行い、探求を深めていく。</p> ■授業計画 <p>第1回 実習を通して見えてきた興味、関心、自分なりの問い 第2回 問いを探求していくために必要な方法を考える 第3回 フィールドワーク① 第4回 フィールドワークの振り返り 第5回 ゼミでの対話 第6回 フィールドワーク② 第7回 フィールドワークの振り返り 第8回 ゼミでの対話 第9回 卒業レポートに向けた準備 第10回 レポートの読み合わせと意見交換① 第11回 レポートの読み合わせと意見交換② 第12回 卒業レポートの作成・まとめ 第13回 ゼミ内での卒業レポートの発表 第14回 発表準備・内容の検討 第15回 学びの成果発表会</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に際し、指定された資料がある場合は資料を読み、考えをまとめてくること ・フィールドノートや調べたこと、学んだことを整理しておく ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークへの取り組み、協力姿勢 — 20% ・フィールドワークの振り返り — 20% ・話し合いへの積極的な参加 — 20% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	「好奇心が育む学びの世界」風鳴舎 「造形あそびー“体験”が感性を育む」風鳴舎 「意味が躍動する生とは何か」世織書房			特記事項	フィールドワークは先方の都合等により日程・時間が変更となることがあります。 フィールドワーク等にかかる費用は個人負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートは授業内で共有し、コメント等を加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	保育所、認定こども園での勤務経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組みの方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行います。						

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「家族理解のためのアセスメント 応用編」		担当教員	佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門総合演習の基礎知識を応用して複雑な家族のジェノグラムを描くことと、三世代以上の家族の縦と横の関係に注目して構造的な問題を読み解く視点を習得して実際の家族援助に応用できる。 ・家族問題解決のためのツールとケースカンファレンスの方法などを理解して実務に活用する。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業は複雑な家族を視覚化することにより問題の背景を掘り下げるとともに、世代、夫婦、親子、同胞などの関係性を理解する。基本は繰り返し、繰り返し事例検討して参加者一人一人の意見を尊重して家族理解の視点を拡充する。また、実際の家族援助には、具体的、実効的、実践的、実務的技術を要するため、家族問題の整理の方法と支援方法を具体化して援助に活用する。</p> <p>なお、授業の進捗状況等により、若干、内容を変更することもあり得る。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討① 第2回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討② 第3回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討③ 第4回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討④ 第5回 家族造形法の実際① 第6回 家族造形法の実際② 第7回 フィールドワーク① 祖父母、親世代の理解 第8回 フィールドワーク② 祖父母、親世代の理解 第9回 ケースカンファレンスの実際① 第10回 ケースカンファレンスの実際② 第11回 ケースカンファレンスの実際③ 第12回 ケースカンファレンスの実際④ 第13回 卒業レポート① 第14回 卒業レポート② 第15回 学びの成果発表会のための整理</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待、非行、不登校、生活困窮などのニュースに注意して閲読する。 ・必ず復習して課題を明確化する。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、発言内容（意欲） 30% ・課題提出（提出期限厳守） 50% ・卒業レポート 40% 							
参考文献	厚生労働省雇用均等・児童家庭局「子ども虐待対応の手引き 平成25年8月改訂版」厚生労働省雇用均等・児童家庭局、2013年 M・マクゴールドリック＋R・カーソン＋S・シェンパーガー著／石川元＋佐野祐華＋劉イーリン訳『ジェノグラム（家系図）の臨床』ミネルヴァ書房、2009年（ISBN-13：978-4623050833） 早樫一男「対人援助職のためのジェノグラム入門 家族援助と相談援助に役立つツールの活かし方」中央法規、2016年（ISBN-13：978-4805853603）			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・一部、画像、DVDなどを題材にディスカッションするため積極的発言を期待する。 ・フィールドワークの交通費などは自己負担。 ・授業中の私語、飲食、化粧、電子機器使用などは禁止する。 <p>【課題等へのフィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜レポートの内容に関してコメントする。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容	児童相談所（区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司）、児童養護施設、児童自立支援施設などの勤務経験を活かして現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を実施する。						

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「からだから学ぶ：関わる、動く、創る」		担当教員	田 中 葵	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ・実践や文献を通してからだについて学び、自分の見解を持ってその意義を述べるができる。 ・人との関係性の中で、共に表現し合う身体について理解し、グループで討議できる。 ・専門総合演習で見出した関心や課題を深め、自分のテーマについて論じることができる。 ■授業の概要 本授業では、身体に視座を置いて、人との関わりについて考えていきます。文献や映像、可能であればフィールドワークを通して、姿勢や表情といった身体行動、身体と心と社会に根ざす身体知、人と共に動き関わることによってつくられる身体について考えていきます。これらの体験をふりかえりながら、人と関わる時の身体知について自分の言葉で語れること、そこから得た視点により自分の目的や課題に向けて取り組むことを目指します。 ■授業計画 第1回 前期のふりかえり、後期に向けてのオリエンテーション 第2回 コンタクト・インプロヴィゼーション 第3回 フィールドワークに向けた事前準備 第4回 フィールドワーク（1） 第5回 フィールドワークのふりかえり 第6回 フィールドワークに向けた事前準備 第7回 フィールドワーク（2） 第8回 フィールドワークのふりかえり 第9回 今までの活動のふりかえり 第10回 卒業レポート作成及びそれに向けた課題について 第11回 各々の課題に向けた検討 第12回 卒業レポートの作成及び個別面談（1） 第13回 卒業レポートの作成及び個別面談（2） 第14回 各卒業レポートの発表 第15回 学びの成果発表会 ■準備学習 ・フィールドワークや活動毎にレポートを提出すること。 ・活動に向けた自己研鑽、グループでの打ち合わせ及び練習をすること。 ・卒業レポートを執筆すること。 ■評価方法 ・授業内及びフィールドワークのレポート — 20% ・授業での取り組み（話し合いや作品創作時の積極的な参加と発言） — 40% ・卒業レポート — 40%							
参考文献	竹内敏晴「からだ語ることば」評論社、1982等、随時紹介する。			特記事項	学外学習に伴う交通費及び参加費用は自己負担となる。 【課題等へのフィードバック方法】 提出されたレポートはコメントをする。また、グループでも共有する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「外国にルーツをもつこどもⅡ」		担当教員	鶴田真二	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の話に耳を傾けることができる。 ・他者の立場から物事を考えることができる。 ・理想とする社会について自分の考えを持つことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、2種類のフィールドワークを実施し、外国にルーツをもつこどもと関わります。具体的には、フィールドワークA（前期と同じ）として、外国人の家庭を訪問します。またフィールドワークBとして、外国にルーツをもつこどもへの学習支援活動に参加します。これらのフィールドワークを通して考えたことを整理し、「理想とする社会」について自分の考えを卒業レポートとしてまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 フィールドワーク事前準備（1） 第2回 フィールドワーク事前準備（2） 第3回 フィールドワークA（1）実施 第4回 フィールドワークA（1）ふりかえり 第5回 フィールドワークB（1）実施 第6回 フィールドワークB（1）ふりかえり 第7回 フィールドワークA（2）実施 第8回 フィールドワークA（2）ふりかえり 第9回 フィールドワークB（2）実施 第10回 フィールドワークB（2）ふりかえり 第11回 フィールドワークA（3）実施 第12回 フィールドワークA（3）ふりかえり 第13回 フィールドワークB（3）実施 第14回 フィールドワークB（3）ふりかえり 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）で考えたことを自分で整理します。 ・毎フィールドワーク後にレポートを作成し、ふりかえりで用います。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）での取り組み — 60% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	随時紹介します			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークABは各3回の実施を予定していますが、先方の都合等により回数が増減する、日程変更あるいは中止する場合があります。 ・フィールドワークに要する費用は自己負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「遊びと保育者の援助について考えるⅡ」		担当教員	由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題について問いつづけ、検討することができる。 保育者として物的環境を整え、人的環境としてはたらく姿勢をもつ。 意図を持ってあそびにかかわることについての理解と姿勢をもつ。 自分のあそびへのかかわりを記録し、それを自分なりに「ふりかえる」ことができる。 ■授業の概要 <p>あそびとあそびに対する保育者の援助について考えます。前期「専門総合演習」での学びを受けて、遊びと保育者の間接的な援助（環境をつくる・自ら環境となること）、そして保育者の直接的な援助について保育現場の見学・保育参加等を通して深めていきます。最終的には、自分の解決すべき課題について卒業レポートにまとめます。</p> <p>受講者同士の話し合いを重視します。積極的に取り組む姿勢をもつことを望みます。</p> ■授業計画 <p>第1回 フィールドワークへ向けて／学びの計画づくり 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク振り返り 第4回 フィールドワーク② 第5回 フィールドワーク振り返り 第6回 フィールドワーク③ 第7回 フィールドワーク振り返り 第8回 フィールドワーク④ 第9回 フィールドワーク振り返り 第10回 フィールドワーク⑤ 第11回 フィールドワーク振り返り 第12回 フィールドワーク⑥ 第13回 フィールドワーク振り返り 第14回 レポート発表・まとめ 第15回 学びの成果発表会</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> 授業に際し、指定された資料を読み、考えをまとめてくること。 フィールドに出た際に、子どもの遊びへのかかわりのエピソードをまとめてくること。 授業後に、その日の学びを整理すること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの状況 — 20% 授業内での話し合いでの発言内容・授業内のレポート — 40% 卒業レポート — 40% 							
参考文献	「演習 保育内容総論 子どもの生活・環境・遊びに向き合う」萌文書林 「遊びを中心とした保育」萌文書林 「子どもも保育者も笑顔になる！ 遊び保育のための実践ワーク」萌文書林 「遊び保育の実践」ななみ書房			特記事項	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポート等には、必要に応じてコメントを書き加えて返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保	教職に関する科目 保育の内容・方法に関する科目		
実務経験のある教員等による授業内容							

